

書誌第104号追

北海道沿岸水路誌

追補第2

令和3年（2021）2月12日発行



Japan Chart 150th

海上保安庁

北海道沿岸水路誌

追補第2

この追補は、平成31年3月刊行の北海道沿岸水路誌の記載事項を更新するもので、令和3年1月22日までに入手した資料を基に編集したものです。

追補は、更新情報を記載した「本文」と、それを検索するため、ページ番号等を記載した「索引」から構成されています。

「索引」については、更新箇所の表題や港名等を記載し、ページ番号順に並べています。

「本文」については、本追補の更新箇所は、灰色背景で赤色文字にて、それ以前の更新箇所は、青色文字にて示しています。

【】で囲んだ内容は、削除や差し替えを行うことを意味しています。

図の挿入等によりページ内に収まらない場合は、水路誌本誌とのページ番号を整合させるため、追補においては、便宜的に枝番号を付しています。

令和3年2月12日

海上保安庁海洋情報部

注 意

海上保安庁は、各国が発布した諸法規、宣言、海図及び水路通報・航行警報並びに船舶等からの視認報告のうち、船舶交通の安全の確保と海洋環境の保全という観点から、航海の安全及び環境保全に影響を与える可能性のある情報については、水路通報及び航行警報により周知するほか、海上保安庁の海図その他の航海用刊行物にも掲載するようにしています。

これらの情報を利用するにあたっては、海上保安庁によるこれらの情報提供は、航海の安全等のための利用を目的としており、その内容は日本政府がこれらの諸法規、宣言等を承認したことを意味するものではない点に留意してください。

表紙：「新印章について」

令和3年、日本の海図の歴史が始まり150年の節目の年を迎えました。新たな歴史を刻む第一歩として、今年から新印章を付した水路図誌の刊行を始めました。

(新規事項を掲載したページは、備考欄に*を表示しています。)

| ページ | 更新箇所(表題、港名等) | 備考 |
|-----|----------------------------|----|
| 7 | 船舶気象通報 | |
| 9 | 海流、潮汐 | * |
| 17 | 参考事項 | * |
| 20 | 定置網・養殖施設等 | * |
| 22 | 日本の船位通報制度 | |
| 23 | AIS導入による船舶の自動識別 | |
| 27 | ウェブページによる情報提供 | |
| 28 | 海の安全情報 | * |
| 30 | 国際航海船舶及び国際港湾施設の保安の確保に関する法律 | |
| 36 | 針路法 | |
| 37 | 針路法 | |
| 51 | 第13回北海道北岸針路法図 | |
| 53 | 北海道西岸 | |
| 61 | 福島港 | |
| 63 | 福島港 | * |
| 64 | 函館港 | * |
| 65 | 函館港 | * |
| 66 | 函館港 | * |
| 68 | 恵山岬～砂埼 | |
| 69 | 恵山岬～砂埼 | |
| 70 | 榎法華湾 | * |
| 73 | 砂原漁港 | |
| 76 | 室蘭港 | |
| 77 | 室蘭港 | |
| 78 | 室蘭港 | |
| 81 | 白老港 | |
| 84 | 苫小牧港 | * |
| 85 | 苫小牧港 | * |
| 86 | 苫小牧港 | * |
| 87 | 苫小牧港 | * |
| 88 | 苫小牧港 | * |
| 96 | 庶野漁港 | |
| 97 | 十勝港 | |
| 100 | 釧路港 | * |
| 101 | 釧路港 | * |
| 102 | 釧路港 | |
| 103 | 釧路港 | * |
| 104 | 釧路港 | * |
| 105 | 厚岸湾 | |
| 108 | 厚岸湾口～浜中湾口 | |
| 113 | 花咲港 | |
| 116 | 瑠瑠瑠水道 | |
| 118 | 納沙布岬～ノッカマップ埼 | |
| 122 | 羅臼港 | * |
| 124 | 羅臼港～知床岬 | |
| 128 | 網走港 | * |
| 129 | 能取岬～ウェンヒラリ岬 | |
| 132 | 紋別港 | * |
| 133 | ウェンヒラリ岬～神威岬 | |

(新規事項を掲載したページは、備考欄に*を表示しています。)

| ページ | 更新箇所(表題、港名等) | 備考 |
|-----|-----------------|----|
| 136 | 宗谷岬付近 | |
| 138 | 宗谷湾 | |
| 139 | 稚内港 | |
| 141 | 稚内港、野寒布岬～天塩港 | |
| 144 | 礼文島 | |
| 148 | 利尻島 | |
| 150 | 鴛泊港 | |
| 151 | 沓形港 | |
| 153 | 天塩港～苫前埼 | |
| 157 | 天売港 | * |
| 158 | 苫前埼～瀬越岬、留萌港 | |
| 159 | 留萌港 | * |
| 160 | 瀬越岬～雄冬岬 | |
| 161 | 瀬越岬～雄冬岬 | |
| 162 | 増毛港 | * |
| 164 | 石狩湾港 | |
| 165 | 石狩湾港 | |
| 167 | 小樽港 | |
| 169 | 小樽港 | |
| 170 | 高島岬～積丹岬、塩谷湾、余市湾 | |
| 173 | 積丹岬～川白岬 | |
| 176 | 寿都湾 | |
| 178 | 弁慶岬～帆越岬 | |
| 180 | 瀬棚港 | * |
| 185 | 久遠湾 | |
| 188 | 大崎～白神岬 | * |
| 190 | 小島 | |
| 193 | 水晶島 | |
| 194 | 勇留島 | |
| 202 | 白糠湾 | |
| 206 | イカバノツ岬～ペルタルベ岬 | |
| 207 | 留別湾、振別錨地、内保湾 | |
| 209 | ペルタルベ岬～潮波鼻 | |

積雪 降雪期間中の初期と終期における積雪は、1、2日で解けるが、本格的になると積雪が全部解けないうちに更に降雪があつて、長期間にわたって積雪が続くようになる。これを根雪といい、北岸及び西岸では根雪期間が120～150日、南岸東部及び東方の諸島で約100日に及ぶが、南岸西部では40日以下の所がある。

積雪の深さは年によって異なり、最深値は北岸及び西岸で200cm、南岸東部及び東方の諸島では100cm以上、南岸西部でも50cm以上となるが、平年値は最多地域で130cm、最少地域では20cm以下である。

気象情報

全般海上警報 気象庁は北西太平洋の100°E～180°E、赤道～60°Nの海域を対象として、全般海上実況・予報・警報を公表している。これらの情報はセイフティネットや漁業気象通報によって放送されている。

また、無線ファクシミリ(JMH)で放送しているものもある。

セイフティネットとは、国際海事機関(IMO)が管理する海上安全情報の国際的な放送システムであり、気象庁は世界の海を21に分けたセイフティネット区域のうち北西太平洋区域の警報と概況及び台風予報を1日4回(0530、1130、1730及び2330(日本時間))、インマルサットCシステムの高機能グループ呼出セイフティネット(EGC Safety NET)により、インマルサット太平洋衛星経由で放送している。これらの定時放送のほか、風速48kn以上の台風が存在するかあるいは24時間以内に予想される場合には、定時放送の3時間後に臨時警報を放送する。

地方海上警報 この水路誌の記載区域及び周辺の海域に係る担当気象台が発表警報は、海上保安庁の海岸局から無線電話、NAVTEX及び漁業無線気象通報により随時及び定時に送信されている。(第8章 海難防止 「海上保安庁の通信業務」 21ページ参照)

天気図等 気象庁が作成した天気図類は、気象庁気象無線模写通報(JMH)により放送されている。

| 呼出符号 | 電波の型式 | 周波数(kHz) |
|------|-------|----------|
| JMH | F3C | 3622.5 |
| JMH2 | | 7795 |
| JMH4 | | 13988.5 |

その他、各種気象情報がNHKラジオ第2放送、共同通信社からのファクシミリ放送などによっても提供されている。

船舶気象通報 沿岸海域を航行する船舶や操業漁船、また、海洋レジャー(プレジャーボート、海釣り等)の安全を図るため、全国各地の主要な岬の灯台等航路標識132か所において、局地的な風向、風速、波、うねり等の気象・海象の観測を行い、その現況を電話、インターネットにより提供している。

船舶気象通報を行う航路標識の名称、気象観測項目等は書誌第411号「灯台表第1巻」に記載してある。

気象官署 この水路誌の記載区域に係る気象官署は、次表のとおりである。

| 管区気象台(電話) | 地方気象台(電話) |
|--------------------------------------|--------------------|
| 札幌 (011-611-0170) 札幌市中央区北2条西18-2 | 函館 (0138-46-2212) |
| | 旭川 (0166-32-6368) |
| | 室蘭 (0143-22-3227) |
| | 釧路 (0154-31-5110) |
| | 網走 (0152-43-4348) |
| *仙台 (022-297-8104) 仙台市宮城野区五輪1-3-5 | 稚内 (0162-23-2678) |
| | *青森 (017-741-7411) |

*印は記載区域外にある気象官署を示す。

海洋速報&海流推測図

URL <https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KANKYO/KAIYO/qboc/index.html>

URL <https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KANKYO/KAIYO/qboc/keitai/index.html> (携帯電話)

5

潮 汐

次記以外の潮汐については、第2編「航路記」又は第3編「沿岸・港湾記」の各関係か所に記載してある。津軽海峡北部では、日潮不等が比較的小さく、1日1回潮となることはまれである。対して、北海道南岸(津軽海峡を除く)及び同東岸では、日潮不等がやや大きく、春と秋の小潮期に1日1回潮となることがあ

10

る。北海道東方の諸島、北海道北岸及び同西岸では日潮不等は大きく、1日1回潮となることが多い。

リアルタイム験潮データ 主な港のリアルタイム験潮データは次のURLにより提供している。

URL <https://www1.kaiho.mlit.go.jp/TIDE/gauge/index.php>

潮 流

15

第2編「航路記」又は第3編「沿岸・港湾記」の各関係か所に記載してある。

海 氷

北海道近海の海氷は、港や沿岸で凍結し、その場所で成長する定着氷(沿岸結氷)と、発生場所から離れて風や海・潮流によって漂流する流氷とに区分される。

20

定着氷(沿岸結氷)

- 1 釧路港から宗谷海峡に至る太平洋側及びオホーツク海側の港や沿岸では、12月下旬頃に結氷が始まり、翌年3月下旬頃までに融解する。
- 2 北海道南岸や宗谷海峡南浜では、数日から2週間程度、根室、網走、紋別などの各港では1か月半から2か月間にわたって船舶の航行が困難となる。
- 3 過去の記録によると、船舶航行の障害日数が80日以上となった主な港は、次表のとおりである。

| 港 名 | 年 | 期 間 |
|-----|--------------|------|
| 紋 別 | 昭和61年(1986年) | 81日間 |
| 網 走 | 昭和59年(1984年) | 83日間 |
| 根 室 | 平成15年(2003年) | 96日間 |

「第一管区海上保安本部統計資料(1981~2010年)」

流氷 主に Sakhalin 東岸で結氷した氷が、風や海流によって運ばれてくるものである。

30

- 1 1月中旬~下旬になると、北海道北岸、国後島北岸及び択捉島北西岸に接近する。初期の流氷は厚さ30~70cmの板氷や砕け氷が流氷帯となって漂流していることが多い。
- 2 1月下旬になると、北岸の全域に接岸するようになり、一部は根室海峡及び国後水道を南下して北太平洋に流出し、また、一部は宗谷海峡に流入して、ときには日本海にも流出する。
- 3 2月中旬~3月中旬頃に、流氷の南下勢力が最大となる。オホーツク海側、国後島北岸及び択捉島北西岸並びに根室海峡の全域は、厚さ1~2mの氷盤が密接した大氷野に覆われるため、船舶は航行困難となる。また、氷野は宗谷海峡に流入後、東寄りの強風が連吹すると日本海に流出し、礼文島、利尻

35

着氷した事例があることから、着氷の発生には水温は直接関係しないようである。

- 3 着氷の恐れのある海域を航行する場合は、針路・速力を調整し、着氷を避けると共に、着氷が始まった時には早めに除氷しなければならない。

5 **着氷予想** 函館地方気象台の報告による、高度 1,500m の 850hPa 解析図を利用した着氷予想方法があるので紹介する。

一般に、着氷は 850hPa 面における -15°C 以下の寒気場の海面で発生するが、特に激しい着氷は、 -18°C 以下の強い寒気内において発生する。したがって、1 日 2 回 (0209、1409) 気象庁からファックス放送で送られる解析図から、針路上の寒気の有無を確認し、 -15°C 以下の寒気場に入ることが予想される場合は、あらかじめ着氷に備えて除氷の手配を整える必要があり、できる限り -18°C 以下の寒気場に入ることを回避するよう努めること。

参考事項 流氷に遭遇する恐れのある海域を航行する際に、流氷の接近を予知するための参考事項は、次のとおりである。

- 15 1 第一管区海上保安本部では、冬季に「海氷情報センター」を開設して、北海道近海の「海氷情報」の作成と速報を行うほか、~~FAX サービス (ポーリング機能: FAX 小樽 0134-32-9301)~~ 及びインターネットによる提供も行っている。

URL <https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KAN1/1center.html>

流氷に遭遇する恐れのある海域に向かう船舶は、必ず同本部又は最寄りの海上保安部署に「海氷情報」を問い合わせ、航海の参考とすること。

なお、航海上支障のある流氷を発見したならば、同センターに通報すること。

- 20 2 遠方に流氷の大集団がある場合には、その上空の低い雲の下面に白色又は黄色の独特の輝き (氷映) を認めることがある。また、雲に黒ずんだはん点やしま模様が映る (水空) こともある。雲のない場合でも、水平線付近をよく注意して見ると、遠方にある大集団の流氷上空は、いくぶん白色又は黄色がかって見えることが多い。
- 3 大流氷帯には霧状の低い雲 (氷煙) のあることが多い。
- 25 4 小さな流氷に遭ったならば、その付近に大流氷帯があるものとして警戒しなければならない。
- 5 航行中に海面が急に穏やかになった場合には、流氷海域が近いものとして警戒しなければならない。
- 6 夜間の流氷を認めることができる距離は、視程、月齢、月の高度、天候及び氷盤の大きさなどによってかなりの差があるが、眼高 3~5m の場合には概ね次のとおりである。

- 30 (1) 月明時 月に向かって 5~7M、月を背にして 1~2M
- (2) 星空 1M
- (3) 暗夜 100m
- (4) 吹雪 50~100m

海 底 線

- 35 海底線の新設・路線の変更及びこれに伴う海上作業などについては、水路通報及び管区水路通報などで周知される。高電圧のかかっている海底線は極めて危険であるので、錨やトロールで海底線を引っ掛けたり、引き揚げてはならない。

定置漁網、養殖施設には、概ね簡易標識が付設されているが、小型で光力も弱いため、視認が困難な場合もあるので注意を要する。これらの定置漁網や養殖施設の設置位置及び期間などは、**海洋状況表示システム（愛称：海しる）**に掲載している。なお、「海しる」に掲載していないもので、船舶の航行に支障を及ぼすものについては、その都度水路通報及び管区水路通報で周知される。

5 ただし、水深約 27m（沖縄県は 15m）以浅の沿岸海域には共同漁業権に基づく刺網、飼付、つきいそ漁業等が多数存在するが、個々の位置が確定していないので、「海しる」には掲載しておらず、水路通報などでも周知されないので注意を要する。

「海しる」URL <https://www.msil.go.jp/>

【表の削除】

10

魚礁 沿岸海域には多数の魚礁があり、これらの設置位置は海図に記載してある。なお、海図に記載されていないもので、船舶の航行に支障を及ぼすものについては、その都度水路通報、管区水路通報で周知される。

15

第 8 章 海 難 防 止

海 難

20

気象条件が過酷で四季を通じて低気圧の来襲が多く、特に冬季の厳寒と北西風、夏季の濃霧は航海を困難にし、その影響による海難が多い。海難の約半数は主要港湾付近を含めた距岸 3M以内において発生している。また、周辺海域は世界有数の好漁場で、年間を通じて多数の漁船が操業しているため、全海難隻数に占める漁船の割合が高く、その中には他の海域に見られない北海道近海特有の気象・海象の影響による着氷や流氷に起因する海難も見られる。

25

冬季の海難は、発達しながら通過する低気圧や強い季節風の影響により、人命、船舶などの喪失を伴う重大な結果になることが多いので、北海道近海、特に日本海及び津軽海峡を航行する船舶は、気象情報に十分注意し、荒天が予想される場合には出港を延期し、また、航行中の場合には荒天準備を早めに行い、早期に避泊地に向かうなど、余裕をもって船舶を運航する必要がある。

海難多発海域 海難多発海域における種別は、次表のとおりである。

| 海 域 名 | 種 別 | 記 事 |
|-------------------------|--------|---|
| 津 軽 海 峡 北 部 (松前～恵山岬) | 乗揚げ、転覆 | 船舶の通航量が多く、海・潮流が強くて沿岸付近では逆流があり、汐首岬付近には激潮がある。春季～夏季は濃霧、冬季は吹雪のため視界不良となることが多い。 |
| 北海道南岸東部 及び東方の諸島 | 乗揚げ、衝突 | 春季～夏季は濃霧の発生が非常に多く、視界を制限され、また、サケ・マス漁場に当たるため漁船の通航量も多く、特に釧路港、花咲港付近では注意を要する。 冬季には太平洋に流出した流氷や、船体着氷に対する注意も必要である。 この海域は北海道沿岸中、海難発生件数が最も多い。 |
| 根 室 海 峡 | 乗揚げ、衝突 | 春季～夏季は濃霧のため視界を制限され、特に野付水道は目標になるものが少なく、浅所が散在して水路の幅が狭いので注意を要する。 冬季の流氷にも注意が必要である。 |

船舶との位置通報のほか、海難に関する通信、天災・地変に際しての非常通信及び専用通信などの海上保安業務の遂行上必要な通信業務を、次の海岸局が行っている。

| 海岸局 | 呼出名称 | 運用時間 | 電 話 |
|-----|-----------|-------|--------------|
| 小 樽 | ほっかいどうほあん | 24 時間 | 0134-27-6172 |
| 塩 釜 | しおがまほあん | 24 時間 | 022-363-0111 |

日本の船位通報制度

- 5 海上保安庁は、日本の船位通報制度(JASREP : Japanese Ship Reporting System) を、次のとおり運用している。

URL <https://www.kaiho.mlit.go.jp/info/jasrep/>

1 制度の概要

| 目 的 | 対象海域内の船舶からの通報によってその動静を把握することにより、当該海域における海難救助の効率化を図る。 |
|---------|--|
| 対 象 海 域 | 北緯 17 度の線以北かつ東経 165 度の線以西の海域 |
| 参 加 船 舶 | 対象海域内にあって、次表に掲げる要領に従い通報を行うことができる船舶 |
| 参 加 方 法 | この制度への参加は、次表に掲げる航海計画を送った時に始まり、最終通報を送った時に終了する。 |

2 通報要領

| 通報の種類 | 通 報 の 時 期 | 主 な 通 報 事 項 |
|---------|------------------------------|---|
| 航 海 計 画 | 対象海域内の港から出発したとき又は対象海域に入域したとき | 船名、識別信号等、出発港及び出発日時又は対象海域に入域した地点及び日時、目的港及び到着予定日時、予定の航路及び速力 |
| 位 置 通 報 | 航海計画又は前回の位置通報から 24 時間以内 | 船名、識別信号等、位置及び日時 |
| 変 更 通 報 | 航海計画を変更したとき | 船名、識別信号等、航海計画の通報事項のうち変更した事項 |
| 最 終 通 報 | 対象海域内の港に到着するとき又は対象海域を出域するとき | 船名、識別信号等、到着港及び到着日時又は対象海域を出域する地点及び日時 |

- 10 注意 (1) 航海の途中で参加を希望するときは、航海計画を通報することにより参加できる。また、航海の途中で参加を終了したいときは、最終通報を通報することにより終了することができる。

(2) 米国の船位通報制度 AMVER 参加船で JASREP への参加を希望する船舶は、AMVER 通報の Y 項目に JASREP と記入すれば自動的に参入することができる。また、JASREP 参加船で AMVER への参加を希望する船舶は、JASREP 通報の Y 項目に AMVER と記入すれば自動的に参入することができる。

- 15 (3) 気象庁に気象通報を行っている船舶については、希望により JASREP の位置通報を省略することができる。この場合、海上保安庁では気象通報を JASREP の位置通報とみなす。

この取り扱いを希望する船舶は、航海計画、変更通報及び最終通報の X 項目に [OBS] を表示すること。

3 通報の方法及び通報先

- 20 無線通信 (海上保安庁の指定海岸局)、電子メール、テレックスによる通報のほか、最寄りの海上保安部署への書面の提出又は、電報、電話による通報も受け付けている。

海上保安庁警備救難部管理課運用司令センター

電子メールアドレス jasrep@jcgcomm.jp

テレックス番号 72 222 5193 JMSAHQ J

AIS 導入による船舶の自動識別

AIS (Automatic Identification System : 船舶自動識別システム) とは、船舶の識別符号、船種、船名、長さ及び幅などの静的情報、位置、針路、速力、船首方位などの動的情報、仕向港、到着予定時刻などの航行関連情報を自動的にVHF帯電波で送受信し、船舶相互間及び船舶局と陸上局の航行援助施設等との間で、情報の交換を行うシステムである。

港則法施行規則第 11 条第 1 項の規定に基づき、進路を他の船舶に知らせるために船舶自動識別装置の目的地的に関する情報として送信する記号を掲載した。(平成 22 年海上保安庁告示第 94 号) (第 10 章 法規 28 ページ参照)

なお、仕向港での進路を示す記号は第 3 編沿岸・港湾記各適用港に掲載した。

詳細は下記 URL を参照されたい。

URL <https://www.kaiho.mlit.go.jp/syukai/soshiki/toudai/navigation-safety/pdf/ri-hu.pdf>

別表第 1

適用港の港コード一覧表 (港名順)

* 入力時 : コード入力前に「>JP」を入力する。

| 港名 都道府県名 | コード | 港名 都道府県名 | コード | 港名 都道府県名 | コード |
|-------------|-----|-------------|-----|-------------|-----|
| 網走 北海道 | ABA | 霧多布 北海道 | KRT | 様似 北海道 | SAM |
| 厚岸 北海道 | AKE | 釧路 北海道 | KUH | 瀬棚 北海道 | STN |
| 青苗 北海道 | AON | 杓形 北海道 | KTG | 寿都 北海道 | STU |
| 伊達 北海道 | DAT | 増毛 北海道 | MSK | 天塩 北海道 | TSO |
| えりも 北海道 | EMM | 松前 北海道 | MTM | 天売 北海道 | TER |
| 江差 北海道 | ESI | 紋別 北海道 | MBE | 十勝 北海道 | TOK |
| 枝幸 北海道 | ESS | 森 北海道 | MOR | 苫小牧 北海道 | TMK |
| 福島 北海道 | FKU | 室蘭 北海道 | MUR | 苫前 北海道 | TJJ |
| 船泊 北海道 | FND | 根室 北海道 | NEM | 浦河 北海道 | URK |
| 羽幌 北海道 | HBO | 雄武 北海道 | OUM | 臼尻 北海道 | USJ |
| 函館 北海道 | HKP | 鬼脇 北海道 | ONW | 稚内 北海道 | WKJ |
| 花咲 北海道 | HNK | 鷺泊 北海道 | OSD | 焼尻 北海道 | YGR |
| 石狩湾 北海道 | ISW | 小樽 北海道 | OTR | 余市 北海道 | YIC |
| 岩内 北海道 | IWN | 羅臼 北海道 | RAU | | |
| 香深 北海道 | KBK | 留萌 北海道 | RMI | | |

回又は随時提供している。

航 行 警 報

NAVAREA XI 航行警報 世界航行警報業務の規定に基づく第 XI 区域(北太平洋西部及び東南アジア海域)に係る船舶交通の安全のために、緊急に通報を必要とする情報をインマルサット静止衛星を利用した EGC システム(高機能グループ呼び出し)により提供(英語)しているもので、専用の自動受信機により情報を入手できる。また、この情報はウェブページでも提供できる。

特に緊急性の高い情報(海底火山活動、機雷漂流、人工衛星等飛行物体の落下、航路障害物の存在等)については、随時送信している。

NAVTEX 航行警報 日本の沿岸約 300M 以内の区域に係る船舶交通の安全に必要な情報のうち、緊急に通報を要するものを NAVTEX 放送により提供しているもので、専用の自動受信機により情報を入手することができる。また、この情報はウェブページ(PC用、携帯電話用)でも提供している。

この水路誌記載区域における放送スケジュールは、次表のとおりである。

| 海岸局 | 識別符号 | 種 別 | 電波の型式・周波数 | 定時放送開始時刻 (JST) |
|-----|------|-----|------------|-------------------------------|
| 釧 路 | K | 日本語 | F1B 424kHz | 0208 0608 1008 1408 1808 2208 |
| | | 英語 | F1B 518kHz | 0240 0640 1040 1440 1840 2240 |
| 小 樽 | J | 日本語 | F1B 424kHz | 0151 0551 0951 1351 1751 2151 |
| | | 英語 | F1B 518kHz | 0230 0630 1030 1430 1830 2230 |

地域航行警報 管区海上保安本部の管轄区域及び海上保安部の担任水域並びにその付近海域を航行する船舶の安全のために、緊急に通報を必要とする情報を、最寄りの海岸局から無線電話で提供(日本語又は英語)している。また、ウェブページ(PC用、携帯電話用)でも提供している。

| 海岸局 | 呼出名称 | 電波型式及び周波数 | 再送信開始時刻(JST) |
|-----|-----------|--------------|---------------------|
| 小 樽 | ほっかいどうほあん | F3E 156.8MHz | 10時25分00秒 16時25分00秒 |

日本航行警報 太平洋、インド洋及びその周辺海域を航行する日本船舶の交通安全のために、緊急に通報を必要とする情報を、ウェブページで提供している。また、(一社)共同通信社の船舶向けファクシミリ放送及び(一社)全国漁業無線協会の漁業無線局からも提供している。特に緊急性の高い情報(海底火山活動、機雷漂流、外国紛争行為、人工衛星等飛行物体の落下、その他船舶に緊急かつ重大な危険を及ぼす恐れのある事項)については、随時ウェブページに掲載している。

ウェブページによる情報提供

水路通報、航行警報及び灯台表第 1 巻追加表は、ウェブページでも入手できる。~~さらに、沿岸海域における航行警報は、携帯電話でも入手できる。~~

水路通報 URL <https://www1.kaiho.mlit.go.jp/TUHO/tuho/nm.html>

航行警報 URL <https://www1.kaiho.mlit.go.jp/TUHO/keiho/navarea11.html>

~~携帯電話 URL <http://www1.kaiho.mlit.go.jp/TUHO/mobile>~~

灯台表第 1 巻追加表 URL https://www1.kaiho.mlit.go.jp/TUHO/shoshi/toudai/j_toudai.html

各管区海上保安本部及び部署等では、航海の安全情報及びイベント等の最新情報をウェブページでも提供している。

海上保安本部等ウェブページ

| | 海上保安本部等 | URLアドレス |
|------|--|---|
| 第一管区 | 第一管区海上保安本部 | https://www.kaiho.mlit.go.jp/01kanku/ |
| | 第一管区海上保安本部海洋情報部 | https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KAN1/ |
| | 備考：第一管区海上保安本部管下の海上保安部（函館、小樽、室蘭、釧路、留萌、稚内、紋別、根室）のウェブページは、第一管区海上保安本部のウェブページにリンクされている。 | |

海の安全情報

海上保安庁では、プレジャーボート、漁船等の船舶運航者や磯釣り、マリンレジャー愛好者の方々に対して、全国各地の灯台等で観測した気象・海象の状況、海難の発生などの緊急に周知する必要がある情報をリアルタイムに提供する「海の安全情報」を全国の海上保安本部等で運用している。

「海の安全情報」では、海上における安全のより一層の向上を目指して、船舶交通の安全のために必要な情報を使いやすく、分かりやすい形に分類、整理し、インターネット及び電子メールを通じて提供している。

URL <https://www6.kaiho.mlit.go.jp/>

第10章 法 規

港則法 港内における船舶交通の安全及び港内の整とんを図ることを目的として定められた法律で、入出港及び停泊、航路及び航法、危険物、水路の保全、灯火などについて定めている。

この水路誌の記載区域内では、函館港においては進路の表示、苫小牧港においては交通整理のための信号・進路の表示、釧路港においてはえい航の制限・進路の表示などそれぞれ特別の規則が定められている。

港湾法 交通の発達及び国土の適正な利用と均衡ある発展に資するため、環境の保全に配慮しつつ、港湾の秩序ある整備と適正な運営を図るとともに、航路を開発し、及び保全することを目的とする。

港湾及び開発保全航路の開発等に関する基本方針、港湾計画等について定めている。

領海及び接続水域に関する法律 我が国の領海は、基線からその外側12Mの線までの海域と定めている。なお、当分の間、対馬海峡東水道、同西水道及び大隅海峡などの特定海域に係る領海については、基線からその外側3Mの線及びこれと接続して引かれる線までの海域と定めている。

接続水域は、我が国の領域における通関、財政、出入国管理及び衛生に関する法令に違反する行為の防止及び処罰のために必要な措置を執る水域として、基線からその外側24Mの線までの海域（領海を除く。）と定めている。

基線は、低潮線、直線基線及び湾口若しくは湾内又は河口に引かれる直線と定めている。

領海等における外国船舶の航行に関する法律 我が国の領海及び内水（以下「領海等」という。）における外国船舶の航行の秩序を維持するとともに、その不審な行動を抑止し、領海等の安全を確保するため、領海等における外国船舶の航行方法、外国船舶の通報義務、外国船舶に対する立入検査及び退去命令等について定めている。

禁止行為：外国船舶は、日本の領海等において、原則として次の行為を伴う航行が禁止されている。

- ・ 停留、錨泊、係留及び徘徊等の行為
- ・ 日本の港湾への出入りを目的としない内水（瀬戸内海等）の航行

ただし、荒天、海難その他の危険を避ける場合、人命、他の船舶又は航空機を救助する場合等やむを得な

署に対して船舶保安情報（当該国際航海船舶の名称、船籍港、直前の出発地、当該国際航海船舶に係る船舶保安証書又は船舶保安証書に相当する証書に記載された事項等）の通報が義務づけられている。この通報は、日本の港に入港する場合のほか、特定海域（東京湾、伊勢湾又は瀬戸内海）に入域する場合にも必要となる。主な港における船舶保安情報の通報先は、次のウェブページで閲覧できる。

5

URL <https://www.kaiho.mlit.go.jp/ope/apply/hoan00.html>

| | | | | |
|---|-------|-----------|------|---|
| 3 | 汐首岬灯台 | 正横約 4.5 M | 110° | 尻屋埼灯台 (41° 25.8' N 141° 27.7' E) の北東方約 4.5Mの地点に向かう。 |
|---|-------|-----------|------|---|

2 津軽海峡東口～津軽海峡西口

(1) 尻屋埼灯台の北東方約 4.5Mの地点から西航する場合

| 変針目標及び概位 | | 変針点及び針路 | | その他 |
|------------|-----------------------------------|------------|------|---|
| 1 | 尻屋埼灯台 | 北東方約 4.5 M | 288° | |
| | ※函館港へ向かう場合 | | | |
| | 尻屋埼灯台 | 北東方約 4.5 M | 290° | 葛登支岬灯台に向首し、大鼻岬(41° 44' N 140° 42' E)の南方約 2Mにて徐々に右転し、函館港に向かう。 |
| 2 | 大間埼灯台 | 正横約 5 M | 254° | 矢越岬灯台に向首する。 |
| | 大間埼灯台 | 正横約 4 M | 234° | 龍飛埼灯台の北方約 4Mの地点に向かう。 |
| ※陸奥湾へ向かう場合 | | | | |
| | 大間埼灯台 | 正横約 4 M | 216° | |
| | 大間埼灯台 | 西方約 4 M | 200° | 平館灯台に向首する。 |
| | 高野埼灯台 41° 13.7' N 140° 32.9' E | 235° に見る | 177° | 湾内各港に向かう。 |
| 3 | ※小樽方面へ向かう場合 | | | |
| | 大間埼灯台 | 正横約 4 M | 247° | 白神岬灯台 (41° 23.9' N 140° 11.8' E) に向首する。 |
| | 矢越岬灯台 | 南南東方約 3 M | 234° | |
| | 白神岬灯台 | 南東方約 2.5 M | | 弁天島(41° 25' N 140° 05' E)～小島(41° 22' N 139° 48' E)間のほぼ中央に向かう。 |

(2) 汐首岬灯台の南方約 4.5Mの地点から西航する場合

| 変針目標及び概位 | | 変針点及び針路 | | その他 |
|-------------|-------|-----------|------|--|
| | 汐首岬灯台 | 南方約 4.5 M | 236° | 龍飛埼灯台の北方約 4Mの地点に向かう。 |
| ※函館港へ向かう場合 | | | | |
| | 汐首岬灯台 | 南方約 4.5 M | 290° | 葛登支岬灯台に向首した後、前記 2 (1) 1 の針路法による。 |
| ※陸奥湾へ向かう場合 | | | | |
| | 汐首岬灯台 | 南方約 4.5 M | 254° | 矢越岬灯台に向首した後、前記 2 (1) 3 の針路法により湾内各港に向かう。 |
| ※小樽方面へ向かう場合 | | | | |
| | 汐首岬灯台 | 南方約 4.5 M | 247° | 白神岬灯台に向首した後、前記 2 (1) 3 の針路法により弁天島と小島のほぼ中央に向かう。 |

5 3 函館港及び陸奥湾～津軽海峡西口及び同東口

前記 1. 及び 2. の各針路法を逆航する。

4 函館港～陸奥湾

気象、潮時、昼夜などを考慮して適宜針路を選定するのがよい。参考のためフェリーの常用航路を記載する。

10 (1) 南航する場合

| 変針点 | | 備考 |
|-----|---|----------------------|
| 1 | 葛登支岬灯台 (41° 44.5' N 140° 36.0' E) から 111° 2.0 M | |
| 2 | 大間埼灯台 (41° 33.3' N 140° 54.7' E) から 270° 13.2 M | |
| 3 | 平館灯台 (明神埼上) から 090° 2.0 M | |
| 4 | 青森港の鼻繰埼 (40° 52' N 140° 50' E) から 274° 4.2 M | 青森港 (沖館) フェリー棧橋に向かう。 |

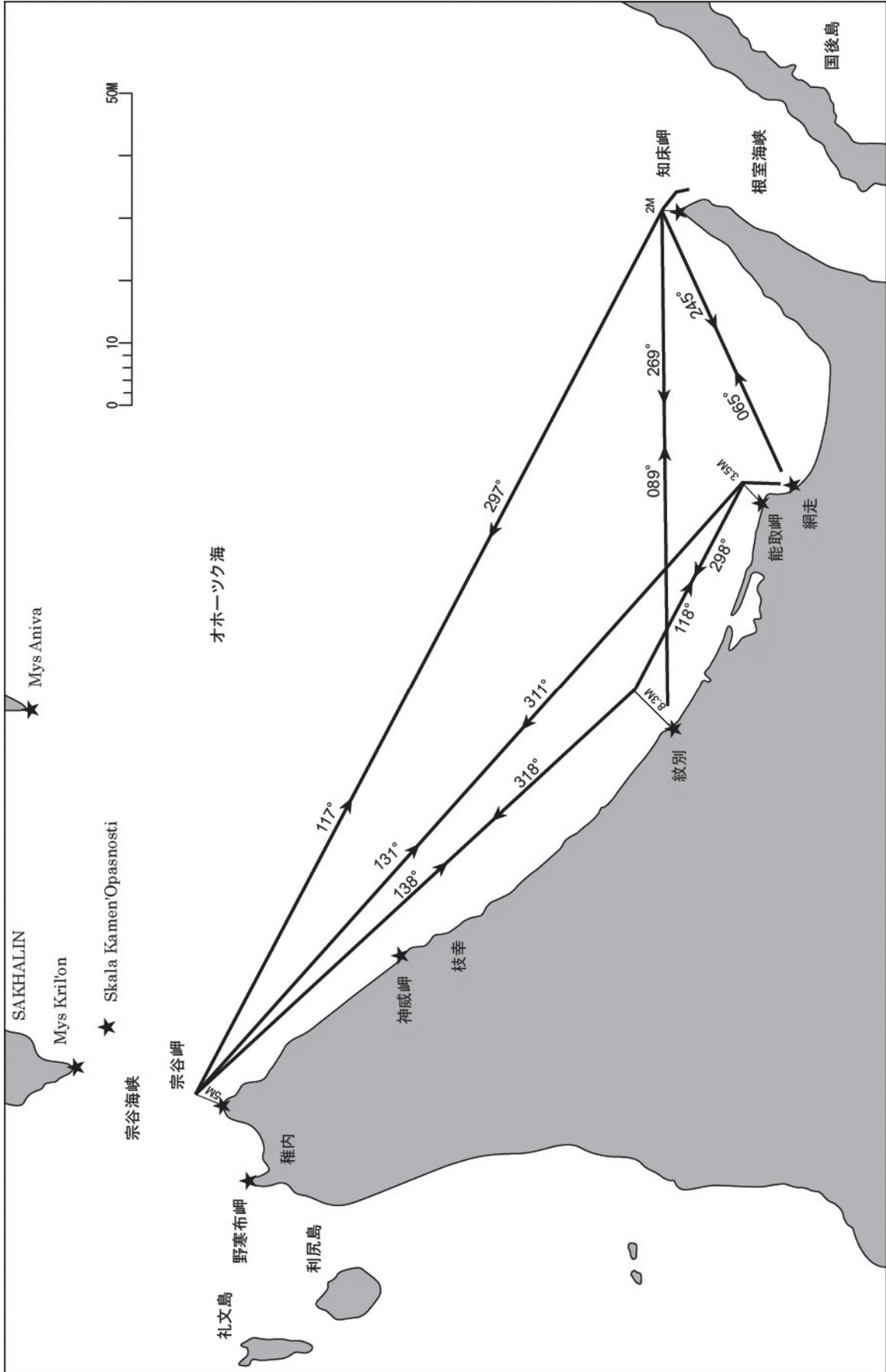
(2) 北航する場合

| | 変 針 点 | 備 考 |
|---|--|----------------|
| 1 | 青森港の鼻線埼から 270° 3.7 M | |
| 2 | 平館灯台（明神埼上）から 090° 3.5 M | |
| 3 | 大間埼灯台から 270° 10.1 M | |
| 4 | 穴澗岬 (41° 45' N 140° 42' E) から 270° 1.1 M | 函館港第1航路入口に向かう。 |

注意

| | |
|-------|--|
| 1 | 津軽海峡内を東航するには、中央部の海潮流本流区域を、西航するには、視界が良ければ沿岸寄りの海潮流反流区域を航行したほうがよい。 |
| 2 | 陸奥湾～函館港の航路など、海潮流本流区域を横断する際には海流の影響を受けることがあるので、当て舵に注意し、圧流に対して針路を適宜修正する必要がある。特に、海峡西口の白神岬～龍飛埼間及び東口の汐首岬～大間埼間では、流れが最も速いので注意を要する。 |
| 3 | 船舶が交差する海域では、他船の動向及び夏季～冬季の操業イカ釣り漁船の動向に注意するとともに、夏季の濃霧及び冬季の吹雪による視界制限時の衝突、乗揚げ、冬季の強風による浸水、転覆には、特に警戒を要する。 |
| 白神岬付近 | 潮流が強いため、0.5M以内に接近しないほうがよい。 西風の強い時には、小範囲であるが高波の起こることがある。 |
| 汐首岬付近 | 本流が突き当たってしばしば激潮を起こし、その範囲は東方約3Mの武井ノ島南方まで広がり、距岸2M以上に及ぶことがある。また、この付近は6月になると本格的な霧の来襲があり、7月には霧日数が15日に達することがある。 |
| 龍飛埼付近 | 急潮と強い渦流があるので、2M以内に接近しないほうがよい。 冬季に季節風が連吹すると三角波が発生し、風速も局地的に増大することがある。 |
| 大間埼付近 | 大間埼から北方へ延びる礁脈上を流れる東流は強く、渦流、急潮、三角波を起こすことがある。 特に、東寄りの風が吹くときに起こることが多い。 |
| 尻屋埼付近 | 海潮流の流向は概して不定で、流れが速いので視界の良いときでもあまり接近しないほうがよい。また、この付近は海難多発海域の一つで、航行船舶も多いので、特に視界制限時には注意が必要である。 |

第13図 北海道北岸針路法図【図の差し替え】



目標

| 地物名 | 概位 | 備考 |
|------------|----------------------|---|
| 宗谷岬 | 45° 31' N 141° 56' E | 岬頂は高さ約50mの台地で、岬端に灯台がある。岬の南方約600mに茶色の風車がある。 |
| 野寒布岬 | 45° 27' N 141° 39' E | 高さ1.5m前後、岬端に稚内灯台、水族館（白色）などがある。 |
| 礼文岳 | 45° 22' N 141° 01' E | 高さ490m、南・北方向から見れば鋭い円すい形で、東・西方向からも遠望顕著 |
| 利尻山 | 45° 11' N 141° 15' E | 高さ1,721m、円すい形の火山で、利尻富士ともいわれる。夏季、北東風時又は、大雨の後には遠距離から全貌が見えるので、船舶が遠く南～西方から宗谷海峡に向かうときの好目標 |
| 石崎 | 45° 09' N 141° 20' E | 低い崎で、崎上の灯台は昼夜間とも非常に顕著、レーダの好目標で、利尻水道を通航する船舶の最良の目標 |
| 焼尻島 | 44° 26' N 141° 25' E | 高さ94mの平らな低い島で、南東端に灯台がある。 |
| 天売島 | 44° 26' N 141° 19' E | 高さ185mの平らな低い島で、北及び南西端に灯台がある。 |
| ピッシリ山 | 44° 21' N 142° 02' E | 高さ1,032m、遠望顕著 |
| 苫前崎 | 44° 19' N 141° 39' E | 崎頂は樹木のない小丘で、丘上に灯台がある。この小丘の海方は急峻ながけで、レーダの好目標 |
| 雄冬岬 | 43° 44' N 141° 20' E | がけの岬で、レーダの非常に良い目標である。また、岬の北側にある滝は、西方からよく見える。 |
| 雄冬山 | 43° 44' N 141° 24' E | 高さ1,198m |
| 暑寒別岳 | 43° 43' N 141° 31' E | 高さ1,491m、増毛山地諸峰中の最高峰 |
| 高島岬 | 43° 14' N 141° 01' E | 岬頂の日和山（高さ44m）上に日和山灯台があつて遠望顕著 |
| 出岬 | 43° 23' N 140° 29' E | 積丹半島の北端で、岬上に灯台がある。 |
| 積丹岬 | 43° 22' N 140° 28' E | がけの岬で、岬頂の高さ120m、岬上にDGPS局及び無線塔（パラボラアンテナ）がある。レーダの好目標 |
| 神威《カムイ》岬 | 43° 20' N 140° 21' E | 細長く突出したがけの岬で、岬頂には樹木はない。岬上に灯台がある。岬から北西方へ約600m間に数個の突岩があり、ほぼ中央にある神威岩（高さ40m）は最も鋭くつがっていて認めやすい。最外方のメノコ岩（高さ10m）は低くて平らな岩である。レーダの好目標 |
| 余別岳 | 43° 16' N 140° 28' E | 高さ1,298m、積丹半島の最高峰 |
| 積丹岳 | 43° 16' N 140° 29' E | 高さ1,255m |
| 羊蹄山〔蝦夷富士〕 | 42° 50' N 140° 49' E | 高さ1,898m |
| 弁慶岬 | 42° 50' N 140° 11' E | 寿都湾口西角、黒色の低い岩の岬で、岬端に灯台があつて好目標となる。レーダでも顕著。付近に無線塔がある。 |
| 茂津多《モッタ》岬 | 42° 37' N 139° 49' E | 険しいがけ（赤色）の岬、岬上は200～300mの台地で、その北部に灯台がある。 |
| 稲穂岬 | 42° 15' N 139° 33' E | 奥尻島の低い岬で、岬上に灯台がある。灯台の南方約150mにある円い小丘、同灯台の北方約200mにゴメ崎（高さ約22mの大きな岩）がある。 |
| 神威山 | 42° 10' N 139° 27' E | 奥尻島にある高さ584mの鋭頂で非常に顕著、山頂にレーダドーム（薄青色）と2無線塔がある。 |
| 遊楽部《ユラップ》岳 | 42° 13' N 140° 01' E | 高さ1,276m、遠望顕著 |
| 大島 | 41° 31' N 139° 21' E | 高さ732mの楕円形の火山島で、通称を松前大島という。島の南西側に松前大島灯台がある（190ページ参照）。 |
| 小島 | 41° 22' N 139° 48' E | 小さな火山島で、通称を松前小島という。島の北東側に灯台がある（190ページ参照）。 |
| 弁天島 | 41° 25' N 140° 05' E | 陸続きの小島で、島上に松前灯台がある。灯台の北方約450mにある2無線塔及び灯台の北北西方約1.7kmにある煙突は好目標 |

福島港 (41° 29' N 140° 16' E) (海図W1159) (JP FKU)



港種 港則法適用港

5 **概要** 白神岬の北北東方約 5.5Mにある港である。外東防波堤が整備されたことから北東風の影響が少なくなり、東～南東風の強吹時にもほとんど影響を受けない。

防波堤外は西～北風を防ぐ好錨地で、避泊する船舶が多い。港内は 7～12 月のイカ漁期には 100 t 以下の漁船で混雑する。

目標

| 地物名 | 概位 | 備考 |
|-----|--------------------------|---------|
| 丸山 | 41° 29.6' N 140° 16.8' E | 高さ 308m |

10

針路法 福島港外東防波堤灯台 (41° 28.6' N 140° 15.8' E) を 335° に見る線の東側を航行すれば、沿岸付近の暗礁を避けられ、港の東、南方にある各種養殖施設に十分注意し、福島港外東防波堤灯台に向首して港口に接近する。

15 **錨地** 北防波堤から東南東方約 700mの水深 12mの所が錨地に適しているが、この錨地の東方は、北西風の強吹時には北方からの吹降ろしが相当激しいことがあるので、できるだけ丸山寄りに錨泊したほうがよい。

港外の錨地は、津軽海峡西口から大きなうねりが侵入することがあるので、注意する必要がある。

港湾施設

| 名称 | 概位 | 長さ (m) | 水深 (m) | 係船能力 (D/W×隻) | 備考 |
|---------|--------------------------|--------|--------|--------------|----|
| -4m岸壁 | 41° 28.8' N 140° 15.5' E | 205 | 4 | — | |
| -4.5m岸壁 | 41° 28.7' N 140° 15.5' E | 153 | 4.5 | — | |
| -3.5m岸壁 | 41° 28.6' N 140° 15.4' E | 延長 350 | 3.5 | — | |
| -3.5m岸壁 | 41° 28.5' N 140° 15.6' E | 115 | 3.5 | — | |
| -3m岸壁 | 41° 28.5' N 140° 15.5' E | 158 | 3 | — | |
| -5m岸壁 | 41° 28.5' N 140° 15.6' E | 140 | 5 | — | |

目標

| 地物名 | 概位 | 備考 |
|-------|--------------------------|---|
| シーバース | 41° 48.1' N 140° 39.3' E | 太平洋セメントシーバース、シーバース灯（レーダー反射器・モータサイレン各付設）と北西方対岸の工場との間にベルトコンベアが架設してある。 付近に浮標が多数設置してあり、沖合から好目標 |
| 7 煙 突 | 41° 49.2' N 140° 37.9' E | 各灰色、常時白煙を上げ遠望顕著。また、工場内の灯火は夜間の好目標となる。 |
| タンク群 | 41° 49.4' N 140° 42.0' E | コスモ石油函館物流基地内 |
| 函館山 | 41° 45.6' N 140° 42.3' E | 最高所を御殿山（高さ 333m）といい、山頂付近にテレビ中継塔などの目標物があり、各方向から昼夜とも顕著 |
| 無線塔 | 41° 44.9' N 140° 42.3' E | JR 無線中継所、白色、屋上にパラボラアンテナがあり、白灯を点ずる。 |

注意 冬季の北西風の際、上磯方面で雪が降り出すと、入港するころには吹雪となり、航行が困難になることがあるので、入港船は天候に注意して、太平洋セメント上磯工場の煙突（41° 49' N 140° 38' E）又は灯火が見えないときは、入港を一時見合わせるのがよい。

海難 湾内で風や波による海難が発生したのは極めてまれであるが、かつて、昭和 29 年 9 月の台風 15 号の来襲により、旧国鉄青函連絡船「洞爺丸」（3,898t）など 6 隻が沈没又は座礁して、多数の死傷者を出したことがあった。

錨地 入港を一時見合わせる場合の錨地としては、函館港外太平洋セメントシーバース灯（41° 48.1' N 140° 39.3' E）から 135° **1.5M（水深 20m、底質泥、石）** 付近が適当である。

函館湾対景図

南方から函館湾を望む



函館港 (41° 48' N 140° 42' E) (海図W6) (JP HKP)



港種 特定港、開港、検疫港、出入国港、植物防疫の港、重要港湾

5 **概要** 函館湾の東側にある港湾で、函館湾の東側を占める港域内は、第1区～第6区の6港区に分かれ、北及び南の2航路が定められている。第6区東側に函館漁港がある。

港域内の大部分は10mより深く、錨かきも概ね良く、主な岸壁の水深は7～11mであり、カーフェリー及び漁船の出入りが極めて多い。

潮汐 この港における平均高高潮は0.9m、平均低低潮は0.2m、平均水面は0.57mである。

10 **副振動** この港には、46～58分及び約23分を周期とする海面の昇降があり、その昇降はしばしば50cmに達することがある。

海水 1880年、1918年、1919年、1939年、1951年の冬季に、岸近くでやや顕著な結氷が視認されたことがあるが、近年結氷のために海上交通に支障をきたすようなことはほとんどない。

目標 【塔を削除】

| 地物名 | 概位 | 備考 |
|-----|--------------------------|--------------------|
| サイロ | 41° 47.2' N 140° 43.6' E | |
| 著屋 | 41° 47.0' N 140° 43.5' E | 港湾合同庁舎、5階建 |
| 著屋 | 41° 46.4' N 140° 43.3' E | 函館市青函連絡船記念館摩周丸 |
| 無線塔 | 41° 46.4' N 140° 44.4' E | 高さ98m、赤白塗、パラボラアンテナ |

15

通信 船舶と港長との間で、「ほっかいどうほあん」を介しVHF無線電話による港務通信ができる。

| 呼出名称 | 周波数(呼出・応答/通信) | 運用時間 | 連絡先 |
|---|---------------|------|---------|
| ほっかいどうほあん HOKKAIDO COAST GUARD RADIO | ch16/12 | 常時 | 函館海上保安部 |

水先 函館水先区水先人会に要請する。(第1編 総記 第6章 水先、14ページ参照)

入港上の注意 入港上注意すべき事項は次のとおりである。

20 1 カーフェリー及び漁船の出入りが極めて多い。北ふ頭から発着するカーフェリーは、出入港とも南航路を通り、津軽海峡フェリー棧橋から発着するカーフェリーは、入港は南航路を、出港は北航路を通るのを通例としている。

- 2 **南航路**の両側にある函館港北防波堤灯台及び函館港西副防波堤灯台の灯光は、夜間背後の市街地の灯火に紛れて非常に見えにくい。
- 3 冬季、北西風中の吹雪の際には、視界が極端に悪くなって航泊上支障を来す場合があるので、十分注意を要する。
- 4 「緑の島」の陰から出港するプレジャーボートには注意を要する。

5

港則 港則法施行規則第 11 条の規定による進路の表示

| 条 文 | 進路を示す記号 | 信 号 | 信 文 |
|---|---------|----------------------------------|---|
| 船舶自動識別装置の目的地に関する記号（平成 22 年海上保安庁告示第 94 号）及び進路表示信号（平成 7 年海上保安庁告示第 35 号） | 1 | 2代・1 | 第1区の係留施設に向かって航行する。 |
| | 2E | 2代・2・E | 第2区の万代ふ頭正面岸壁から若松ふ頭岸壁に至る間の係留施設に向かって航行する。 |
| | 2W | 2代・2・W | 第2区の弁天A岸壁から函館どつく第4岸壁に至る間の係留施設に向かって航行する。 |
| | 3 | 2代・3 | 第3区の係留施設に向かって航行する。 |
| | 4N | 2代・4・N | 第4区のコスモ石油栈橋ドルフィンから港町係船くいに至る間の係留施設に向かって航行する。 |
| 4S | 2代・4・S | 第4区の港町ふ頭から北ふ頭に至る間の係留施設に向かって航行する。 | |

航泊制限 引火性危険物積載タンカーの引火による事故を防止するため、一般船舶は、港内に停泊中の同タンカー（タンク船を含む）から 30m以内の海面に立ち入ることが禁止されている。なお、同タンカーは、港内停泊中、夜間においても容易に視認しうる「引火性危険物積載中」の垂れ幕を掲げている。

10

錨地 検疫錨地は、第6区にある。危険物積載船は第4区～第6区に錨泊しなければならない。

第1、3、5区の錨地の状況は、次表のとおりである。

| 港 区 | 錨 地 の 概 要 |
|-----|--|
| 1 | 底質は概ね泥で、錨かきはあまり良くないという。南東～北西風時には、当港区内は最も良い。 |
| 3 | 第2航路の東側は、底質泥で錨かきはあまり良くないという。北西風の強吹時に走錨した船舶がある。 |
| 5 | シーバース、係船浮標及び海底管があり、また、航路筋に当たるため錨泊余地が限定される。 |

港湾施設

| 名 称 | 概 位 | 長 さ (m) | 水 深 (約m) | 係船能力 (D/W×隻) | 備 考 | |
|-----------|--------------------------|--------------------------|----------|--------------|----------|--|
| 港町ふ頭 A 岸壁 | 41° 47.9' N 140° 42.8' E | 280 | 14 | 50,000×1 | | |
| 港町ふ頭 B 岸壁 | 41° 48.1' N 140° 42.7' E | 240 | 12 | 30,000×1 | | |
| 北ふ頭 | A 岸壁 | 41° 47.9' N 140° 43.1' E | 51 | 3.5 | 700×1 | |
| | B 岸壁 | 41° 47.8' N 140° 43.2' E | 330 | 4.5～5 | 2,000×3 | |
| | 北側岸壁 | 41° 47.7' N 140° 43.2' E | 130 | 5～7 | 5,000×1 | |
| | 南側岸壁 | 41° 47.6' N 140° 43.2' E | 90 | 4.5 | 2,000×1 | |
| 万代ふ頭 | 北側第1岸壁 | 41° 47.3' N 140° 43.5' E | 130 | 7.5 | 5,000×1 | |
| | 北側第2岸壁 | 41° 47.3' N 140° 43.6' E | 90 | 3～5.5 | 2,000×1 | |
| | 正面岸壁 | 41° 47.2' N 140° 43.4' E | 185 | 9.5～10 | 15,000×1 | |
| | 南側第1岸壁 | 41° 47.2' N 140° 43.5' E | 130 | 7.5 | 5,000×1 | |
| | 南側第2岸壁 | 41° 47.2' N 140° 43.6' E | 90 | 2.5～5.5 | 2,000×1 | |
| 海岸町船だまり岸壁 | 2号船だまり第1岸壁 | 41° 46.8' N 140° 43.5' E | 70 | 5 | 1,000×1 | |
| | 2号船だまり第2物揚場 | 41° 46.7' N 140° 43.5' E | 200 | 4.5 | 50GT×5 | |
| | 4号船だまり第1岸壁 | 41° 46.8' N 140° 43.4' E | 210 | 5 | 100GT×4 | |
| | 4号船だまり第2岸壁 | 41° 46.7' N 140° 43.4' E | 150 | 5 | 100GT×3 | |
| | 4号船だまり第3岸壁 | 41° 46.8' N 140° 43.4' E | 210 | 5 | 100GT×4 | |
| | 4号船だまり南側岸壁 | 41° 46.6' N 140° 43.4' E | 190 | 6.5 | 500GT×2 | |
| | 4号船だまり正面岸壁 | 41° 46.7' N 140° 43.3' E | 270 | 6.5 | 500GT×4 | |

| | | | | | | |
|--------------|--------|--------------------------|-----|---------|------------|---------------------|
| 中央 ふ 頭 | 北側第1岸壁 | 41° 47.0' N 140° 43.4' E | 171 | 7.5~8 | 10,000×1 | 正面岸壁に 接続 |
| | 北側第2岸壁 | 41° 47.0' N 140° 43.5' E | 165 | 7.5~8 | 10,000×1 | 合同庁舎並 びの位置 |
| | 北側第3岸壁 | 41° 47.1' N 140° 43.6' E | 90 | 2.5~5.5 | 3,000×1 | 陸側E・M 荷役設備あ り |
| | 正面岸壁 | 41° 47.0' N 140° 43.3' E | 133 | 6~7 | 1,000×1 | |
| | 南側岸壁 | 41° 46.9' N 140° 43.4' E | 133 | 7~8 | 7,000×1 | |
| 若松ふ頭岸壁 | | 41° 46.4' N 140° 47.3' E | 360 | 9 | 90,000GT×1 | |
| 豊川ふ頭岸壁 | | 41° 46.2' N 140° 43.2' E | 530 | 4~5 | 1,000×7 | |
| 西 ふ 頭 | D区岸壁 | 41° 46.4' N 140° 42.7' E | 140 | 3 | 1,000×2 | |
| | E区岸壁 | 41° 46.5' N 140° 42.7' E | 165 | 9 | 10,000×1 | |
| | F区岸壁 | 41° 46.5' N 140° 42.6' E | 105 | 6.5 | 3,000×1 | |

係船浮標——第2区に1個の係船浮標（係船能力10,000 D/W）がある。

最大入港船舶 1985年5月28日、タンカー 日石丸（184,855 t、喫水7.0m）が函館どつく（株）に入渠した。

台風・津波対策 台風・津波等による海難事故を防止するため、渡島及び檜山地区台風・津波等対策協議会が設置されており、在港船舶などに対し、情報の伝達及び警戒体制・避難・入港制限の勧告・解除等の災害防止措置を指導している（問合わせ先：函館海上保安部 TEL 0138-42-5658）。

海事関係官公署

| 官公署名 | 連絡先 | 官公署名 | 連絡先 |
|--------------|----------------------------|----------------------|--------------|
| 函館海上保安部（港長） | 0138-42-5658 | 横浜植物防疫所札幌支所 函館出張所 | 0138-42-6671 |
| 函館税関（本関） | 税関相談官 0138-40-4261 | 札幌出入国在留管理局 函館出張所 | 0138-41-6922 |
| 北海道運輸局函館運輸支局 | 0138-49-9901 | 函館市港湾空港部 ふ頭管理事務所 | 0138-41-3543 |
| 小樽検疫所函館出張所 | 函館空港出張所へ連絡 0138-59-0248 | | |

引船 大型船用の引船がある。

通船 通船があり、第2区の海岸町船だまりから発着する。

補給 給水船及び給油船による補給ができる。

修理施設

| 造船所名 | 電話番号 | 造船所名 | 電話番号 |
|--------|--------------|-------|--------------|
| 函館どつく株 | 0138-22-3111 | 函東工業株 | 0138-42-1256 |

廃油処理施設

| 事業者名 | 申込先 | 利用時間 | 処理する廃油の種類 | |
|------|--------------|-----------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| | | | 廃重質油 | 廃軽質油 |
| テクノ | 0133-64-5222 | 0830~1800 | ビルジ、水バラスト、タンク洗浄水、コレクトオイル、スロップオイル、スラッジ | ビルジ、水バラスト、タンク洗浄水、コレクトオイル、スロップオイル、スラッジ |

恵山岬付近



恵山岬付近対景図

東方から恵山岬を望む



注意 立待岬 (41° 44.7' N 140° 43.4' E) の北東方約 2.3Mの海岸から南方へ約 2.2M延びる海底管 (汚水放流用) があり、陸岸寄りに敷設方向を示す 4 浮標が設置してある。

10 立待岬の東方約 6Mの汐泊川河口付近から南方へ延びる海底線が 4 本ある。この海底線至近では、磁針偏差に異常が見られる。

恵山岬～砂 埼 (海図W10)

概要 恵山岬～砂埼 (42° 08.3' N 140° 42.4' E) の約 30M間は、山の裾野が海に迫ってほとんど平地がなく、南に恵山、北に駒ヶ岳の活火山がある。海岸は単調で出入りが少ない。この沿岸の大部分にわたり、海岸に沿って道路が走っており、道路下はがけ又は幅の狭い砂浜の所が多い。

この区域の 20m等深線は、出来瀬崎付近を除き概ね距岸 1M以内にある。

恵山岬と銚子岬との間に、榎法華湾がある。

20 銚子岬～尾札部漁港 (41° 54' N 141° 01' E) の約 7M間の海岸は、火山岩が海に延びるか又は海食による険しいがけで、前面には礁脈が広がって延びており、その外側は急深である。

尾札部漁港～臼尻港 (41° 56' N 140° 57' E) の約 4M間は台地が続き、概ね砂浜である。

臼尻港～鹿部漁港 (42° 02' N 140° 50' E) の約 8M間はなだらかな山裾が海岸まで続き、丘陵の外端が海中に延びて広い礁脈を成す所がある。

25 出来瀬崎付近 (42° 05' N 140° 48' E) から北西方は駒ヶ岳の裾野で、海岸は低い海食のがけが続いており、砂埼付近は砂浜である。

この区域の 20m等深線は、出来瀬崎付近を除き概ね距岸 1M以内にある。

榎法華湾には、榎法華港 (41° 49' N 141° 10' E) (避難港) がある。

目標

| 地物名 | 概位 | 備考 |
|---------------|--------------------------|--|
| 銚子岬 | 41° 51.1' N 141° 09.0' E | 高さ155mの険しいがけの岬、レーダの好目標 |
| 丸山 | 41° 51.1' N 141° 05.5' E | 高さ691mのとがった山で、恵山とともに東方から恵山岬に向かう船舶の初認目標となる。 |
| ポンキナオシマル山 | 41° 51.8' N 141° 02.8' E | 高さ578m、形が丸山によく似ており、北西～北方から見ると、ほぼ同形の2山が並んで見える。 |
| 三森山 | 41° 53.1' N 140° 52.5' E | 高さ842m |
| 横津岳 | 41° 56.3' N 140° 46.3' E | 高さ1,167m、頂上付近に4無線塔がある。 |
| 出来澗 《デキマ》埼 | 42° 04.6' N 140° 48.1' E | 岩のがけ、内方に低い丘が続き、西方にあるホテル（白色）が顕著 |
| 松屋埼 | 42° 07.0' N 140° 45.7' E | がけの埼、遠望は出来澗埼に似ているが、埼端のがけの傾斜がやや急であるので識別できる。 |
| 駒ヶ岳 | 42° 03.8' N 140° 40.6' E | 高さ1,131mの孤立するほぼ円すい形の活火山で、遠望顕著。北方から望めば砂原岳が美しい富士山形になり、東又は北西方から見れば2鋭峰に分かれる。 |
| 砂埼 | 42° 08.3' N 140° 42.4' E | 平らな海中に突出した砂洲で、埼端の内方約400mに灯台がある。 |

航行上の注意 臼尻港～砂埼間では、暗礁に乗り揚げの事故が後を絶たない。特に、鹿部漁港沿岸付近では、距岸1Mで暗礁に乗り揚げた事例がある。沿岸航行又は沿岸付近に避泊する船舶は、この間の海岸に、

5

錨地 船舶は西寄りの強風時には、内浦湾口の横断（小型船は恵山岬～出来澗埼間の沿岸に接近し、出来澗埼から内浦湾口を横断して室蘭港に向かうものが多い）が困難なため、出来澗埼又は松屋埼の東側に錨泊して荒天の回復を待つという。しかし、出来澗埼の北西方約1.2M、距岸約0.6Mに水深4.6mの暗礁があり、これから出来澗埼沖にかけて陰礁が多いので、陸岸にあまり接近しないようにしなければならない。

10

楸法華《トドホツケ》湾 (41° 50' N 141° 10' E) (海図W1159)

(2017年10月撮影)

- 5 **概要** 恵山岬とその北西方約3Mの銚子岬との間にある開湾で、湾奥に**楸法華港**(41° 49' N 141° 10' E) (避難港)がある。この湾は、西寄りの風を避けることができるため、強風時には船舶の避泊地となる。しかし、背後の海向山(高さ569m)と丸山(高さ691m)との間が低いため、時々猛烈な西寄りの風が吹き降ろすことがあるので注意を要する。

錨地 楸法華湾奥の中央から約0.8M張り出す養殖施設及び南北両側にある定置網に、注意を要する。

砂原《サワラ》漁港 (42° 08' N 140° 41' E) (海図W17)



(2017年8月撮影)

概要 砂埼(目標の項参照)の南西方約1.2Mにある港である。漁港周辺は南風を避ける良い錨地で、避泊地としても良い。また、船だまり内は東のうねりが侵入することもあるが、風波の影響をほとんど受けない。

目標

| 地物名 | 概位 | 備考 |
|-----|--------------------------|--|
| 駒ヶ岳 | 42° 03.8' N 140° 40.6' E | 高さ1,131mの孤立するほぼ円すい形の活火山で、遠望顕著。北方から望めば砂原岳が美しい富士山形になり、東又は北西方から見れば2鋭峰に分かれる。 |
| 砂埼 | 42° 08.3' N 140° 42.4' E | 平らな海中に突出した砂洲で、埼端の内方約400mに灯台がある。 |
| 灯台 | 42° 07.8' N 140° 41.3' E | 砂原港北外防波堤灯台 |

針路法 出入港は容易であるが、東方又は西方から入港する場合は、それぞれ砂埼又は度杭埼外方の浅水域を避けるため、距岸1M以上の沖合から接近する。

また、距岸2M以内のコンブ及びホタテ貝などの養殖施設には注意を要する。

錨地 船だまりの外方の距岸約800mでは水深が約10m、底質泥で錨かきが良い。

港湾施設

| 名称 | 概位 | 長さ(m) | 水深(m) | 係船能力(D/W×隻) | 備考 |
|---------|--------------------------|-------|-------|-------------|----|
| -3m岸壁 | 42° 07.7' N 140° 40.9' E | 150 | 3 | — | |
| -3m岸壁 | 42° 07.7' N 140° 41.1' E | 延長465 | 3 | — | |
| -3m岸壁 | 42° 07.6' N 140° 41.1' E | 389 | 3 | — | |
| -3.5m岸壁 | 42° 07.6' N 140° 40.9' E | 164 | 3.5 | — | |
| -4m岸壁 | 42° 07.6' N 140° 41.2' E | 72 | 4 | — | |
| -5m岸壁 | 42° 07.6' N 140° 41.3' E | 76 | 5 | — | |

室蘭港 (42° 21' N 140° 58' E) (海図W16) (JP MUR)



(2017年8月撮影)

港種 特定港、開港、検疫港、出入国港、家畜検疫の港、植物防疫の港、国際拠点港湾

- 5 **概要** 内浦湾の東側にある港で、港域内は第1区～第3区の3港区及び航路に分かれている。この港は幅約1～2M、湾入約4Mの天然の良港であるが、港口が北西方に開いており、また、港の東側が低い平地のため、西風の強吹時には港内でもかなり波立つ。

タンカー及び鉱石船などの入港が多く、貨物取扱量は道内第2位で苫小牧港に次いでいる。

強風は冬季(11月～翌年2月)に集中し、西寄りの風速10m/s以上の日は、月平均10～15日以上に及ぶ。

- 10 **潮汐** この港における平均高高潮は1.4m、平均低低潮は0.4m、平均水面は0.95mである。

副振動 約53分間を周期とする海面の昇降があるが、その昇降が10cmを超えることはまれである。

海水 1987年に港内の一部が結氷したことがある。

目標

| 地物名 | 概位 | 備考 |
|--------|--------------------------|-------------------|
| 煙突 | 42° 21.0' N 140° 58.9' E | 高さ79m、灰色 |
| 煙突 | 42° 21.2' N 140° 59.9' E | 高さ55m |
| イヨシサンベ | 42° 20.2' N 140° 57.1' E | 高さ140mの円すい形の山 |
| 煙突 | 42° 20.6' N 140° 59.3' E | 高さ154m、赤白塗、煙突群の西端 |

- 15 **通信** 船舶と港長との間で、「ほっかいどうほあん」を介しVHF無線電話による港務通信ができる。

| 呼出名称 | 周波数(呼出・応答/通信) | 運用時間 | 連絡先 |
|---|---------------|------|---------|
| ほっかいどうほあん HOKKAIDO COAST GUARD RADIO | ch16/12 | 常時 | 室蘭海上保安部 |

水先 室蘭水先区水先人会に要請する。(第1編 総記 第6章 水先、14ページ参照)。

入港上の注意 北外防波堤東側沿いの生けすや西方の養殖施設、ニマ岬(42° 20.1' N 140° 55.8' E)西方の養殖施設に注意を要する。

- 20 夜間は、導灯、灯浮標及び南、北両防波堤灯台の灯火が後背地の灯火に紛れて視認しにくいことがある。港内には錨泊船が多く、航路を航行する際、見通しの悪い場合がある。また、航路東端部付近では、**日本製鉄ふ頭**への出入船と第1区南部の各ふ頭に出入する船舶とが交差するので、注意を要する。

針路法 航路は大黒島の西北西方から東方に港内の日本製鉄ふ頭西方沖まで伸びている。

港内には、日本製鉄ふ頭、日通ふ頭に導灯2基と4基及び中央ふ頭に導標2基が設置されており、入港着岸に際してはこれらを利用するとよい。

航泊制限 石油類の引火による事故防止のため、一般船舶は港内に停泊中の引火性危険物積載タンカー（タンク船を含む）から30m以内の海面に立ち入ることが禁止されている。なお、同タンカー（タンク船を含む）は、港内停泊中、夜間においても容易に視認しうる「引火性危険物積載中」の垂れ幕等を掲げている。
(平成30年1月31日港長公示第2号)

錨泊禁止 室蘭港第4号灯標付近から中央ふ頭に至る第1区の中央部に錨泊禁止区域がある。(平成30年1月31日港長公示第1号)

10 **錨地** 検疫錨地はポロシレト岬(42° 22.4' N 140° 54.9' E)の西南西方約1.8Mにあるが、養殖施設が近くにあるので注意を要する。原則として危険物積載船は第3区北側に停泊場所が指定される。港域内外の底質は概ね砂で、錨かきは比較的良好である。

港内は泊地が狭く危険物積載船舶も多いため、港内停泊船舶は、気象通報を必ず聴取して荒天当直を実施するなど、事故を未然に防止できるよう保船に十分留意することが必要である。

15 低気圧の通過後、東寄りの風が西寄りの強風に急変することが多いので、風向が南東(又は北東)から更に右転(又は左転)したならば、速やかに西～北西の風に備えて投錨し直すこと。

港湾施設

| 名 称 | 概 位 | 長 さ (m) | 水 深 (約m) | 係船能力 (D/W×隻) | 備 考 | |
|-----------------------|--------|--------------------------|-------------|-----------------|----------------------|--------|
| 崎 守 ふ 頭 | 1号岸壁 | 42° 22.2' N 140° 55.1' E | 185 | 10 | 15,000×1 | |
| | 2号岸壁 | 42° 22.2' N 140° 55.2' E | 185 | 10 | 15,000×1 | |
| | 3号岸壁 | 42° 22.1' N 140° 55.4' E | 185 | 10 | 15,000×1 | |
| | 4号岸壁 | 42° 22.1' N 140° 55.5' E | 240 | 12 | 30,000×1 | |
| | 5号岸壁 | 42° 22.0' N 140° 55.7' E | 240 | 12 | 30,000×1 | |
| | 6号岸壁 | 42° 21.9' N 140° 55.8' E | 280 | 14 | 50,000×1 | |
| | 7号岸壁 | 42° 21.9' N 140° 56.0' E | 206 | 10 | 15,000×1 | |
| | 係船くい | 42° 21.8' N 140° 56.1' E | 25 | 10 | 15,000×1 | |
| 祝 津 ふ 頭 | 内航岸壁 | 42° 20.8' N 140° 56.8' E | 200 | 6 | 3,000×2 | |
| | 1号岸壁 | 42° 20.8' N 140° 56.7' E | 200 | 10~12.5 | 15,000×1 | |
| | 2号岸壁 | 42° 20.8' N 140° 56.6' E | 185 | 12.5 | 15,000×1 | |
| 西1号ふ頭1・2号岸壁 | | 42° 20.2' N 140° 57.9' E | 256 | 7 | 5,000×2 | |
| 西1号ふ頭3号岸壁 | | 42° 20.3' N 140° 57.9' E | 211 | 2.5 | — | 護岸 |
| 西1号ふ頭4・5号岸壁 | | 42° 20.2' N 140° 57.8' E | 333 | 2.5~4.5 | 2,000×4 | |
| 西 2 号 ふ 頭 | 1・2号岸壁 | 42° 20.1' N 140° 58.1' E | 360 | 9~10.5 | 10,000×1 15,000×1 | |
| | 3号岸壁 | 42° 20.2' N 140° 58.1' E | 150 | 6 | 5,000×1 | |
| | 4・5号岸壁 | 42° 20.1' N 140° 58.0' E | 257 | 6.5 | 5,000×2 | |
| | 6号岸壁 | 42° 20.1' N 140° 57.9' E | 130 | 3.5 | 700×2 | |
| 西 3 号 ふ 頭 | A岸壁 | 42° 19.9' N 140° 58.2' E | 100 | 5.5 | 2,000×1 | 1号岸壁東隣 |
| | B岸壁 | 42° 19.8' N 140° 58.3' E | 100 | 5.5 | 2,000×1 | A岸壁南側 |
| | 1号岸壁 | 42° 19.9' N 140° 58.2' E | 125 | 4~7 | 5,000×1 | |
| | 2号岸壁 | 42° 20.0' N 140° 58.2' E | 185 | 8.5 | 10,000×1 | |
| | 3号岸壁 | 42° 20.1' N 140° 58.2' E | 135 | 7.5 | 5,000×1 | |
| | 4号岸壁 | 42° 20.0' N 140° 58.1' E | 195 | 9~10 | 10,000×1 | |
| 5号岸壁 | | 42° 20.0' N 140° 58.0' E | 150 | 4.5 | 700×2 | |

| | | | | | | |
|------|--------|--------------------------|-----|---------|--------------------|--------|
| 中央ふ頭 | 旅客船岸壁 | 42° 19.5' N 140° 58.3' E | 271 | 9 | 20,000×1 | 中央ふ頭東側 |
| | 3号岸壁 | 42° 19.6' N 140° 58.3' E | 125 | 6.8~7.5 | 4,000×1 | |
| | 4・5号岸壁 | 42° 19.6' N 140° 58.3' E | 198 | 4~6 | 2,000×1 4,000×1 | |
| | 6号岸壁 | 42° 19.5' N 140° 58.3' E | — | 4 | — | 物揚場 |
| | 入江耐震岸壁 | 42° 19.5' N 140° 58.6' E | 233 | 8 | 6,000×1 | 耐震岸壁 |

上表のほか、各会社専用の係船施設がある。

架橋 南防波堤基部南側から北防波堤基部北側に至る白鳥大橋（高さ53m、橋梁灯がある。夜間はライトアップされる）がある。

- 5 **最大入港船舶** 2016年6月24日、旅客船 QUANTUM OF THE SEAS（168,666t、喫水8.5m）が崎守ふ頭6号岸壁に着岸した。

台風・津波対策 台風・津波等による海難事故を防止するため、室蘭海上交通安全協議会 津波・台風等対策分科会が設置されており、在港船舶などに対し、情報の伝達及び警戒体制・避難・入港制限の勧告・解除等の災害防止措置を指導している（問い合わせ先：室蘭海上保安部）。

10 海事関係官公署

| 官公署名 | 連絡先 | 官公署名 | 連絡先 |
|-----------------------|-------------------------------|----------------------------|--------------|
| 室蘭海上保安部（港長） | 0143-23-3133 | 横浜植物防疫所札幌支所 室蘭・苫小牧出張所 | 0144-33-2913 |
| 函館税関室蘭税関支署 | 0143-22-7201 | 札幌入国在留管理局 千歳苫小牧出張所苫小牧分室 | 0144-32-9012 |
| 北海道運輸局 室蘭運輸支局入江町庁舎 | 0143-23-5001 | 室蘭市港湾部総務課 | 0143-22-3191 |
| 小樽検疫所室蘭出張所 | 千歳空港検疫所支所へ 連絡 0123-45-7007 | | |

引船 引船がある。

通船 通船があり、中央ふ頭の海岸町物揚場から発着する。

補給 給水船と給油船による補給ができる。

15 修理施設

| 造船所名 | 電話番号 |
|----------|--------------|
| 函館どつく(株) | 0143-27-1251 |

廃油処理施設

| 事業者名 | 申込先 | 利用時間 | 処理する廃油の種類 | |
|----------|--------------|-----------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| | | | 廃重質油 | 廃軽質油 |
| テクノ | 0133-64-5222 | 0830~1800 | ビルジ、水バラスト、タンク洗浄水、コレクトオイル、スロップオイル、スラッジ | ビルジ、水バラスト、タンク洗浄水、コレクトオイル、スロップオイル、スラッジ |
| 毛笠コンクリート | 0144-87-3255 | 0800~1700 | ビルジ、スラッジ、コレクトオイル | ビルジ、スラッジ、コレクトオイル |

目標

| 地物名 | 概位 | 備考 |
|------|--------------------------|----------------------|
| 3 煙突 | 42° 30.7' N 141° 16.9' E | 2基は高さ各約81m、1基は高さ105m |

港湾施設

| 名称 | 概位 | 長さ (m) | 水深 (約m) | 係船能力 (D/W×隻) | 備考 |
|------------|--------------------------|-----------|------------|-----------------|----|
| 東ふ頭1号岸壁 | 42° 31.3' N 141° 19.2' E | 100 | 5 | 2,000×1 | |
| 東ふ頭2号岸壁 | 42° 31.4' N 141° 19.2' E | 100 | 5 | 2,000×1 | |
| 中央ふ頭1～3号岸壁 | 42° 31.3' N 141° 19.1' E | 300 | 5.5 | 2,000×3 | |
| 中央ふ頭4号岸壁 | 42° 31.2' N 141° 19.0' E | 130 | 7.5 | 5,000×1 | |
| 西ふ頭1号岸壁 | 42° 30.9' N 141° 18.7' E | 240 | 11 | 18,000×1 | |

上表のほか、港奥に漁船の船だまり（突堤に赤灯及び緑灯がある）があり、水深3.5～4mの物揚場がある。

5

海事関係官公署

| 官公署名 | 連絡先 |
|----------------|--------------|
| 白老町役場白老港湾管理事務所 | 0144-84-2200 |

補給 清水及び燃料油の補給ができる。

廃油処理施設

| 事業者名 | 申込先 | 利用時間 | 処理する廃油の種類 | |
|----------|--------------|-----------|------------------|------------------|
| | | | 廃重質油 | 廃軽質油 |
| 毛笠コンクリート | 0144-87-3255 | 0800～1700 | ビルジ、スラッジ、コレクトオイル | ビルジ、スラッジ、コレクトオイル |

10

医療施設

| 名称 | 電話番号 |
|--------------|--------------|
| 白老町立国民健康保険病院 | 0144-82-2181 |

港則 港則法施行規則第11条の規定による進路の表示

| 条 文 | 進路を示す記号 | 信 号 | 信 文 |
|---|---------|--------|---|
| 船舶自動識別装置の目的地に関する記号（平成22年海上保安庁告示第94号）及び進路表示信号（平成7年海上保安庁告示第35号） | C | 2代・C | 第1区の開発フェリーふ頭から中央北ふ頭1号東岸壁に至る間の係留施設に向かって航行する。 |
| | N | 2代・N | 第1区の中央北ふ頭2号岸壁から丸一鋼管岸壁に至る間の係留施設に向かって航行する。 |
| | E | 2代・E | 第1区の勇払ふ頭から中央南ふ頭西岸壁に至る間の係留施設に向かって航行する。 |
| | S | 2代・S | 第1区のホクレン用栈橋から苫小牧ふ頭に至る間の係留施設に向かって航行する。 |
| | 2E | 2代・2・E | 第2区の入船ふ頭から北ふ頭に至る間の係留施設に向かって航行する。 |
| | 2W | 2代・2・W | 第2区の西ふ頭又は南ふ頭の係留施設に向かって航行する。 |

信号 苫小牧信号所 (42° 37.8' N 141° 37.4' E) 及び勇払信号所 (42° 39.0' N 141° 40.3' E) で、航行管制信号を行っている。苫小牧水路及び勇払水路を航行する一定の船舶は、次表のとおり各信号所で行う信号に従って航行しなければならない。

5

| 水 路 名 | 信号の方法 | 信 号 の 意 味 |
|--|-------|--|
| 苫小牧水路 （中央北ふ頭1号東岸壁東端から中央南ふ頭西岸壁西端まで引いた線以西の第1区及び第2区） | Iの点滅 | 入航船は、入航可 500 t 以上の出航船は、運航を停止して待機 500 t 未満の出航船は、出航可 |
| | Oの点滅 | 出航船は、出航可 500 t 以上の入航船は水路外において出航船の進路を避けて待機 500 t 未満の入航船は、入航可 |
| | Fの点滅 | 500 t 以上の入航船は、水路外において出航船の進路を避けて待機 500 t 以上の出航船は、運航を停止して待機 500 t 未満の入出航船、入出航可 |
| | Xの点灯 | 港長の指示船以外は、入出航禁止 |
| 勇払水路 （苫小牧水路を除いた第1区） | Iの点滅 | 入航船は、入航可 500 t 以上の出航船は、運航を停止して待機 500 t 未満の出航船は、出航可 |
| | Oの点滅 | 出航船は、出航可 500 t 以上の入航船は、運航を停止して待機 500 t 未満の入航船は、入航可 |
| | Fの点滅 | 500 t 以上の入出航船は、運航を停止して待機 500 t 未満の入出航船は、入出航可 |
| | Xの点灯 | 港長の指示船以外は、入出航禁止 |

【航行安全指導については、85 ページに記載】

10

15

航行安全指導 苫小牧港では、港内及びその境界付近における船舶交通の安全等を図るため、苫小牧海上保安署、苫小牧港湾管理組合等を構成メンバーとして組織された苫小牧港海上交通安全協議会によって、船舶の安全運航確保のための合意事項が定められ、苫小牧港に入出航する船舶に対して指導を行っている。

なお、合意事項の主な項目は次のとおりである。(問い合わせ先：苫小牧海上保安署 TEL 0144-33-0118)

- 5 1 危険物積載船の基本
- 2 管制信号所及び出入港の基本
- 3 濃霧等狭視界時の基本
- 4 水先人の乗船に関する事
- 5 曳船の援助に関する事
- 10 6 錨泊に関する基本
- 7 注意喚起信号等に関する事
- 8 無線機による連絡設定に関する事

15

20

25

30

35

40

【航行安全指導については、85 ページに記載】

5 **航泊制限** 港内において、石油類の引火による事故防止のため、一般船舶は港内に停泊中の引火性危険物積載タンカー（タンク船を含む。）から 30m 以内の海面に立ち入ることが禁止されている。なお、同タンカーは、港内停泊中、夜間においても容易に視認しうる「引火性危険物積載中」の垂れ幕を掲げている。

障害物 苫小牧港西防波堤灯台の南西方約 1M に水中障害物（42° 36.8' N 141° 36.1' E、コンクリート塊、最小水深 10.8m）がある。また、シーバースの周辺にも多数の水中障害物がある。

旧土砂捨場 苫小牧港西防波堤灯台の南方約 3.6M 付近海域にある。

10 **錨泊制限** 第 1 区及び第 2 区においては、錨泊が制限されている。また、西港区の港口付近は、入出航船の安全を確保するため錨泊が禁止されている。

15 **錨泊上の注意及び避難勧告** 底質は、主に砂、軽石等で錨かきが悪く、強風の際には、走錨に注意しなければならない。特に南寄りの強風時にあつては、走錨による乗揚げ事故が発生しており、錨泊には適さない。このため、15m/s 以上の南寄りの風が連吹する場合（連吹すると予想される場合も含む。）には、苫小牧港長から、苫小牧港及び周辺海域に錨泊する船舶に対して抜錨のうえ避難するよう「走錨注意情報（勧告）」を発令している。

錨地 ~~底質は主に砂、軽石等で錨かきは悪く、南寄りの風波が大きいときには走錨の恐れがあり、錨泊には適さない。~~

20

25

30

35

検疫錨地は第3区の港界付近(42° 36.4' N 141° 36.0' E)にあり、危険物積載船は第4区に錨泊しなければならない。

港湾施設

| 名称 | 概位 | 長さ (m) | 水深 (約m) | 係船能力 (D/W×隻) | 備考 | |
|-----------|--------------------------|--------------------------|------------|-----------------|----------|--|
| 北ふ頭1・2号岸壁 | 42° 38.5' N 141° 37.3' E | 延長 260 | 7~7.5 | 5,000×2 | | |
| 北ふ頭3・4号岸壁 | 42° 38.6' N 141° 37.5' E | 延長 180 | 4.5 | 2,000×2 | | |
| 東ふ頭3~6号岸壁 | 42° 38.5' N 141° 37.6' E | 延長 571 | 7~9 | 10,000×4 | | |
| 西ふ頭1~4号岸壁 | 42° 38.3' N 141° 37.4' E | 延長 660 | 8~9 | 10,000×4 | | |
| 南ふ頭1・2号岸壁 | 42° 38.0' N 141° 37.5' E | 延長 370 | 10 | 15,000×2 | | |
| 南ふ頭3号岸壁 | 42° 37.9' N 141° 37.5' E | 195 | 11 | 20,000×1 | | |
| 入船ふ頭岸壁 | 42° 38.3' N 141° 37.7' E | 延長 330 | 14 | 40,000×1 | | |
| 晴海ふ頭 | 1号岸壁 | 42° 38.6' N 141° 39.2' E | 240 | 12 | 30,000×1 | |
| | 2号岸壁 | 42° 38.5' N 141° 39.1' E | 240 | 12 | 30,000×1 | |
| | 3号岸壁 | 42° 38.5' N 141° 38.9' E | 170 | 10 | 10,000×1 | |
| 中央北ふ頭 | 1号岸壁 | 42° 38.7' N 141° 39.7' E | 185 | 10 | 15,000×1 | |
| | 1号東岸壁 | 42° 38.8' N 141° 39.8' E | 240 | 12 | 30,000×1 | |
| | 2~4号岸壁 | 42° 38.9' N 141° 40.2' E | 延長 329 | 7.5 | 5,000×3 | |
| 木材ドルフィン | 42° 38.9' N 141° 40.0' E | 220 | 10 | 15,000×1 | | |
| 中央南ふ頭 | 西岸壁 | 42° 38.6' N 141° 40.0' E | 165 | 9 | 10,000×1 | |
| | 1号岸壁 | 42° 38.6' N 141° 40.2' E | 240 | 12 | 30,000×1 | |
| | 2号岸壁 | 42° 38.6' N 141° 40.3' E | 240 | 12 | 30,000×1 | |
| | 3号岸壁 | 42° 38.7' N 141° 40.4' E | 130 | 7~8 | 5,000×1 | |
| 勇払ふ頭 | 1号岸壁 | 42° 39.0' N 141° 41.5' E | 280 | 12 | 30,000×1 | |
| | 2号岸壁 | 42° 39.1' N 141° 41.7' E | 185 | 10 | 15,000×1 | |
| | 3・4号岸壁 | 42° 39.1' N 141° 41.9' E | 延長 260 | 7.5 | 5,000×2 | |
| | 5号岸壁 | 42° 39.3' N 141° 41.8' E | 240 | 12 | 30,000×1 | |
| | 6号岸壁 | 42° 39.4' N 141° 41.8' E | 165 | 9 | 10,000×1 | |
| 中央ふ頭2号岸壁 | 42° 36.5' N 141° 46.9' E | 360 | 14 | 30,000×1 | | |
| 中央ふ頭3号岸壁 | 42° 36.7' N 141° 47.0' E | 360 | 14 | 50,000×1 | | |
| 周文ふ頭2号岸壁 | 42° 36.7' N 141° 49.2' E | 240 | 12 | 30,000×1 | | |

上表のほか、西港及び東港とも各会社専用の係船施設が多数ある。

5

架空線 中央北ふ頭4号岸壁の東側から苫小牧ケミカル岸壁へ、水路を横断する架空線(高さ55m)がある。

最大入港船舶

西港内 2011年8月28日、客船 飛鳥II (50,142t、喫水8.1m)が入船ふ頭岸壁に着岸した。

10

2015年2月11日、タンカーC. INNOVATOR (164,533t、喫水20.5m)が出光北海道シーバースに着岸した。

東港内 2015年7月19日、タンカー-TSURUGA (160,068t、喫水14.4m)が北海道石油共同備蓄棧橋に着岸した。

台風・津波対策 台風・津波等による海難事故を防止するため、苫小牧海上交通安全協議会 苫小牧港

15

地震・津波・台風等対策委員会が設置されており、在港船舶などに対し、情報の伝達及び警戒体制・避難・

入港制限の勧告・解除等の災害防止措置を指導している（問合わせ先：苫小牧海上保安署 TEL 0144-33-0118）

海事関係官公署

| 官公署名 | 連絡先 | 官公署名 | 連絡先 |
|--------------------|-------------------------------|-----------------------------|--|
| 苫小牧海上保安署（港長） | 0144-33-0118 | 動物検疫所横浜本所 北海道出張所 | （新千歳空港国際線 ターミナルビル内） 0123-24-6080 |
| 函館税関苫小牧税関支署 | 0144-34-1953 | 横浜植物防疫所札幌支所 室蘭・苫小牧出張所 | 0144-33-2913 |
| 北海道運輸局 苫小牧海事事務所 | 0144-32-5901 | 札幌出入国在留管理局 千歳苫小牧出張所苫小牧分室 | 0144-32-9012 |
| 小樽検疫所苫小牧出張所 | 千歳空港検疫所支所 へ連絡 0123-45-7007 | 苫小牧港管理組合 | 0144-34-5551 |

引船 引船がある。

5 通船 第2区から通船が発着する。

補給 清水及び燃料油の補給ができる。給油船がある。

廃油処理施設

| 事業者名 | 申込先 | 利用時間 | 処理する廃油の種類 | |
|----------|--------------|-----------|---|---|
| | | | 廃重質油 | 廃軽質油 |
| 環境開発工業 | 011-373-2728 | 0800～1730 | ビルジ、水バラスト、コレクト トオイル、スラッジ | |
| テクノ | 0133-64-5222 | 0830～1800 | ビルジ、水バラスト、タンク 洗浄水、コレクトオイル、ス ロップオイル、スラッジ | ビルジ、水バラスト、タンク 洗浄水、コレクトオイル、ス ロップオイル、スラッジ |
| 毛笠コンクリート | 0144-87-3255 | 0800～1700 | ビルジ、スラッジ、コレクト オイル | ビルジ、スラッジ、コレクト オイル |

医療施設

| 名 称 | 電話番号 | 名 称 | 電話番号 |
|---------|--------------|--------|--------------|
| 苫小牧市立病院 | 0144-33-3131 | 王子総合病院 | 0144-32-8111 |
| 苫小牧日翔病院 | 0144-72-7000 | | |

10

海上交通 八戸港、秋田船川港（秋田区）、仙台塩釜港（仙台区）、新潟港、敦賀港、大洗港及び名古屋港との間にカーフェリー便がある。

苫小牧港～三石漁港（海図W1030）

15 概要 この約40M間の海岸は出入が少なく、その中間には利用できる港湾はない。

苫小牧港～門別鼻の約14M間の海岸は、砂浜である。

門別鼻～三石漁港の約25M間の海岸は、概ね幅の狭い砂浜である。この沿岸には所々に險礁（厚別鼻の南南東方約2.2M、トド岩等）が点在し、20m等深線のすぐ内側（静内川河口の南方約1.6M、浅所等）に存在する。

20 なお、門別鼻（42° 28.2′ N 142° 04.7′ E）沖合には、距岸4M付近まで定置網が設置されているので、特に苫小牧港から沿岸航行する船舶は、注意が必要である。

を襟裳岬と誤認して、両岬間に乗り揚げた例がある。

避泊錨地 ルベシベツ埼とその北北西方約 1.5Mの音調津《オシラベツ》漁港 (42° 14′ N 143° 19′ E) との間は浅く湾入しており、距岸約 900m、水深 14~16m、底質砂の所は、襟裳岬~釧路港間では西寄りの風のときの避泊錨地として良い。しかし、距岸 300m以内は水深 5m未満の岩礁が多く、また、ルベシベツ埼から北東方へ約 0.9M延びる定置網があるので、錨地に進入する際は注意を要する。

西寄りの風が強くて襟裳岬以西の海面が荒れているときには、百人浜北部沖合、庶野鼻北東方、猿留《サルル》鼻 (42° 06.9′ N 143° 19.4′ E) 北東方などに 500 t級の船舶が仮泊することがあるが、沿岸から距岸 1~1.5Mには、定置網が多数設置されているので注意を要する。

また、西風が次第に強まるときや、風向が南へ寄るときには、北方のルベシベツ埼沖又は十勝港沖に錨泊するほうがよい。

庶野《シヨヤ》漁港 (42° 02′ N 143° 18′ E) (海図W1031)



概要 襟裳岬の北北東方約 7.5Mにある港で、西防波堤（東端に灯台がある）と東防波堤に囲まれた泊地は南方へ開いており、西防波堤灯台の南南東方約 300mに南防波堤、その東方に外東防波堤（南端に灯台がある）がある。北側にふ頭及び突堤に囲まれた船だまりがある。船だまり内は風波の影響を受けることなく、西風の強いときには 100 t以下の船舶の避泊に適する。南東のうねりのあるときは入港が困難である。

潮汐 この港における平均高高潮は 1.3m、平均低低潮は 0.3m、平均水面は 0.91mである。

目標

| 地物名 | 概位 | 備考 |
|---------------|--------------------------|--------------------|
| 庶野鼻 〔トセツ岬〕 | 42° 02.9′ N 143° 18.6′ E | 庶野漁港を知る良いレーダ目標である。 |

その他、船だまり北側の魚市場（青屋根）は入港目標になる。

港湾施設

| 名称 | 概位 | 長さ (m) | 水深 (m) | 係船能力 (D/W×隻) | 備考 |
|---------|--------------------------|--------|--------|--------------|----|
| -4.5m岸壁 | 42° 02.6′ N 143° 17.7′ E | 延長 419 | 4.5 | — | |
| -3m岸壁 | 42° 02.6′ N 143° 17.9′ E | 延長 291 | 3 | — | |
| -4m岸壁 | 42° 02.6′ N 143° 17.9′ E | | 4 | — | |
| -3.5m岸壁 | 42° 02.6′ N 143° 17.8′ E | 175 | 3.5 | — | |

補給 -4m岸壁で燃料油の補給ができる。

十 勝 港 (42° 18' N 143° 20' E) (海図W35、W27) (JP TOK)



(2017年12月撮影)

5

港種 港則法適用港、開港、植物防疫の港、重要港湾

概要 ルベシベツ埼の北方約 5.5Mにある港で、一般に港内南奥の船だまり内を漁港区、その北側を商港区と称している。各種貨物船及び漁船の出入りが多く、特に 4~10 月の盛漁期には各地から多数の漁船が入港し、商港区にまで停泊することがある。

10 **潮汐** この港における平均高高潮は 1.2m、平均低低潮は 0.3m、平均水面は 0.85mである。

目標

| 地物名 | 概位 | 備考 |
|------|--------------------------|------------|
| 4サイロ | 42° 17.5' N 143° 19.1' E | 各灰色、セメント用 |
| 立岩 | 42° 17.3' N 143° 19.5' E | 高さ 21m |
| 無線柱 | 42° 18.4' N 143° 19.2' E | 高さ 97m、赤白塗 |

入港上の注意 北東~南東風の強吹時には、南防波堤の先端付近で三角波が起こり、また、うねりは通常横波となるので、出入港の操船には十分注意を要する。

15 遠浅のため、東風時には沖合で波が小さくても、港口付近で高い波が発生することがある。

錨地 錨地は、南防波堤東方の 20m等深線内である。西寄りの強風時、襟裳岬を航過できない西航船は一時的に百人浜沖又は庶野鼻北東方で仮泊するが、付近海域は定置網が多く、また、携帯電話の不感地帯になっているため、十勝港沖まで引き返して仮泊する船舶が多い。

港湾施設

| 名称 | 概位 | 長さ (m) | 水深 (約m) | 係船能力 (D/W×隻) | 備考 |
|--------|------------|--------------------------|---------|--------------|---------|
| 南ふ頭 | 第 1 岸壁 | 42° 17.4' N 143° 19.2' E | 93 | 5 | 2,000×1 |
| | 第 2・3・5 岸壁 | 42° 17.5' N 143° 19.3' E | 230 | 5.5 | 2,000×3 |
| | 第 4 岸壁 | 42° 17.6' N 143° 19.3' E | 130 | 7.5 | 5,000×1 |
| 第 2 ふ頭 | 第 1・2 岸壁 | 42° 17.6' N 143° 19.3' E | 260 | 7.5 | 5,000×2 |

20

釧路港 (42° 59' N 144° 21' E) (海図W31) (JP KUH)

西 区



(2017年9月撮影)

東 区



(2017年11月撮影)

5

港種 特定港、開港、検疫港、出入国港、家畜検疫の港、植物防疫の港、重要港湾

概要 襟裳岬の北東方約80Mにある港湾で、港域は東区、西区及び外港に分かれている。

東区は釧路川河口付近にある従来の釧路港で、第1区～第3区及び航路に分かれ、第2区の北部に副港がある。西区は新釧路川河口の西側に造成された港湾で、第1区及び第2区に分かれている。

この港は道東最大の港であるため船舶の出入が多く、特に夏季の盛漁期には漁船の出入が多い。地形上、南寄りの強風を受けることがあり、濃霧に閉ざされることが多い。

潮汐 この港における平均高高潮は1.3m、平均低低潮は0.3m、平均水面は0.87mである。

海水 2001年2月4日、釧路川から流出した氷及び寒波により東西両区が結氷し、航行困難な状況が2月中旬まで続いたことがある。

冬季、北海道南岸沖合における流氷の動きが活発なときには、特に夜間の出入港に十分注意を要する。

15

目標

| 地物名 | 概位 | 備考 |
|------|--------------------------|--------------------------|
| サイロ | 43° 00.0' N 144° 20.2' E | クリーム色、赤屋根 |
| タンク群 | 42° 59.8' N 144° 20.8' E | 緑色 |
| サイロ | 42° 59.3' N 144° 22.2' E | セメント用、灰色 |
| 無線塔 | 42° 59.0' N 144° 22.4' E | 銀色、高さ61m |
| 無線塔 | 42° 59.2' N 144° 22.9' E | パラボラアンテナ、赤白塗 |
| サイロ | 42° 58.5' N 144° 22.1' E | セメント用、灰色、航路航行時の船首目標、南新ふ頭 |

通信 船舶と港長との間で、「ほっかいどうほあん」を介しVHF無線電話による港務通信ができる。

| 呼出名称 | 周波数(呼出・応答/通信) | 運用時間 | 連絡先 |
|---|---------------|------|---------|
| ほっかいどうほあん HOKKAIDO COAST GUARD RADIO | ch16/12 | 常時 | 釧路海上保安部 |

5 **水先** 釧路水先区水先人会に要請する。(第1編 総記 第6章 水先、14 ページ参照)

入港上の注意

- 1 出入港船舶は、所定の国際信号旗を掲げて進路を表示すること。
- 2 雑種船は、東区の西及び北両防波堤間の水路から出入する。
- 3 盛漁期には全国から多数の漁船が集り、航路筋は混雑する。
- 10 4 霧中に知人礁及び知人瀬付近を通過する際は、レーダによる監視などのほか測深、船位の確認に努めること。

針路法 知人鼻付近の釧路埼灯台を目標にして港に接近した後、知人礁などを十分に避けて、東区又は西区の岸壁や錨地に向かう。

港則

| 条文 | 概要 | | |
|---|--|------|----------------------|
| えい航の制限 (港則法施行規則第21条の4) | 釧路港東第1区において、船舶が他の船舶その他の物件を引くときは、第9条第1項の規定にかかわらず、引き船の船首から被えい航物件の後端までの長さは100m、被えい航物件の幅は15mを超えてはならない。 | | |
| 進路表示信号(平成7年海上保安庁告示第35号)及び船舶自動識別装置の目的地に関する記号(平成22年海上保安庁告示第94号) | 目的地に関する記号 | 信号 | 信文 |
| | 1 | 2代・1 | 東区第1区の係留施設に向かって航行する |
| | 2 | 2代・2 | 東区第2区の係留施設に向かって航行する。 |
| | 3 | 2代・3 | 東区第3区の係留施設に向かって航行する。 |
| | 4 | 2代・4 | 西区第1区の係留施設に向かって航行する。 |
| | 5 | 2代・5 | 西区第2区の係留施設に向かって航行する。 |

15 **航泊制限** 引火性危険物積載タンカーの引火による事故を防止するため、一般船舶は港内に停泊中の同タンカー(タンク船を含む)から30m以内の海面に立ち入ることが禁止されている。なお、同タンカーは、港内停泊中、夜間においても容易に視認しうる「引火性危険物積載中」の垂れ幕を掲げている。

停泊禁止区域 航路東端から東区第1区の幣舞橋に至る間に停泊禁止区域がある。

20 また、西区は一部を除き錨泊禁止区域になっている。

海難 港内及び付近における海難は衝突が最も多く、**火災及び**乗揚げがこれに次いでいる。衝突及び乗揚げはほとんどが濃霧時に発生し、乗揚げ事故の発生場所は知人礁(42° 57.8' N 144° 22.2' E、南側に

灯標が設置されている。) が最も多いが、強い低気圧により、南寄りの強風がある場合、走錨により大楽毛海岸に乗揚げる例もみられる。

錨泊上の注意 港の形状により、南寄りの強風時、走錨による乗揚げ事故が発生している。このため、釧路海上保安部では、風速 15m/s 以上の南寄りの風が連吹した場合、「走錨注意情報」を公表し注意を呼び掛けている。

錨地 検疫錨地は航路入口の南西方 (42° 58.4' N 144° 20.4' E) にあり、危険物積載船は外港に錨泊しなければならない。

東区第2区及び第3区は、底質概ね泥で、錨かきは良い。

第3区よりも第2区のほうが良く、釧路港東区北防波堤南灯台を 230° 約 600m に見る水深 9m 前後で底質泥の所が最も良い。外港は濃霧の際の仮泊地として適している。なお、その際に知人鼻の西南西方約 1.5M の海底波高計及び海底線 (電力) に注意が必要である。

港湾施設

西 区

| 名 称 | | 概 位 | 長さ (m) | 水 深 (約m) | 係船能力 (D/W×隻) | 備 考 | |
|----------|-------------|--------------------------|--------------------------|-------------|-----------------|----------|--|
| 第1区 | 第1石油栈橋 1~4号 | 42° 59.7' N 144° 20.7' E | 520 | 5.5~7.5 | 5,000×4 | ドルフィン | |
| | 東側岸壁 1号 | 42° 59.8' N 144° 20.6' E | 90 | 5 | 2,000×1 | | |
| 第2区 | 東側岸壁 2・3号 | 42° 59.7' N 144° 20.5' E | 330 | 6.5~9 | 10,000×2 | | |
| | 南側岸壁 4号 | 42° 59.6' N 144° 20.4' E | 240 | 11 | 30,000×1 | | |
| | 西側岸壁 5号 | 42° 59.7' N 144° 20.3' E | 185 | 9.5 | 15,000×1 | | |
| | 西側岸壁 6・7号 | 42° 59.8' N 144° 20.4' E | 330 | 9 | 10,000×2 | | |
| | 物揚場 | 43° 00.0' N 144° 20.3' E | 316 | 4以下 | — | | |
| | 第2ふ頭 | 東側岸壁 8号 | 42° 59.9' N 144° 20.2' E | 90 | 5.5 | 2,000×1 | |
| | | 東側岸壁 9号 | 42° 59.9' N 144° 20.2' E | 130 | 7.5 | 5,000×1 | |
| | | 東側岸壁 10号 | 42° 59.8' N 144° 20.1' E | 185 | 10 | 15,000×1 | |
| | | バルク 1号栈橋 | 42° 59.7' N 144° 19.9' E | 300 | 14 | 85,000×1 | |
| | | バルク 2号栈橋 | 42° 59.7' N 144° 19.9' E | 170 | — | 12,000×1 | |
| | | 南側岸壁 11・12号 | 42° 59.8' N 144° 19.9' E | 480 | 11~12.5 | 30,000×2 | |
| | | 西側岸壁 13号 | 42° 59.8' N 144° 19.8' E | 165 | 9 | 10,000×1 | |
| | | 西側岸壁 14号 | 42° 59.9' N 144° 19.8' E | 130 | 7.5 | 5,000×1 | |
| | | 物揚場 | 43° 00.0' N 144° 19.8' E | 125 | 3~4 | — | |
| | 直線部物揚場 | 43° 00.0' N 144° 19.8' E | 205 | 4 | — | | |
| | 第3ふ頭 | 東側物揚場 | 43° 00.0' N 144° 19.7' E | 100 | 4 | — | |
| | | 東側岸壁 15号 | 43° 00.0' N 144° 19.7' E | 90 | 5.5 | 2,000×1 | |
| | | 東側岸壁 16・17号 | 42° 59.9' N 144° 19.6' E | 260 | 7.5 | 5,000×2 | |
| | | 南側岸壁 18号 | 42° 59.8' N 144° 19.5' E | 240 | 11~12 | 30,000×1 | |
| 西側岸壁 19号 | | 42° 59.9' N 144° 19.4' E | 240 | 12 | 30,000×1 | | |
| 西側岸壁 20号 | | 43° 00.0' N 144° 19.4' E | 185 | 10 | — | | |
| 第4ふ頭 | 東側岸壁 21号 | 43° 00.0' N 144° 19.2' E | 170 | 10 | 12,000×1 | | |
| | 東側岸壁 22号 | 42° 59.9' N 144° 19.2' E | 240 | 12 | 30,000×1 | | |
| | 南側岸壁 23号 | 42° 59.8' N 144° 19.0' E | 282 | 14 | 50,000×1 | | |

東 区

| 名 称 | | 概 位 | 長さ (m) | 水深 (約m) | 係船能力 (D/W×隻) | 備 考 | |
|--------------|--------------------------|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|-----------------|--------------------------|---------|
| 第1区 | 入舟物揚場 | 42° 58.8' N 144° 22.7' E | 280 | 3~5 | — | | |
| | 入舟(B)-6.0m岸壁 | 42° 58.8' N 144° 22.9' E | 165 | 4.5~6 | 2,000×3 | | |
| | 大町岸壁 | 42° 58.8' N 144° 23.0' E | 250 | 1~5 | — | | |
| | 錦町岸壁 | 42° 58.9' N 144° 23.0' E | 201 | 1~4 | — | | |
| | 幸町岸壁 | 42° 58.9' N 144° 22.9' E | 120 | 4.5~5 | 2,000×2 | | |
| 第2区 | 中央ふ頭 | 東側岸壁7号 | 42° 58.9' N 144° 22.7' E | 370 | 7.5~9 | 10,000×1 (50,000GT×1) | 耐震旅客船岸壁 |
| | | 東側岸壁4~6号 | 42° 58.9' N 144° 22.4' E | 390 | 6~6.5 | 5,000×3 | |
| | | 頭部岸壁 | 42° 58.8' N 144° 22.2' E | 69 | 7 | 1,000×1 | |
| | | 西側岸壁3号 | 42° 58.9' N 144° 22.2' E | 180 | 8~9 | 15,000×1 | |
| | 北ふ頭 | 西側岸壁1・2号 | 42° 59.0' N 144° 22.3' E | 339 | 7~8 | 10,000×2 | |
| | | 東側5・6号 | 42° 59.1' N 144° 22.2' E | 155 | 4~6.5 | 6,000×1 | |
| | | 南側岸壁 | 42° 59.1' N 144° 22.1' E | 126 | 7~8 | 3,000×1 | |
| | | 西側岸壁1~3号 | 42° 59.2' N 144° 22.1' E | 396 | 7~8 | 10,000×2 | |
| | | 直線部-9.0m岸壁 | 42° 59.3' N 144° 22.1' E | 150 | 7~7.5 | 6,000×1 | |
| | | 直線部-8.1m岸壁 | 42° 59.3' N 144° 22.0' E | 157 | 6.5~7 | 3,000×1 | |
| | 漁港ふ頭 | 直線部-5.0m岸壁 | 42° 59.4' N 144° 22.0' E | 56 | 3.5~4 | — | |
| | | 東側岸壁1~4号 | 42° 59.3' N 144° 21.9' E | 424 | 7 | 500×6 | |
| | | 南側岸壁1・2号 | 42° 59.2' N 144° 21.8' E | 203 | 7~7.5 | 5,000×1 | |
| | | 西側岸壁1~3号 | 42° 59.3' N 144° 21.7' E | 322 | 7 | 500×5 | |
| | | 北側-6.0m岸壁 | 42° 59.4' N 144° 21.7' E | 150 | 5 | 349×2 | |
| | | 北側-5.0m岸壁 | 42° 59.5' N 144° 21.7' E | 172 | 4~5.5 | 200×3 | |
| | 第3区 | 南ふ頭 | 副港A岸壁 | 42° 59.5' N 144° 21.7' E | 300 | 5 | — |
| 副港B岸壁 | | | 42° 59.6' N 144° 21.8' E | 250 | 5 | 200×4 | |
| 南新ふ頭 | | 石炭ローダー岸壁 | 42° 58.3' N 144° 21.8' E | 217 | 6~8 | 5,000×1 | |
| | | 雑貨岸壁 | 42° 58.3' N 144° 21.9' E | 91 | 5 | 2,000×1 | |
| | | 南側ドルフィン | 42° 58.4' N 144° 21.9' E | 130 | 6 | 5,000×1 | |
| | | 雑貨岸壁 | 42° 58.5' N 144° 22.0' E | 130 | 5.5~6 | 5,000×1 | |
| | | 西側ドルフィン | 42° 58.5' N 144° 22.0' E | 70 | 5 | 1,000×1 | ふ頭東側 |
| | | 入舟-7.5m岸壁 | 42° 58.7' N 144° 22.4' E | 130 | 6~7.5 | 5,000×1 | |
| 入舟(A)-6.0m岸壁 | 42° 58.7' N 144° 22.5' E | 260 | 5~6 | 2,000×2 | | | |

最大入港船舶 2014年6月4日、旅客船 DIAMOND PRINCESS (115,875 t、喫水 8.55m) が西区第4ふ頭に着岸した。

- 5 **台風・津波対策** 台風・津波等による海難事故を防止するため、釧路港安全対策協議会 台風・津波対策委員会が設置されており、在港船舶などに対し、情報の伝達及び警戒体制・避難・入港制限の勧告・解除等の災害防止措置を指導している（問合わせ先：釧路海上保安部）。

海事関係官公署

| 官公署名 | 連絡先 | 官公署名 | 連絡先 |
|--------------|--------------|----------------------|--------------|
| 釧路海上保安部（港長） | 0154-21-5575 | 横浜植物防疫所 札幌支所釧路出張所 | 0154-22-4291 |
| 函館税関釧路税関支署 | 0154-22-3730 | 札幌出入国在留管理局 釧路港出張所 | 0154-22-2430 |
| 北海道運輸局釧路運輸支局 | 0154-51-0057 | 釧路市水産港湾空港部 | 0154-53-3371 |
| 小樽検疫所釧路出張所 | 0154-23-3340 | | |

引船 引船がある。

通船 通船があり、東区第3区の築港船だまり（港町護岸）から発着する。

5 補給 清水、燃料油及び氷の補給ができる。小型給油船がある。

修理施設

| 造船所名 | 電話番号 | 造船所名 | 電話番号 |
|----------|--------------|---------|--------------|
| 釧路重工業(株) | 0154-41-9171 | 川崎造船(株) | 0154-25-2521 |

廃油処理施設

| 事業者名 | 申込先 | 利用時間 | 処理する廃油の種類 | |
|--------------|--------------|-----------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| | | | 廃重質油 | 廃軽質油 |
| 日本油設エンジニアリング | 0154-36-2151 | 0830-1730 | ビルジ、スラッジ、コレクトオイル | ビルジ、スラッジ、コレクトオイル |
| アシスト | 0153-75-0811 | 0830～1800 | ビルジ、水バラスト、タンク洗浄水、コレクトオイル、スロップオイル、スラッジ | ビルジ、水バラスト、タンク洗浄水、コレクトオイル、スロップオイル、スラッジ |

医療施設

| 名称 | 電話番号 | 名称 | 電話番号 |
|---------------------|--------------|----------|--------------|
| 釧路赤十字病院 | 0154-22-7171 | 市立釧路総合病院 | 0154-41-6121 |
| 労働者健康福祉機構 釧路労災病院 | 0154-22-7191 | | |

10

釧路港～厚岸湾口（海図W26）

概要 釧路港の知人鼻から厚岸湾口の尻羽岬までの約19M間の海岸は、あまり出入りがなく、又飯時（釧路埼灯台の東南東方約10km）付近が最も南へ張り出しており、概ね砂浜か礫浜で、前面には岩石が多い。

海食がけが発達していて直接海に臨む所もある。この沿岸には、一般船舶の利用できる港湾はない。

10m等深線は、概ね距岸0.4M付近にある。

15

釧路出シ（42° 55.9' N 144° 29.8' E）は又飯時から南方へ広く延びる暗礁で、距岸約0.6Mに水深3.2mの浅所があり、その外側は水深10m以上である。釧路出シはこの沿岸で最も南方にある暗礁である。

目標

| 地物名 | 概位 | 備考 |
|-----|--------------------------|---------------------------------|
| 立岩 | 42° 56.9' N 144° 35.0' E | 高さ21m、レーダの好目標 |
| トド岩 | 42° 56.9' N 144° 35.8' E | 高さ30m、レーダの好目標 |
| 蠟燭岩 | 42° 56.7' N 144° 38.4' E | 高さ22m、レーダの好目標 |
| 円山 | 42° 56.8' N 144° 42.8' E | 高さ205m、この沿岸で最も高い。頂上に無線塔（銀色）がある。 |

| | | |
|-----|--------------------------|---|
| 尻羽岬 | 42° 56.2' N 144° 47.1' E | 険しいがけの岬で、その南方にある帆掛岩 (11m) は東・西方向からは良く見える。 |
|-----|--------------------------|---|

航行上の注意 釧路埼灯台(42° 58.2' N 144° 22.4' E)の南西方約 1.6Mに危険な全没沈船、同灯台の南南西方約 1.5Mに全没沈船がある。

5

厚岸《アッケシ》湾 (42° 57' N 144° 50' E) (海図W36)



(2017年9月撮影)

厚岸湾口対景図

南方から厚岸湾口を望む



10

概要 襟裳岬～納沙布岬間で最も大きな湾で、南寄りの風の時にはうねりが侵入するうえ風浪も高くなるが、その他の風のときには静穏なことが多く、一般船舶の避泊地に適している。湾奥に厚岸港がある。

この湾は、尻羽岬とその東方約 5Mの末広《マビロ》埼 (42° 59.2' N 144° 52.6' E) との間に約 6M湾入して広く、湾口の東寄りに大黒島がある。尻羽岬東側及び大黒島～末広埼間には、それぞれ浅い礁脈が続いている。末広埼と小島 (42° 58.5' N 144° 52.7' E) との間には水深 4m前後の通路があるが、小型船しか通航できない。大黒島と小島との間は、いそ波が高いので小型船の通航も難しい。

湾口に至る水深 20m以上の可航水路は大黒島の西側にあつて、幅は約 1.4Mである。

尻羽岬の東方約 1.9Mの礁脈は、水深 3.7mの岩礁から続く浅水の礁脈で、礁上は常にいそ波が高い。

湾口の水深は 23m前後で、湾奥へ向かって次第に浅くなり、全般に底質泥で錨かきが良い。湾内西側及び北側は比較的浅く、距岸 1.3M以内は概ね水深 5m未満で、西側には岩礁が散在している。東側は比較的深く、10m等深線は距岸 0.5M以内にあるが、陸岸近くには岩礁が散在している。

厚岸湾内の大半に、カキ、ノリ、ワカメ及びコンブなどの養殖施設がある。

海霧 霧は湾外の大黒島付近と湾内西部に、時として厚岸港付近に滞留することがある。

湾内では、3月ごろの無風の早朝に西部の仙鳳趾《センボウジ》礁付近、中央部の中瀬付近及び東部のアイ

20

散布埼～湯沸《トウブツ》岬付近の水深は不規則で、20m等深線内には多数の岩礁が散在している。

散布埼から北東方は台地が次第に低くなり、琵琶瀬鼻 (43° 02.9' N 145° 05.3' E) から北方は低湿地である。海岸は屈曲がやや大きく、霧多布半島が東方へ突出して、南側の嶮暮帰島との間に琵琶瀬湾、北側に浜中湾を形成している。概ね侵食されたがけであるが、湾入部は砂浜又は礫浜である。

5 嶮暮帰島東端の南方、距岸約 0.5Mに水深 2.2mの暗礁がある。

昆布瀬 (43° 01.9' N 145° 06.0' E、最小水深 2.4m) は琵琶瀬鼻から南東方へ約 1.3M延びる礁脈の外端近くにあり、この付近で最も外方にある暗礁である。礁脈の外方は急深である。昆布瀬の西方約 1Mに水深 6.7mの暗礁、更に西方約 1Mに窓岩 (43° 01.7' N 145° 03.7' E、高さ 17mと 12mの 2 岩) が距岸約 0.5Mにある。

10 この沿岸には、一般船舶の利用できる港湾はない。

目標

| 地物名 | 概位 | 備考 |
|---------------|--------------------------|--|
| 散布《チリップ》埼 | 43° 00.0' N 145° 01.4' E | 埼の南西に立岩 (高さ 38m) があり、やや黄色を帯び、東・西方向から顕著。東方から厚岸湾に近づくときの好目標 |
| 嶮暮帰島《ケンポケットウ》 | 43° 03.0' N 145° 06.4' E | 高さ 59mの台形の島で、周囲は険しいがけである。島の南西端近くに顕著な 2 岩がある。 |

浜中湾 (43° 07' N 145° 10' E) (海図W25)



15

(2017年10月撮影)

概要 霧多布半島の北側にあつて、南寄りの風を避けることができる。湾口は広く東方へ開いて幅約 4Mであるが、南、北両側に礁脈があつて、東寄りの波をいくらか防いでいる。

20 湾の南端部はがけが多く、その西端付近に霧多布港がある。西浜は一連の砂浜で、その背後は沼沢地である。北端部は岩石が多く、所々にがけがある。

湾内の水深は 20m以下で、西側は遠浅で、距岸 0.6M以内は概ね水深 5m以下の浅水域となっている。

霧 浜中湾付近の霧については、厚岸湾付近とはほぼ同様である。(第2編 航路記 第2章 北海道南岸「霧」の項、39 ページ参照)

湾外に海霧が立ちこめていても、湾内は晴天のことがある。

25 海水 浜中湾内では、風向によって流氷が侵入することがあるが、長期間定着することはない。

針路法 花咲港東外防波堤、南南西端（南南西端に赤灯がある）を 298° に見て接近する。

錨地 港域内は水深 13m以下、底質砂で錨かきが良く、西～北東の風を避けられるが、南風のときにはうねりが侵入する。

港湾施設

| 名 称 | 概 位 | 長 さ (m) | 水 深 (約m) | 係船能力 (D/W×隻) | 備 考 |
|-------------|--------------------------|------------|-------------|-----------------|-----|
| 漁業ふ頭-4.5m岸壁 | 43° 17.1' N 145° 34.9' E | 356 | 4.5~5 | 100×4 | |
| 西浜ふ頭-5.5m岸壁 | 43° 17.1' N 145° 34.8' E | 191 | 4.5~5.5 | 200×2 | |
| 西浜ふ頭-6m岸壁 | 43° 17.1' N 145° 34.6' E | 130 | 5.5~6 | 400×1 | |
| 西浜-6m岸壁 | 43° 16.7' N 145° 34.0' E | 160 | 4.5~5.5 | 2,000×2 | |
| 西浜-5m岸壁 | 43° 16.8' N 145° 33.9' E | 160 | 4~5 | 1,000×2 | |
| 西浜-5m岸壁 | 43° 16.9' N 145° 33.9' E | 160 | 3.5~4.5 | 1,000×3 | |
| 東ふ頭1号岸壁 | 43° 16.7' N 145° 35.1' E | 185 | 10 | 10,000×1 | |
| 東ふ頭2号岸壁 | 43° 16.8' N 145° 35.0' E | 130 | 7.5 | 5,000×1 | |
| 東ふ頭3号岸壁 | 43° 16.9' N 145° 34.9' E | 130 | 7.5~8 | 5,000×1 | |

5

最大入港船舶 2003年7月4日、客船 飛鳥（28,856 t、喫水 6.7m）が東ふ頭1号岸壁に着岸した。

台風・津波対策 台風・津波等による海難事故を防止するため、根室・花咲港における船舶異常気象等安全対策協議会が設置されており、在港船舶などに対し、情報の伝達及び警戒体制・避難・入港制限の勧告・解除等の災害防止措置を指導している（問い合わせ先：根室海上保安部 TEL 0153-24-3354）。

10

海事関係官公署

| 官公署名 | 連絡先 | 官公署名 | 連絡先 |
|-------------|--------------------------|----------------------|--------------|
| 根室海上保安部花咲分室 | 0153-25-4012 | 札幌出入国在留管理局 釧路港出張所 | 0154-22-2430 |
| 函館税関根室税関支署 | 0153-25-8257 | 根室市役所 花咲港港湾管理事務所 | 0153-25-8638 |
| 小樽検疫所花咲出張所 | 釧路出張所へ連絡 0154-23-3340 | | |

補給 清水及び燃料油の補給ができる。給油船がある。

廃油処理施設

| 事業者名 | 申込先 | 利用時間 | 処理する廃油の種類 | |
|------|--------------|-----------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| | | | 廃重質油 | 廃軽質油 |
| アシスト | 0153-75-0811 | 0830~1800 | ビルジ、水バラスト、タンク洗浄水、コレクトオイル、スロップオイル、スラッジ | ビルジ、水バラスト、タンク洗浄水、コレクトオイル、スロップオイル、スラッジ |

15

花咲岬～納沙布岬（海図W18、W8）

概要 花咲岬～納沙布岬（43° 23.1' N 145° 49.0' E）の約 12M間の海岸は、海食が進んで屈曲が多く、背後は高さ 50m以下の台地が広がっている。友知岬から納沙布岬間の沿岸には距岸 1～1.5Mの間に小島や岩礁が散在しており、この沿岸の中部に歯舞漁港がある。

海・潮流 花咲岬の東南東方約 4Mにおける観測によれば南西～西南西流及び北東～東北東流が大半を

針路法 (第15図、117ページ参照)

西方から来てこの水道を北航するときには、ハボマイモシリ島灯台を 315° 3.1Mに見て、針路 015° とし、瑠瑠瑠埼を 285° 1.5Mに見て、左転し、針路 340° で同水道の両側から張り出している20m等深線のほぼ中央を航過し、次いで貝殻島灯台を 100° 以上に見てから西方に進む。

- 5 なお、瑠瑠瑠埼付近から東南東方へ約1M延びる定置網があるので、注意を要する。

避険線 (第15図、117ページ参照) 納沙布岬灯台を 295° に見る線は、**貝殻浅瀬** ($43^{\circ} 24' N$ $145^{\circ} 52' E$ 、礁上に貝殻島、オドケ島及び萌茂尻島(高さ10m)などがある)の南西方約600mを通る。

また、貝殻島灯台を 100° に見る線は納沙布岬北方約0.8Mの暗礁の北方約200mを通る。

第2章 北海道東岸及び北岸

根室海峡 (海図W42)

概要 根室海峡は、北海道東岸と国後島との間にあり、納沙布岬とその北西方にあるケラムイ埼〔国
5 後島南端〕(43° 39.4′ N 145° 32.4′ E) との間を南口とし、知床岬(44° 20.7′ N 145° 19.8′ E)
とその東北東方にあるルレイ岬〔国後島北端〕(44° 31.1′ N 146° 10.4′ E) との間を北口とする。海
峡南部の西側に根室湾があり、その北方が海峡最狭部の野付水道で、海峡北部の西側は知床半島である。

この海峡は全長約70Mで、その幅は南口で約20M、北口で約40Mあるが、野付水道では約9Mである。
10 水深は南口の納沙布岬側は20~30mであるが、南口のケラムイ埼側及び野付水道は10m以下で浅所が多
い。野付水道から北方は深くなり、特に北緯44°線付近から急に深さを増して北口中央部では2,400mを
超える。

航行上の注意 船舶が根室海峡を通峡するには、海氷の状況や、船舶の喫水と水深の関係をよく考慮
する必要がある。

根室海峡〔国後島北西岸〕の記事は、第4章 北海道東方 197 ページ参照。

納沙布岬～ノッカマップ埼 (海図W18)

概要 納沙布岬～ノッカマップ埼(43° 23.5′ N 145° 39.2′ E)の約7M間の海岸は、暗黒色の岩
角か、低いがけ下の礫浜で、陸側は高さ50m以下の台地である。納沙布岬から西方約4M間は屈曲が多く、
20 トーサムポロ岬(43° 23.9′ N 145° 45.8′ E)が北方へ突出しているが、この付近では、納沙布岬西方
の塔のほか顕著な目標はない。この沿岸の距岸0.5M以内には水深5m以下の岩礁が散在しており、20m
等深線は距岸0.5~1.1Mを通る。納沙布岬の西方約1.3Mに齒舞漁港温根元地区(43° 23.2′ N 145°
47.2′ E)がある。

航行上の注意 根室半島北岸では、濃霧及び海氷による海難が多い。霧の少ない時期にも濃霧の発生
することがあり、毎年視界不良による衝突事故等が発生している。

ノッカマップ埼～野付埼〔根室湾〕 (海図W18)

概要 根室湾は、ノッカマップ埼と野付埼(43° 34′ N 145° 21′ E)との間に湾入する開湾で野
付埼はほとんど干出する泥湿地で、湾の西部南側に温根沼《オンネトウ》及び風蓮《フウレン》湖が開口し
ている。風蓮湖の北方では湾に西別川が注いでおり、西別川はサケの重要な漁場である。また、7~12月
30 の漁期には根室湾沿岸に多数の漁網が設置される。ノッカマップ埼から温根沼口の約10M間の海岸は、北
東部は暗黒色の岩か低いがけの礫浜で、陸側は高さ約60mの台地である。根室半島北岸の距岸0.5M以内
には、水深5m以下の岩礁が散在している。

湾の西部は概ね砂浜で、温根沼口～西別川河口間の海岸の陸側は、湿地となっている。

湾の南東部は概ね水深15~25mで、根室半島北岸沖には距岸1M以遠に水深10m以下の陰礁はないが、
35 湾の北西部はやや浅く、バラサン浅瀬(43° 26′ N 145° 18′ E)及び竜神堆(43° 33′ N 145° 23′
E)などがある。

バラサン浅瀬は根室湾西部の中央部付近にあり、距岸約2Mまで広く延びている砂州で、外縁の水深は
4.6~5mである。

羅臼《ラウス》港 (44° 01′ N 145° 12′ E) (海図W1402) (JP RAU)



(2017年8月撮影)

港種 港則法適用港

5 概要 知床半島東岸で船舶が利用できる唯一の港である。サンマ漁期中は太平洋からオホーツク海に回航する50t以上の漁船も利用することがある。

南、北側の船だまりに分かれており、南側船だまりの南西側を第1澗《マ》内、北東側を第2澗内、北側船だまりを第3澗内と称している。

潮汐 この港における平均高高潮は1.0m、平均低低潮は0.3m、平均水面は0.64mである。

10 目標

| 地物名 | 概位 | 備考 |
|-----|--------------------------|---------------------------|
| 著屋 | 44° 01.3′ N 145° 11.8′ E | 漁業協同組合、屋上に無線塔(高さ約30m)がある。 |
| 架橋 | 44° 01.1′ N 145° 11.6′ E | オジロ橋、橋の両端に水銀灯がある。 |

針路法 港の南、北両側には、定置網があり、定置網を避けるには、距岸1M以上の沖合から、羅臼港第2南防波堤灯台を280°～305°に見て接近し、南島防波堤南西端沖から入港する。

港湾施設

| 名称 | 概位 | 長さ(m) | 水深(約m) | 備考 |
|---------|--------------------------|-------|---------|-------------|
| -3.5m岸壁 | 44° 01.1′ N 145° 11.7′ E | 105 | 3.5 | 第1澗 《マ》内 |
| -4m岸壁 | 44° 01.2′ N 145° 11.7′ E | 60 | 3 | |
| -3m岸壁 | 44° 01.2′ N 145° 11.8′ E | 108 | 3以下 | |
| -3m岸壁 | 44° 01.2′ N 145° 11.9′ E | 100 | 2.5 | 第2澗内 |
| -4m岸壁 | 44° 01.3′ N 145° 12.0′ E | 延長225 | 2.5~4 | |
| -4.5m岸壁 | 44° 01.3′ N 145° 12.0′ E | 144 | 4~7 | 第3澗内 |
| -4m岸壁 | 44° 01.4′ N 145° 12.1′ E | 317 | 3.5~4.5 | |
| 中央ふ頭 | 44° 01.2′ N 145° 12.1′ E | 100 | 8.5 | |

15

台風・津波対策 台風・津波等による海難事故を防止するため、羅臼港異常気象等対策協議会が設置されており、在港船舶などに対し、情報の伝達及び警戒体制・避難・入港制限の勧告・解除等の災害防止措置を指導している(問い合わせ先: 羅臼海上保安署 TEL 0153-87-2274)。

猛烈な西～北西の局地風を、地元の人々は「だし風」といっている。

「だし風」は、低気圧が知床半島の北を通過するとき、寒冷前線の通過後に突然山から沖合に向けて吹く息の大きい風のことで、この風は、すまき（風が渦を巻いて吹く）現象が加わり、強い破壊力がある。その発生は4、5月に多いという。

- 5 根室海峡付近では、山脈の屋根が比較的低くなっている所の風下側で風力が強く、ルサ川河口（44° 08.3′ N 145° 15.9′ E）、サシルイ川河口（44° 03.7′ N 145° 14.3′ E）、松法漁港（43° 59.3′ N 145° 09.9′ E）などで強い。

海流 知床岬沖の海流は北東方へ流れ、その最強流速は3knに達する。

目標

| 地物名 | 概位 | 備考 |
|-------|--------------------------|---|
| サシルイ埼 | 44° 03.7′ N 145° 14.7′ E | 北側にオッカバケ港がある。 |
| 観音岩 | 44° 13.4′ N 145° 20.9′ E | 海岸至近にある数個の直立岩（最高岩の高さ20m）で、その西方海岸上に顕著ながけがある。 |
| ペキンノ埼 | 44° 16.3′ N 145° 22.1′ E | 知床半島の最東端で、埼頂は高さ約30mの鋭頂 |
| 烏帽子岩 | 44° 19.0′ N 145° 21.2′ E | 高さ21m、距岸約150mに直立する鋭頂岩 |
| 知床岬 | 44° 20.7′ N 145° 19.8′ E | 知床半島最北端の険しいがけの岬で、この岬とその南東方約1kmの岬との間は高さ約30mの丘で、丘上にある灯台は昼夜ともに顕著 |

10

航行上の注意 知床堆は知床岬の沖合に知床堆と呼ばれる浅堆があり、最浅所は同岬の北東方約4.7M（44° 24.6′ N 145° 24.6′ E、最小水深16m）で堆の南部にある。

錨地 この沿岸には、避泊に適する錨地はほとんどない。

15

知床岬～能取岬 {網走湾} (海図W42)

概要 網走湾は知床岬から能取岬（44° 06.8′ N 144° 14.6′ E）の約50Mの間にある開湾で、北寄りの風波にさらされる。南側はやや遠浅で、20m等深線が距岸1～1.5Mを走り、沖合に険礁はない。

知床岬から峰浜（43° 56′ N 144° 48′ E）間の約34Mの海岸は知床半島の西岸にあたり、切り立ったがけ海岸が続いて、所々に砂浜や礫浜がある。岸近くまで深水だが、海岸沿いに険礁がある。ポネオルシ岬の西南西方約2M（44° 17.8′ N 145° 15.0′ E）に水深20mの浅所がある。

20

峰浜から網走港の約23M間の海岸は砂浜で、砂丘が連なり、その間に斜里川、涛沸《トウフツ》湖、藻琴《モコト》沼及び網走湖などが開口している。

涛沸湖から網走港北東方にかけての距岸6M以内には、養殖施設がある。

網走港から能取岬の約6M間の海岸は、概ね険しいがけが続いている。

25

この沿岸では、網走港に30,000D/W級の船舶が、ウトロ漁港ウトロ地区に500t級の船舶が入港できる。

霧 根室海峡を覆った霧は、時には知床半島を越えて網走湾内にまで侵入することがある。

網走港付近では、海霧は6、7月に多く、弱い北北東風によって来襲する。霧の高さは300～400mと推定され、昼前ごろには消散することが多い。

30

なお、太平洋の海霧がこの付近にまで達することがある。また、網走市街は網走川の谷間にあるため、冬季から5月ごろまで、夕刻から煙霧が発生して北東方へ移動する。

の際には、うねりが防波堤を越えて港内に侵入し、岸壁に係留し続けることが困難になる。

この港は北海道北岸最大の港であるとともに、オホーツク海における漁業基地で、8～11月のサケ・マス漁期には、多数の漁船が出入港する。

河口付近の水深は、土砂の堆積のため海図記載の水深よりも浅くなる傾向がある。

- 5 **潮汐** この港における平均高高潮は1.1m、平均低低潮は0.3m、平均水面は0.68mである。

目標

| 地物名 | 概位 | 備考 |
|----------|--------------------------|-------|
| 2サイロ | 44° 01.1' N 144° 17.1' E | セメント用 |
| 帽子岩〔渡良岩〕 | 44° 01.6' N 144° 17.0' E | 高さ23m |

針路法 港の北及び東側にある定置網や涛沸湖付近から港の北東方距岸約2～5Mにある養殖施設に十分注意し、港の北4M付近から網走港南防波堤東灯台を180°に見て港口に接近し、適宜岸壁に向う。

- 10 **注意** 北西～北風の強吹時には、うねりが防波堤を越え、出入港は危険である。

河口内は風波の影響がほとんどないが、秋季～冬季にはうねりが侵入することがあり、その際には河水が逆流し、離岸が困難になることがある。

錨地 第4ふ頭東方の水深約12m、底質砂の所が良いが、冬季になると季節風によりうねりが侵入する。検査錨地は、網走港北防波堤灯台の北東方600m付近にある。

- 15 検査錨地と南防波堤の間の海域は、南～西の風波を避けられるが、北西～北東風には波浪が高くなって錨泊が困難になる。

港域北部の帽子岩の西～北方では南寄りの風を避けることができるが、錨地としては帽子岩を129°470mに見る水深約8mの底質砂の所か、同岩頂を154°700mに見る水深約9mの底質砂の所が良い。投錨する際にはバイラギ埼付近から東方へ約1.2M延びる定置網に注意しなければならない。

20 港湾施設

| 名称 | 概位 | 長さ(m) | 水深(約m) | 係船能力(D/W×隻) | 備考 | |
|-------------|--------------------------|--------------------------|--------|-------------|----------------|-------|
| 第1ふ頭-5.5m岸壁 | 44° 01.2' N 144° 17.0' E | 180 | 3～5 | 2,000×2 | | |
| 第2ふ頭 | 1号岸壁 | 44° 01.2' N 144° 17.1' E | 90 | 5.5 | 2,000×1 | ふ頭南西側 |
| | 2号岸壁 | 44° 01.3' N 144° 17.2' E | 130 | 5.5～7 | 5,000×1 | |
| 第3ふ頭 | 1号岸壁 | 44° 01.1' N 144° 17.3' E | 180 | 5.5～7 | 2,000×2 | |
| | 2号岸壁 | 44° 01.0' N 144° 17.3' E | 130 | 7.5 | 5,000×1 | |
| 第4ふ頭 | 1号岸壁 | 44° 00.9' N 144° 17.4' E | 185 | 10～11 | 15,000×1 | |
| | 2号岸壁 | 44° 00.8' N 144° 17.3' E | 240 | 12 | 30,000×1 | |
| 第5ふ頭 | 44° 00.8' N 144° 17.1' E | 220 | 7.5 | 5,000×2 | | |
| 南防波堤ドルフィン | 44° 01.2' N 144° 17.3' E | 33 | 8 | 5,000×1 | 取付け部を含む延長は153m | |

最大入港船舶 2015年6月19日、客船DIAMOND PRENCESS(115,875t、喫水8.57m)が第4ふ頭1・2号岸壁に着岸した。

- 25 **台風・津波対策** 台風・津波等による海難事故を防止するため、オホーツク海沿岸地震・津波・台風等対策連絡会が設置されており、在港船舶などに対し、情報の伝達及び警戒体制・避難・入港制限の勧告・解除等の災害防止措置を指導している(問合わせ先:網走海上保安署 [TEL 0152-44-9118](tel:0152-44-9118))。

海事関係官公署

| 官公署名 | 連絡先 | 官公署名 | 連絡先 |
|---------------------|--------------|-------------|--------------------------|
| 網走海上保安署 | 0152-44-9118 | 小樽検疫所網走出張所 | 釧路出張所へ連絡 0154-23-3340 |
| 函館税関釧路税関支署 網走出張所 | 0152-43-5811 | 網走市水産港湾部港湾課 | 0152-44-6111 (代表) |

引船 引船がある。

補給 清水及び燃料油の補給ができる。給油船がある。川筋物揚場でも清水と氷の補給ができる。

5 廃油処理施設

| 事業者名 | 申込先 | 利用時間 | 処理する廃油の種類 | |
|------|--------------|-----------|---|---|
| | | | 廃重質油 | 廃軽質油 |
| アシスト | 0153-75-0811 | 0800～1800 | ビルジ、水バラスト、タンク 洗浄水、コレクトオイル、ス ロップオイル、スラッジ | ビルジ、水バラスト、タンク 洗浄水、コレクトオイル、ス ロップオイル、スラッジ |

医療施設

| 名 称 | 電話番号 |
|------------------|--------------|
| JA 北海道厚生連 網走厚生病院 | 0152-43-3157 |

海上交通 1～4月の間、網走港周辺を周遊する観光砕氷船（491 t）2隻がある。

10 能取岬～ウェンヒラリ岬（海図W1039）

概要 能取岬～ウェンヒラリ岬（44° 21.9' N 143° 21.3' E）の約41M間の海岸は砂浜で、その間に能取湖、サロマ湖、常呂《トコロ》川及び湧別川などがあり、開口している。

能取湖に能取漁港及びサロマ湖口にサロマ湖漁港がある。

10m等深線は、概ね距岸0.5～1Mを走り、距岸1M以遠に10m以下の險礁はない。

15 この沿岸では、紋別港に30,000D/W級の船舶が着岸できる。

目標

| 地物名 | 概位 | 備考 |
|---------|--------------------------|---|
| 附仔《ブシ》山 | 43° 58.9' N 144° 01.0' E | 高さ480m、付近で最も高く、北～北東方からよく見える。 |
| イワケシ山 | 44° 02.7' N 143° 58.7' E | 高さ425m、各方向から見え好目標 |
| 幌岩山 | 44° 05.7' N 143° 50.3' E | 高さ376m、山頂が平らで、この付近では顕著 |
| サロマ湖口 | 44° 10.9' N 143° 47.2' E | 5M以内に接近すれば、レーダでよく分かる。 |
| 湧別川河口 | 44° 13.9' N 143° 37.3' E | 沖合10Mから河口の導流堤がレーダによく映る。河口に橋（赤色）がある。 |
| 中山 | 44° 07.9' N 143° 35.6' E | 高さ360m、顕著な円すい形の山、北方からは背後に山岳と重なって見えにくい。 |
| 文《フミ》山 | 44° 09.6' N 143° 29.1' E | 高さ437m、馬のたてがみの形をした黒色の岩がけの尾根がある。山頂は東方から見れば平らであるが、北方から見れば鋭頂で顕著 |
| 紋別山 | 44° 20.6' N 143° 19.1' E | 高さ334m、頂が平らで全山に樹木が繁茂して黒く見える。頂上一帯に多数の無線塔があり、付近に展望台がある。中腹のスキー場は顕著 |
| 4無線塔 | 44° 20.6' N 143° 19.2' E | 各高さ約332m、パラボラアンテナ、頂部に赤灯を点ずる。昼夜とも紋別港に接近するときの好目標 |

錨地 通常、開発局紋別港第3防波堤灯台から240°400m付近の水深約7mの底質砂の所に錨泊する。

第1ふ頭及び第2ふ頭並びに第3ふ頭の北側に至る港内は狭隘で、また第1ふ頭前面海域には取水管も敷設されているので錨泊には適さない。防波堤外方の検疫錨地は、概ね錨かきが良い。

5 港湾施設

| 名称 | 概位 | 長さ(m) | 水深(約m) | 係船能力(D/W×隻) | 備考 | |
|-----------|--------------------------|--------------------------|--------|-------------|----------|--|
| 弁天岸壁 | 44° 21.3' N 143° 21.6' E | 190 | 4.5 | 700×2 | | |
| 第2船だまり西岸壁 | 44° 21.0' N 143° 21.5' E | 312 | 5 | 700×4 | | |
| 第1ふ頭 | 東岸壁 | 44° 20.9' N 143° 21.7' E | 130 | 7.5 | 5,000×1 | |
| | 南岸壁 | 44° 20.8' N 143° 21.6' E | 90 | 3~6 | 2,000×1 | |
| 第2ふ頭 | 北岸壁 | 44° 20.8' N 143° 21.7' E | 131 | 6 | 3,000×1 | |
| | 東岸壁 | 44° 20.7' N 143° 21.8' E | 390 | 7.5 | 5,000×3 | |
| | 南岸壁 | 44° 20.5' N 143° 21.9' E | 130 | 7.5 | 5,000×1 | |
| | 西物揚場 | 44° 20.8' N 143° 21.6' E | 180 | 3~4 | 200t | |
| 第3ふ頭 | 北岸壁 | 44° 20.4' N 143° 22.2' E | 240 | 12 | 30,000×1 | |
| | 南岸壁 | 44° 20.3' N 143° 22.4' E | 130 | 7.5 | 5,000×1 | |
| 港南岸壁 | 44° 20.2' N 143° 22.4' E | 220 | 7.5 | 5,000×1 | | |

最大入港船舶 2004年7月28日、客船 飛鳥(28,856t、喫水6.7m)が港南岸壁に着岸した。

台風・津波対策 台風・津波等による海難事故を防止するため、オホーツク海沿岸地震・津波・台風等対策連絡会が設置されており、在港船舶などに対し、情報の伝達及び警戒体制・避難・入港制限の勧告・解除等の災害防止措置を指導している(問い合わせ先:紋別海上保安部 TEL 0158-27-5250)。

10

海事関係官公署

| 官公署名 | 連絡先 | 官公署名 | 連絡先 |
|---------------------|--------------------------|------------|----------------------------|
| 紋別海上保安部 | 0158-27-5250 | 小樽検疫所紋別出張所 | 旭川空港出張所へ連絡 0166-83-5180 |
| 函館税関 釧路税関支署紋別出張所 | 0158-23-3500 | 紋別市港湾管理事務所 | 0158-24-2828 |
| 札幌出入国在留管理局 旭川出張所 | (所在地旭川市) 0166-38-6755 | | |

引船 引船がある。

補給 清水及び燃料油の補給ができる。給油船がある。

15

廃油処理施設

| 事業者名 | 申込先 | 利用時間 | 処理する廃油の種類 | |
|------|--------------|-----------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| | | | 廃重質油 | 廃軽質油 |
| アシスト | 0153-75-0811 | 0800~1800 | ビルジ、水バラスト、タンク洗浄水、コレクトオイル、スロップオイル、スラッジ | ビルジ、水バラスト、タンク洗浄水、コレクトオイル、スロップオイル、スラッジ |

医療施設

| 名称 | 電話番号 |
|--------|--------------|
| 広域紋別病院 | 0158-24-3111 |

ウェンヒラリ岬～神威岬 (海図W1039)

概要 ウェンヒラリ岬～音稲府岬 (44° 37.8′ N 142° 55.6′ E) の約 24M間の海岸は、概ね砂浜で、その間に 2、3 の小さな岬が突出している。この沿岸は遠浅で、岩礁は岬付近のほかほとんどない。

水深 20m等深線は、概ね距岸 1.5～2M付近にある。

- 5 音稲府岬の南東方約 3Mに**雄武《オウム》港** (44° 35.2′ N 142° 58.0′ E) (港則法適用港) (JP OUM) がある。音稲府岬～神威岬の約 32M間の海岸は、北見山地の裾野が海に迫ってがけの所が多い。海岸には岩礁が多く、海草が茂り、距岸 1M以内には陰礁が散在する。1M以遠は概ね水深 10m以上である。

気象 雄武港付近では、地元の人が「ひかた」と呼んでいる西南西の暴風がある。「ひかた」は南高北低の気圧配置のとき、等圧線が東西に走ると西南西風が突然強くなり、風速 20m/s に及ぶことがある。

- 10 3～5月に最も多く、また、夏～秋季にも、台風や低気圧の通過に伴って猛威を振るうことがある。

暴風は、南は沙留岬付近から、北は音標岬付近まで及び、時として枝幸港付近まで及ぶこともある。また、海上は距岸 12M付近までその影響が及ぶ。

なお、「ひかた」は顕著なフェーン現象を起こすことが多い。

目標

| 地物名 | 概位 | 備考 |
|-----------|--------------------------|--|
| 双頭山 | 44° 21.0′ N 143° 13.6′ E | 高さ 280m、2頂の顕著な山で、北東方からよく見える。 |
| 藪《ウツ》岳 | 44° 17.5′ N 143° 05.0′ E | 高さ 818m、付近で最も高く、その鋭頂は容易に識別でき、北～北東方からはよく見える。 |
| 沙留《サルル》岬 | 44° 26.4′ N 143° 13.4′ E | 低い岬であるが、南東方からよく見え、レーダの好目標 |
| トウツ岳 | 44° 28.2′ N 142° 54.9′ E | 高さ 742m、山頂の北側は黒色の陰しいがけである。北東方から望むと頂が平らであるが、北方からは円すい形に見え、遠望顕著。 |
| 日ノ出岬 | 44° 31.9′ N 143° 03.8′ E | 展望台がある。 |
| 音稲府岬 | 44° 37.8′ N 142° 55.6′ E | 低い台形の岬で南東部に灯台がある。レーダの好目標 |
| ゴミ島〔ゴメ島〕 | 44° 42.0′ N 142° 49.9′ E | 高さ 11m |
| 音標《オトシベ》岬 | 44° 42.5′ N 142° 49.0′ E | 台形の岬、北西側に音標港がある。レーダの好目標 |
| シアッシリ山 | 44° 35.4′ N 142° 38.8′ E | 高さ 903mの鋭峰で、付近で最も高く、遠望顕著 |
| 函岳 | 44° 40.0′ N 142° 24.7′ E | 高さ 1,129m、北見山地北部の最高峰で、東側に白色のがけがある。 |
| ウスタイベ岬 | 44° 57.7′ N 142° 35.1′ E | 平らな岩の岬で、レーダの好目標。 |
| 野近《ノチカシ》山 | 44° 57.8′ N 142° 33.5′ E | 高さ 306m、北東方からよく見える。 |
| 力昼《リキビル》山 | 45° 01.1′ N 142° 31.5′ E | 高さ 201m、頂が平らで、孤立山のように見える。 |
| ポロヌプリ山 | 44° 57.7′ N 142° 25.2′ E | 高さ 840m、付近で最も高く、2頂があつて山頂の西側はがけを成し遠望顕著、春季の雪解けは、付近で最も遅いという。北方からは見えない。 |
| 神威《カムイ》岬 | 45° 03.6′ N 142° 30.3′ E | 岩角で、岬端に灯台がある。灯台の上は突起した 2 鋭岩で、東頂は高さ 137m、西頂は高さ 162mである。この岬は、沿岸の岬中最も顕著。レーダの好目標 |

第3章 宗谷海峡及び北海道西岸 (海図W3)

宗谷海峡 (海図W33、W1040)

概要 宗谷海峡は北海道と Sakhalin とを分離し、日本海とオホーツク海とを結ぶ短い海峡である。

5 宗谷岬と Mys Kril'on (西能登呂岬) {Sakhalin 南端} (45° 53.6' N 142° 04.7' E) との間は、海峡幅が約 23M であるが、Mys Kril'on の南東方約 9M に Skala Kamen'Opasnosti (二丈岩) (45° 47.5' N 142° 13.5' E) があるため、通峡幅は Skala Kamen'Opasnosti の南側で約 18M、北側で約 8M である。海峡内の水深は約 30~70m である。北海道側、Sakhalin 側共に距岸 2M 以遠は概ね水深 20m 以上で、Skala Kamen'Opasnosti のほか陰礁はない。海峡を航行する大型船は、宗谷岬の東方 13M にある **宗谷堆**

10 (45° 31' N 142° 15' E、最小水深 15.5m) に注意しなければならない。

霧 宗谷海峡の海霧は 6~8 月に多く発生し、海峡の北側は比較的南側より濃い。

海・潮流 (第2編 航路記 第4章 北海道北岸、47 ページ参照)

海氷 宗谷海峡内では、宗谷暖流の影響を受けるため、定着氷はあまり発達しない。しかし、オホーツク海で勢力を増した流氷が、北東風によって移動し、海峡東口を閉ざすことは珍しくなく、流氷帯が海峡内を浮遊し、日本海にまで達することもしばしばある。海峡内に流氷がある時期は、概ね 1~3 月であるが、4 月あるいは 5 月に入っても流氷が存在していた年もある。

15

目標

| 地物名 | 概位 | 備考 |
|--------------------------|--------------------------|---|
| Mys Kril'on | 45° 53.8' N 142° 04.7' E | サハリン島南西の Kril'on Skiy 半島南端にある岬、灯台がある。 |
| Mys Kuznetsova | 46° 02.8' N 141° 55.1' E | Kril'on 岬の北北西 22 海里に位置する岬、灯台がある。 |
| 杖 苫 内 《ツエトマナイ》 埼 | 45° 25.7' N 142° 02.1' E | 杖苫内埼~時前埼の間は、高さ約 100m の山が続き、両埼ともレーダの映りが良い。 |
| 宗 谷 岬 | 45° 31.4' N 141° 56.2' E | 高さ約 50m の台地で、岬端に灯台がある。レーダの好目標 |
| 野 寒 布 岬 | 45° 27.0' N 141° 38.7' E | 岬端の高さ約 1.5m、灯台、水族館 (白色) などがある。 |
| Skala Kamen'Opasnosti | 45° 47.5' N 142° 13.5' E | 高さ 8m の孤立岩でレーダに映りにくい灯台がある。 |

航行上の注意 宗谷岬灯台の西方約 2M にある礁脈及び野寒布岬の北方の暗礁に乗揚げる船舶が多い。

20 両岬付近を航行 (う回) する船舶は、これらの陰礁に注意しなければならない。

宗谷海峡は、夏季には濃霧、冬季には吹雪及び海氷等の影響を受け航行を困難にすることがある。

降雪は 10 月中旬~翌年 5 月中旬の間で、低気圧の中心が宗谷海峡付近を通過した後は、猛烈な吹雪が来襲して、荒天のうえ視界は不良となり航行を困難にする。

25 宗谷岬付近 (海図W1040)

概要 宗谷岬南東方約 5M の時前埼~同岬南西方約 4M の **富磯漁港** (45° 27.8' N 141° 52.5' E) 約 10M 間の区域について説明する。宗谷岬のある半島部は台地上の丘陵が南北に走り、北端の宗谷岬に向かって、次第に低くなっている。海岸は概ね砂浜で、距岸 1M 以内には岩礁が広く延びており、陰礁が散在する。また、岬の突端に **宗谷港** (45° 31.2' N 141° 56.9' E、避難港) があるが、港口付近一帯には、

30 多数の岩礁が散在しているため大型船の入港は難しく、20 t 以下の小型船が利用している。

宗谷岬付近



宗谷岬付近対景図

北北東方から宗谷岬を望む

5



宗 谷 湾 (海図W1040、W1041)

概要 宗谷岬とその西南西方約13Mの野寒布岬との間にある開湾で、南方へ約5M湾入し、湾の南西部に稚内港(30,000D/W級の船舶が入港可能)がある。

10 **航行上の注意** 宗谷岬から富磯漁港付近の間は、距岸0.8M以内に干出岩や水深4m未満の暗岩が多い。

声問埼から北方へ約1.5M延びる礁脈があり、声問埼沖灯標の北方約0.6Mには水深8.8mの暗礁(45°26.2' N 141°44.9' E)がある。

15 野寒布岬付近は浅礁が広く延びており、距岸0.7M以内は水深5m未満の暗礁があり、沿岸付近を航行する船舶にあつては、これらの礁脈等に注意する必要がある。

湾内に錨泊する船舶は、強風時には走錨する恐れがあるので、注意する必要がある。

なお、富磯漁港～野寒布岬間の距岸0.5～1.5M以内に定置網があり、声問埼の北東方5M付近にホタテ貝の養殖施設がある。声問埼、野寒布岬周辺の距岸0.9M以内にコンブの養殖施設がある。

20 **目標**

| 地物名 | 概位 | 備考 |
|-----------|--------------------------|--|
| 航空灯台 | 45° 23.9' N 141° 47.8' E | 稚内空港飛行場灯台、夜間の好目標 |
| 声問《コエトイ》埼 | 45° 24.8' N 141° 44.8' E | 声問埼の北方約0.8Mにある声問埼沖灯標は、東方からは稚内市街の灯火に紛れて見えにくい。 |
| 5 著屋 | 45° 26.4' N 141° 39.0' E | レーダドーム、各薄青色、顕著 |
| 塔 | 45° 25.0' N 141° 39.8' E | 記念塔、高さ249m、展望台がある。白・れんが色縦線塗、顕著 |
| 4 無線塔 | 45° 24.6' N 141° 39.7' E | 高さ228m、パラボラアンテナ、北方200mにも無線塔(高さ230m)がある。顕著 |
| 野寒布岬 | 45° 27.0' N 141° 38.7' E | 岬端の高さ約1.5m、灯台、水族館(白色)などがある。 |

稚 内 港 (45° 25′ N 141° 42′ E) (海図W1041) (JP WKJ)



(2017年9月撮影)

港種 特定港、開港、検疫港、出入国港、家畜検疫の港、植物防疫の港、重要港湾

5 **概要** 宗谷湾の西部にある港で、港域内は一般に北・東両防波堤及び南防波堤に囲まれた区域を内港、その他の区域を外港と称している。

北海道有数の漁業基地で漁船の出入りが多い。外航船の入港隻数は減少している。

北防波堤から北側の外港では、海底に約2mの起伏があって水深は不規則である。

10 この港は地形上、北西～北東の風を受ける。内港は防波堤に囲まれ北風をやや避けられるが、東方へ大きく開いているため、波浪やうねりが侵入し、風速7～10m/s以上になると荷役作業を中止することがある。

潮汐 この港における平均高高潮は0.3m、平均低低潮は0.1m、平均水面は0.18mである。日潮不等が極めて著しい。

15 **目標**

| 地物名 | 概位 | 備考 |
|------|--------------------------|----------------------------------|
| 3無線塔 | 45° 23.6′ N 141° 41.2′ E | 高さ76m、赤白塗、その南西方にある学校も目立つ。 |
| 無線塔 | 45° 24.0′ N 141° 42.0′ E | 稚内地方合同庁舎の屋上、パラボラアンテナ |
| タンク群 | 45° 25.0′ N 141° 40.7′ E | 中央ふ頭、白色 |
| 著屋 | 45° 24.9′ N 141° 40.7′ E | 港湾合同庁舎、4階建。屋上に無線塔、庁舎の周囲に3無線塔がある。 |
| 著屋 | 45° 25.1′ N 141° 40.7′ E | 白色、サフィールホテル稚内 |
| 2無線塔 | 45° 24.1′ N 141° 40.3′ E | 赤白塗、高さ161m(西側)、136m(東側) |

通信 船舶と港長との間で、「ほっかいどうほあん」を介しVHF無線電話による港務通信ができる。

| 呼出名称 | 周波数(呼出・応答/通信) | 運用時間 | 連絡先 |
|---|---------------|------|---------|
| ほっかいどうほあん HOKKAIDO COAST GUARD RADIO | ch16/12 | 常時 | 稚内海上保安部 |

20 **入港上の注意** 稚内港北副防波堤東灯台の東方では、北西～北風が連吹すると、その風波と北副防波堤先端部からの反射波とが衝突して三角波ができ、また、同灯台から声問埼の沖合にかけて一面にいそ波

海事関係官公署

| 官公署名 | 連絡先 | 官公署名 | 連絡先 |
|------------------|--------------|------------------|--------------|
| 稚内海上保安部（港長） | 0162-24-8810 | 小樽検疫所稚内出張所 | 0162-23-4403 |
| 函館税関稚内税関支署 | 0162-33-1075 | 札幌出入国在留管理局稚内港出張所 | 0162-23-3269 |
| 北海道運輸局旭川運輸支局稚内庁舎 | 0162-23-5047 | 稚内市稚内港港湾管理事務所 | 0162-29-0260 |

引船 引船（3,000PS など）が数隻ある。

補給 清水及び燃料油の補給ができる。

5 修理施設

| 造船所名 | 電話番号 |
|---------|--------------|
| 稚内港湾施設㈱ | 0162-23-2365 |

廃油処理施設

| 事業者名 | 申込先 | 利用時間 | 処理する廃油の種類 | |
|------|--------------|-----------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| | | | 廃重質油 | 廃軽質油 |
| テクノ | 0133-64-5222 | 0830～1800 | ビルジ、水バラスト、タンク洗浄水、コレクトオイル、スロップオイル、スラッジ | ビルジ、水バラスト、タンク洗浄水、コレクトオイル、スロップオイル、スラッジ |

医療施設

| 名 称 | 電話番号 |
|--------|--------------|
| 市立稚内病院 | 0162-23-2771 |

海上交通 香深港 {礼文島} 及び鷺泊港 {利尻島} との間にカーフェリー便（3,500 t 級）がある。

10

野寒布岬～天塩港（海図W1040）

概要 野寒布岬から天塩港にかけての約 37M間の海岸は、野寒布半島の西海岸（岩礁）を除き、砂浜が続き、沿岸部には目標となる地物が少ない。

野寒布岬からユーチ岬（45° 14.2′ N 141° 34.4′ E）にかけての約 13M間に坂ノ下湾及び抜海岬があり、その抜海岬の南側に抜海漁港（45° 18.6′ N 141° 36.9′ E）がある。

ユーチ岬から天塩港（44° 53′ N 141° 44′ E）にかけての約 23M間の海岸は砂浜で、10m等深線は、概ね距岸 1～1.8M付近を岸線に並走している。

航行上の注意 抜海岬の北西方約 1.2Mに水深 10mの暗岩（45° 19.5′ N 141° 35.6′ E）がある。抜海漁港及び天塩港は、大型船が利用できる他、東寄りの強風を避けることができる。

この沿岸の距岸約 1M以内には、定置網があり、抜海岬の北西方 3.5M付近にホタテ貝の養殖施設がある。

霧 夏季の霧は、数時間で消滅することが多い。

25

海上交通 稚内港と香深港〔礼文島〕及び鴛泊港〔利尻島〕との間のカーフェリー便は、冬季海氷のため、カーフェリーが稚内港に出入港できない場合には臨時に寄港する。

礼文島 (45° 22′ N 141° 02′ E) (海図W1043)

5 **概要** 礼文島は野寒布岬の西方約25Mにあり、南北の長さ約22kmの細長い島で、北端の船泊湾の東、西両側には、**オシオンナイ半島**と**浜中半島**とがある。

島の中央やや西寄りに最高峰の礼文岳がある。この山から南方は多少の起伏があるが、北方は次第に低くなり、船泊湾奥は砂浜である。同島の東岸は礫浜と岩海岸とが入り交じり、ほとんど平地はない。西岸は侵食のがけで高さ100m前後の所が多く、200mに達する所もある。

10 スコトン岬から北方へ約3Mまで礁脈が延びており、その間に**平島水道**その他の交通路があつて、地元漁船が利用しているが、航路を示す標識がないうえに海流が強いので、一般船舶の通航は避けた方がよい。

島の北岸沖には、**オオソリ** (45° 29.2′ N 141° 02.1′ E、最小水深0.3m)、**沖ノ礁** (45° 30.9′ N 140° 57.7′ E、最小水深1.2m)、**中ノ礁** (45° 29.6′ N 140° 57.6′ E、最小水深0.5m)、**東ノソリ** (45° 29.4′ N 140° 58.6′ E、水深0.1m)等の險礁が多く危険である。

15 同島の東、西両岸とも距岸500m以内には岩礁が多いが、その外方は概ね水深10m以上である。

島の東岸に香深港、船泊湾の東部に船泊港、西岸に**礼文西漁港鉄府地区** (45° 25′ N 140° 59′ E)及び**元地《モトチ》地区** (45° 18′ N 141° 01′ E)がある。

礼文島南端付近は距岸約0.6Mまで水深15m未満の岩礁が広く延びている。

礼文島周辺（鉄府以南の西岸を除く）の距岸0.4~1.2M以内にコンブの養殖施設がある。

20 **目標**

| 地物名 | 概位 | 備考 |
|---------|--------------------------|---|
| 種島 | 45° 30.3′ N 140° 57.7′ E | 高さ3.3m、最北方の水上岩で分かりやすい。 |
| スコトン岬 | 45° 27.9′ N 140° 58.0′ E | 浜中半島北端の低い岬 |
| 金田ノ岬 | 45° 27.7′ N 141° 02.0′ E | 岬上に灯台がある。 |
| オシオンナイ山 | 45° 26.1′ N 141° 03.2′ E | 高さ167m、オシオンナイ半島の基部にあり、付近では最も高く、東方からは3峰に見え、北・西方からも顕著 |
| 礼文岳 | 45° 22.4′ N 141° 00.7′ E | 高さ490m、南・北方向から見れば鋭い円すい形で、東・西方向からも顕著 |
| 香深山 | 45° 21.6′ N 141° 03.2′ E | 高さ217mのはげ山で、香深井錨地に接近するときの好目標 |
| 桃岩 | 45° 17.8′ N 141° 01.9′ E | 高さ250m、桃に似た岩山で、周囲は東側を除き険しいがけで、特に東・西方向からは顕著 |
| カランナイ岬 | 45° 16.4′ N 141° 01.7′ E | 礼文島南端の低い岬 |

台風・津波対策 台風・津波等による海難事故を防止するため、道北地区台風・津波等対策協議会が設置されており、在港船舶などに対し、情報の伝達及び警戒体制・避難・入港制限の勧告・解除等の災害防止措置を指導している（問合わせ先：稚内海上保安部 TEL 0162-24-8810）。

補給 少量の清水及び燃料油の補給ができる。

- 5 **海上交通** 稚内港、鴛泊港〔利尻島〕及び杓形港〔利尻島〕との間にカーフェリー便（3,500 t級）がある。

利尻島（45° 11′ N 141° 14′ E）（海図W21）

- 10 **概要** 利尻島は礼文水道を隔てて礼文島の南東方約 5Mにあり、東は利尻水道を隔てて北海道本陸と相対する。この島は直径約 16km のほぼ円形の火山島で、中央に利尻山がそびえ、その四周の裾野は台地状の低地で、礫浜が多い。

島の周辺の距離約 0.3M以内は、水深 10m未満の浅瀬となっている。

島の北岸に鴛泊港、西岸に杓形港、東岸に**鬼脇港**（45° 08.1′ N 141° 18.6′ E）（港則法適用港）（JP ONW）、南岸に**仙法志漁港**（45° 06.7′ N 141° 12.4′ E）がある。

- 15 20m等深線は、距岸 0.3～1.0M付近にあり、本泊《モトマリ》埼の西方約 0.8M、距岸 0.5Mに**沖ノ瀬**（45° 15.8′ N 141° 10.9′ E、水深 8.4m）が、北西岸の**栄浜埼**（45° 12.8′ N 141° 08.0′ E）の西北西方約 600mに水深 7.8mの浅所（45° 13.0′ N 141° 07.6′ E）がある。

鴛泊港には 1,000D/W級の船舶、鬼脇港には 300 t級の船舶が入港できる。また、鬼脇港及び鴛泊港の各港外には、大型船も錨泊できる。

- 20 利尻島周辺の距岸 1M以内に、コンブ、ホタテ貝などの養殖施設がある。

目標

| 地物名 | 概位 | 備考 |
|------|--------------------------|---|
| ベシ岬 | 45° 14.8′ N 141° 13.9′ E | 外側は陰しいがけで、岬頂は高さ 93mの鋭頂、その東側の台地に鴛泊灯台がある。 |
| 煙突 | 45° 13.5′ N 141° 09.4′ E | 高さ 61m |
| 杓形岬 | 45° 11.2′ N 141° 07.6′ E | 低い岬で、岬上に灯台がある。 |
| 利尻山 | 45° 10.7′ N 141° 14.5′ E | 高さ 1,721m、円すい形の火山で、利尻富士ともいわれる。夏季、北東風時又は大雨の後には、遠距離から全容が見えるので、船舶が遠く南～西方から宗谷海峡に向かうときの好目標 |
| 石埼 | 45° 09.0′ N 141° 19.8′ E | 低い埼で、埼上の灯台は昼夜とも顕著。レーダの好目標で、利尻水道を通航する船舶の最良の目標 |
| 仙法志埼 | 45° 05.8′ N 141° 14.2′ E | 利尻島南端の埼で、埼上に灯台がある。 |

鴛泊《オシドマリ》港 (45° 14' N 141° 14' E) (海図W21) (JP OSD)



(2017年9月撮影)

港種 港則法適用港

概要 利尻島北部のベシ岬南側にある港である。南東～南～北西の風波を避けることができ、特に西風強吹時の避泊に好適であるが、東風の強吹時や利尻山からの吹き降ろしには警戒しなければならない。

港域内は比較的遠浅で、5m等深線は距岸200～300m、10m等深線は距岸400～600mにあり、底質砂の所が多く、概ね錨かきが良い。

潮汐 この港における平均高高潮は0.2m、平均低低潮は0.1m、平均水面は0.17mである。

目標

| 地物名 | 概位 | 備考 |
|-----|-------------------------|------------------|
| 無線柱 | 45° 14.6' N 141° 13.6 E | 高さ78m、東方から見える、顕著 |

10 **港湾施設**

| 名称 | 概位 | 長さ(m) | 水深(約m) | 係船能力(D/W×隻) | 備考 |
|---------------|--------------------------|-------|---------|-------------|-----------|
| 中央岸壁 | 45° 14.6' N 141° 13.7' E | 118 | 3 | | |
| 港町岸壁(-6m岸壁) | 45° 14.5' N 141° 13.7' E | 153 | 5.5～6.5 | 1,000×2 | カーフェリーが発着 |
| 港町岸壁(-5.5m岸壁) | 45° 14.4' N 141° 13.7' E | 115 | 5 | | |

台風・津波対策 台風・津波等による海難事故を防止するため、道北地区台風・津波等対策協議会が設置されており、在港船舶などに対し、情報の伝達及び警戒体制・避難・入港制限の勧告・解除等の災害防止措置を指導している(問合わせ先: 稚内海上保安部 TEL 0162-24-8810)。

15 **補給** 清水、燃料油及び氷の補給ができる。

海上交通 稚内港、香深港{礼文島}との間にカーフェリー便(3,500t級)がある。

沓形《クツガタ》港 (45° 11' N 141° 08' E) (海図W21) (JP KTG)



(2017年9月撮影)

港種 港則法適用港

5 概要 利尻島西岸中部の沓形岬の北側にある港である。東～南の風波を避けられるが、冬季の錨泊は安全でない。港の北東側は、5m等深線が距岸400m付近にある。なお、東風強吹時には、利尻山からの吹き降ろしが非常に強いことがある。近年は港内及びその外方に錨泊する船舶は全くないという。

潮汐 この港における平均高高潮は0.2m、平均低低潮は0.1m、平均水面は0.18mである。

目標

| 地物名 | 概位 | 備考 |
|-----|--------------------------|------------------|
| 著屋 | 45° 11.4' N 141° 08.6' E | 中学校、濃茶色屋根 |
| 著屋 | 45° 11.3' N 141° 07.8' E | フェリーターミナル、新港第1岸壁 |

10

港湾施設

| 名称 | 概位 | 長さ (m) | 水深 (約m) | 係船能力 (D/W×隻) | 備考 |
|--------|--------------------------|--------|---------|--------------|--------------|
| 日出岸壁 | 45° 11.3' N 141° 08.2' E | 111 | 2.5~5 | — | |
| 日出第2岸壁 | | 85 | 4.5 | — | |
| 第1岸壁 | 45° 11.2' N 141° 08.1' E | 254 | 3.0~4.0 | — | |
| 第2岸壁 | 45° 11.3' N 141° 08.0' E | 110 | 3.0~3.5 | — | |
| 第3岸壁 | 45° 11.3' N 141° 08.0' E | 118 | 4.5~5 | — | |
| 第4岸壁 | 45° 11.3' N 141° 08.2' E | 50 | 3.0 | — | |
| 新港第1岸壁 | 45° 11.3' N 141° 07.8' E | 153 | 5.5~9.5 | — | カーフェリーが発着する。 |
| 新港第2岸壁 | 45° 11.3' N 141° 07.9' E | 90 | 5 | — | |
| 新港第3岸壁 | | 70 | 4.5~5.0 | — | |
| 新港第4岸壁 | 45° 11.3' N 141° 08.0' E | 160 | 7.5 | — | 耐震岸壁 |

最大入港船舶 2017年6月23日、客船 ぱしふいっくびいなす (26,518 t、喫水6.6m) が新港第4岸壁に着岸した。

15 台風・津波対策 台風・津波等による海難事故を防止するため、道北地区台風・津波等対策協議会が設置されており、在港船舶などに対し、情報の伝達及び警戒体制・避難・入港制限の勧告・解除等の災害防止措置を指導している (問合わせ先: 稚内海上保安部 TEL 0162-24-8810)。

豊岬《トヨサキ》漁港 (44° 34.0′ N 141° 46.5′ E) までは高さ 30~50m、のこぎりの歯のような形をした侵食されたがけ (淡茶色) である。

豊岬漁港から苫前埼の約 16M間の海岸は、砂浜及び高さ 20~30mの白茶色のがけが断続している。

天塩川河口の南方約 10Mに遠別漁港 (44° 43.4′ N 141° 47.0′ E)、苫前埼の北北東方約 4Mに羽幌港 (44° 22′ N 141° 42′ E、1,500D/W 級の船舶が入港可能)、同埼東側に苫前港 (44° 19.0′ N 141° 39.2′ E) (港則法適用港) (JP TJJ) がある。

10m等深線は距岸 0.5~1Mにあり、豊岬漁港とその南方約 2.5Mの初山別 (44° 32′ N 141° 47′ E) に至る距岸 0.5M以内は、岩礁が散在している。

羽幌港の西方約 2.8Mには、羽幌礁 (44° 22.3′ N 141° 38.0′ E、最小水深 5.4m) がある。

10 目標

| 地物名 | 概位 | 備考 |
|-------|--------------------------|---|
| 無線塔 | 44° 42.8′ N 141° 47.7′ E | 高さ 135m |
| 苫前埼 | 44° 18.9′ N 141° 38.8′ E | 小丘で、丘上に灯台及び無線塔 (パラボラアンテナ) がある。 レーダの好目標 |
| ピッシリ山 | 44° 21.3′ N 142° 01.9′ E | 高さ 1,032m、顕著 |

苫前埼付近対景図

西方から苫前埼付近を望む



15 羽幌《ハボロ》港 (44° 22′ N 141° 42′ E) (海図W40^A) (JP HBO)



(2017年7月撮影)

港種 港則法適用港

概要 苫前埼の北北東方約 4Mにある港である。天売島及び焼尻島との連絡港として、また、日本海沿岸漁業の基地として発展してきた。一般に南防波堤基部のふ頭南西側を商港区、北東側を漁港区と呼ん

港湾施設

| 名 称 | 概 位 | 長 さ (m) | 水 深 (約 m) | 係船能力 (D/W×隻) | 備 考 |
|---------|--------------------------|------------|-----------------|-----------------|-----|
| ー4.5m岸壁 | 44° 26.3' N 141° 19.6' E | 87 | 5 | — | |
| 物 揚 場 | 44° 26.4' N 141° 19.7' E | 80 | 3 | — | |
| 物 揚 場 | 44° 26.3' N 141° 19.8' E | 80 | 3~4 | — | |

台風・津波対策 台風・津波等による海難事故を防止するため、留萌管内船舶安全対策協議会 羽幌地区船舶津波・台風等対策部会が設置されており、在港船舶などに対し、情報の伝達及び警戒体制・避難・入港制限の勧告・解除等の災害防止措置を指導している（問合わせ先：留萌海上保安部 TEL 0164-42-0414）。

補給 少量の燃料油を補給できる。

海上交通 焼尻港（焼尻島）、羽幌港との間にカーフェリー及び高速船便がある。

武蔵水道 (44° 26' N 141° 22' E) (海図W40^B)



【写真を差し替え】(武蔵水道を南方から見る)

(2017年8月撮影)

概要 焼尻島及び天売島間にある水道で幅は約 2Mあるが、東側に東ノ瀬、西側に中ノ瀬及び西ノ瀬があるため、水深 10m以上の可航幅は約 1Mである。水道中央部の水深は 20m前後である。

海流 北へ向かう海流があるが、流速は微弱で、北風の強いときは南流することもある。

針路法 北航及び南航とも、東ノ瀬に注意して水道の中央よりもやや焼尻島寄りに航過すれば、水道東方の東ノ瀬及び西方の中ノ瀬を避けられる。

苫前埼～瀬越岬 (海図W1045)

概要 苫前埼から瀬越岬の約 22M間の海岸は、高さ 60~75mのがけが連なり、その下には幅の狭い砂浜が続いている。陸側には低い山脈が起伏しており、目標になる山は少ない。10m等深線は、距岸 1M以内にある。苫前埼から南方約 12Mまでの海岸には、岩礁が多い。

苫前埼の南方約 8Mに浜中礁 (44° 10.8' N 141° 38.7' E、最小水深 2.1m) がある。

この沿岸では、留萌港に 30,000D/W 級の船舶が入港できる。

気象 有数の強風地域で、特に冬季吹雪を伴う風速 20m/s 以上の西～北風が強吹することも珍しくない。留萌港付近の平穏期は、およそ 4月下旬～8月上旬で、荒天は 8月下旬～翌年 3月までの間に多い。

目標

| 地物名 | 概位 | 備考 |
|-----|--------------------------|---------------|
| 瀬越岬 | 43° 56.8' N 141° 37.7' E | 高さ約20mの台地の北西端 |
| 無線柱 | 43° 57.4' N 141° 38.7' E | 高さ120m |

留萌《ルモイ》港 (43° 57' N 141° 38' E) (海図W1046) (JP RMI)



(2017年7月撮影)

5

港種 特定港、開港、検疫港、出入国港、植物防疫の港、重要港湾

概要 瀬越岬の北側にある港で、港域内は第1区～第4区に分かれる。第1区、第2区を内港、第3区、第4区を外港と称している。

10 港口南から三泊1号岸壁までの航路筋は、水深12m以上が確保されている。内港に至る水路は水深約8mに掘り下げられているが、内港の泊地は狭小で、北風の強吹時には波浪が侵入する。

港口付近及び第4区の海岸寄り距岸約0.5M以内の水深は、漂砂によって不規則で浅い。当港に詳しい船舶は、10m等深線以内に入らないようにしている。

潮汐 この港における平均高高潮は0.2m、平均低低潮は0.0m、平均水面は0.16mである。日潮不等が極めて著しい。

15

目標

| 名称 | 概位 | 備考 |
|------|--------------------------|-----------------------------------|
| タンク群 | 43° 57.5' N 141° 38.6' E | 19基、白色 |
| 4サイロ | 43° 56.9' N 141° 38.5' E | セメント用 |
| 無線塔 | 43° 56.5' N 141° 38.2' E | 高さ81m、パラボラアンテナ、銀色、NTTビルの屋上、赤灯がある。 |
| サイロ | 43° 56.9' N 141° 38.1' E | セメント用 |

通信 船舶と港長との間で、「ほっかいどうほあん」を介しVHF無線電話による港務通信ができる。

| 呼出名称 | 周波数(呼出・応答/通信) | 運用時間 | 連絡先 |
|---|---------------|------|---------|
| ほっかいどうほあん HOKKAIDO COAST GUARD RADIO | ch16/12 | 常時 | 留萌海上保安部 |

水先 留萌水先区水先人会に要請する。(第 1 編 総記 第 6 章 水先、14 ページ参照)

出入港上の注意 出入港時における注意事項は、次のとおりである。

- 1 開発局留萌港西防波堤北灯台、留萌港西防波堤南仮設灯台及び留萌港南防波堤灯台の灯光は荒天時、波しぶきのため見えなくなることがある。また、冬季は着氷して光度が減少することがある。
- 5 2 冬季の西～北風の強吹時には、風下側の浅所に圧流されないよう注意を要する。
- 3 入港しようとする船舶は、天候が悪化してきた場合には、積丹岬又は利尻島通過後から VHF 無線通信を聴守し、留萌海上保安部（ほっかいどうほあん（第 1 編 総記 第 8 章 海難防止 「海上保安庁の通信業務」の項、21 ページ参照）経由）、船舶代理店などからの連絡呼出しに即応できる体制をとること（港内の状況及び港口付近の気象、海象などの情報を通報する）。
- 10 **海難** 過去の統計によれば乗揚げが多い。これは港奥への水路が南北方向で、特に冬季の強烈な西風で東方に圧流されやすいこと、第 4 区の東側（陸岸寄り）が急に浅くなっていることが考えられる。小型船の通航が多いことなどにもよる。

錨地

| 港 区 | 錨 地 の 概 要 |
|-----|---|
| 1 | 底質泥、北側の北岸壁、南側の南岸壁 3～5 号に係留する船舶以外は、300 t 未満の漁船・帆船及び汽船等に限られる。 |
| 2 | 底質泥、各種船舶 |
| 3 | 底質泥、砂、西～北風の強吹中は走錨する恐れがある。 |
| 4 | 検疫錨地が西防波堤の西側にある。西～北風の強吹中は走錨する恐れがある。 |

15 **港湾施設**

| 名 称 | 概 位 | 長 さ (m) | 水 深 (約m) | 係船能力 (D/W×隻) | 備 考 | |
|---------------|--------------------------|--------------------------|----------|--------------|---------|--|
| 古丹浜ふ頭 1 号岸壁 | 43° 57.2' N 141° 38.3' E | 185 | 10 | 15,000×1 | | |
| 古丹浜ふ頭 2・3 号岸壁 | 43° 57.1' N 141° 38.3' E | 260 | 7.5 | 5,000×2 | | |
| 北岸物揚場 | 43° 56.9' N 141° 38.4' E | 264 | 1～3 | | | |
| 北岸壁 1～3 号 | 43° 56.8' N 141° 38.6' E | 451 | 6～7 | 7,000×3 | | |
| 南岸壁 | 1・2 号 | 43° 56.8' N 141° 38.2' E | 295 | 6～7.5 | 7,000×2 | |
| | 3～5 号 | 43° 56.7' N 141° 38.4' E | 379 | 5～7.5 | 4,000×3 | |
| 物 揚 場 | 43° 56.7' N 141° 38.6' E | 160 | 4～5.5 | | | |
| 三泊 1 号岸壁 | 43° 58.2' N 141° 38.4' E | 240 | 10.5～12 | 30,000×1 | 第 4 区 | |

最大入港船舶 2007 年 10 月 2 日、客船 飛鳥Ⅱ（50,142 t、喫水 8.0m）が三泊 1 号岸壁に着岸した。

- 20 **台風・津波対策** 台風・津波等による海難事故を防止するため、留萌管内船舶安全対策協議会 留萌港船舶津波・台風等対策部会が設置されており、在港船舶などに対し、情報の伝達及び警戒体制・避難・入港制限の勧告・解除等の災害防止措置を指導している（問合わせ先：留萌海上保安部 TEL 0164-42-0414）。

海事関係官公署

| 官公署名 | 連絡先 | 官公署名 | 連絡先 |
|---------------------|-------------------------------|-------------------|--------------|
| 留萌海上保安部（港長） | 0164-42-0414 | 留萌市地域振興部 経済港湾課 | 0164-42-1840 |
| 函館税関札幌税関支署 留萌出張所 | 0164-42-0467 | | |
| 小樽検疫所留萌・石狩出張所 | 小樽検疫所（本所）へ 連絡 0134-23-4162 | | |

引船及びはしけ 引船のほか、はしけ用の小型引船がある。

通船 通船があり、第2区の南岸壁から発着する。

5 **補給** 清水及び燃料油の補給ができる。

修理施設 124 t以下の船舶を修理できる船架がある。

廃油処理施設

| 事業者名 | 申込先 | 利用時間 | 処理する廃油の種類 | |
|----------|--------------|-----------|---|---|
| | | | 廃重質油 | 廃軽質油 |
| テクノ | 0133-64-5222 | 0830～1800 | ビルジ、水バラスト、タンク 洗浄水、コレクトオイル、ス ロップオイル、スラッジ | ビルジ、水バラスト、タンク 洗浄水、コレクトオイル、ス ロップオイル、スラッジ |
| 道央油設処理公社 | 0126-65-2190 | 0800～1700 | ビルジ、水バラスト、タンク 洗浄水、コレクトオイル、ス ロップオイル、スラッジ | ビルジ、水バラスト、タンク 洗浄水、コレクトオイル、ス ロップオイル、スラッジ |

医療施設

| 名称 | 電話番号 |
|--------|--------------|
| 留萌市立病院 | 0164-49-1011 |

10

瀬越岬～雄冬岬（海図W1045）

概要 瀬越岬～雄冬岬の約19M間は、カムイェト岬付近を境にして、様相が違っている。

瀬越岬～野塚崎の約7M間の海岸は、やや弓形に浅く湾入し、野塚崎近くに2～3の小湾入部があり、概ね礫浜又は砂浜である。浜の上はすぐに高さ約40mのがけになっている。

15 野塚崎～雄冬岬の約12M間の海岸は、野塚崎の西側約3Mが浅く湾入して砂浜があるだけで、カムイェト岬付近から南西方は高さ約100m前後のがけになっており、がけ下には大石が散在している。

この沿岸は、カムイェト岬東北東方の**ニツ岩**（43° 50.4′ N 141° 28.4′ E、高さ2.3m）と**雄冬漁港**（43° 44.5′ N 141° 20.4′ E）沖合の**沖ノ瀬**（43° 45.5′ N 141° 19.1′ E、水深3.7m）、**地ノ瀬**（43° 45.1′ N 141° 19.3′ E、水深3.2m）及び**鮭《トド》島**（43° 44.4′ N 141° 19.7′ E、高さ2.6m）

20 を除けば、距岸0.5M以遠に水深10m以下の險礁はない。

雄冬岬の陸側には、天狗岳、雄冬山及び暑寒別岳などの顕著な目標があるが、これらの諸峰は天候の影響を受け見えない時もある。

この沿岸では、野塚崎の東側に増毛港がある。

海流 雄冬岬付近の海流は北方へ向う流れとなっているが、秋・冬季（10～12月）は南流することも

ある。

目標

| 地物名 | 概位 | 備考 |
|----------|--------------------------|---|
| 野塚埼 | 43° 51.5' N 141° 31.5' E | やや平らな埼で、東側の丘上に灯台がある。 |
| カムイエト岬 | 43° 50.1' N 141° 27.4' E | 付近は高さ約 100m のがけである。 |
| 日方《ヒカタ》岬 | 43° 48.4' N 141° 23.3' E | 高いがけの岬で、北東・南西方向から望むと顕著で、特に南西側の高さ約 30m の赤茶色のがけは南西方からよく見える。レーダの好目標 |
| 天狗岳 | 43° 46.7' N 141° 25.3' E | 高さ 939m、日方岬へ向かって次第に低くなっている。一見して南東方から北西方へ開いた屏風のように見える。この山並みの北西端（日方岬の上方）は灰色のがけで、高さ 494m の険しい山角を成し、北東方又は南西方から見ると顕著 |
| カクキ島 | 43° 46.6' N 141° 22.0' E | 高さ 33m の岩小島で、島上に赤灯がある。 |
| 赤岩岬 | 43° 45.5' N 141° 21.2' E | 赤茶色のがけで、西方から望むと顕著。その先端にある岩は小島のように見える |
| 雄冬岬 | 43° 43.5' N 141° 19.7' E | 高さ約 90m のがけの岬で、レーダの好目標。 |
| 雄冬山 | 43° 44.2' N 141° 24.4' E | 高さ 1,198m、遠望顕著 |
| 暑寒別岳 | 43° 43.0' N 141° 31.4' E | 高さ 1,491m、増毛山地の最高峰 |

雄冬岬付近対景図

西北西方から雄冬山を望む

5

暑寒別岳



増毛《マシケ》港 (43° 52' N 141° 32' E) (海図W40^A) (JP MSK)



10

(2017年7月撮影)

港種 港則法適用港

概要 留萌港の南西方約 7M にある港で、イカ釣り等の沿岸漁業の盛んな港である。北防波堤、中防波堤及び東防波堤に囲まれた船だまりを有する。

入港上の注意 東防波堤の北東側には、距岸 400m以内にホタテの養殖施設がある。秋、冬季は、南西及び西南西の風が強吹する。

潮汐 この港における平均高高潮は 0.2m、平均低低潮は 0.1m、平均水面は 0.18mである。

目標

| 地物名 | 概位 | 備考 |
|-----|--------------------------|-----------|
| 著屋 | 43° 51.4' N 141° 31.7' E | 漁業協同組合、白色 |

5

港湾施設

| 名称 | 概位 | 長さ (m) | 水深 (約m) | 係船能力 (D/W×隻) | 備考 |
|--------|--------------------------|--------|---------|--------------|----|
| 中央西岸壁 | 43° 51.3' N 141° 31.9' E | 275 | 4.5~6 | — | |
| 中央東岸壁 | 43° 51.3' N 141° 32.0' E | 244 | 4.5 | — | |
| 船入潤物揚場 | 43° 51.4' N 141° 31.8' E | 154 | 2.5~3 | — | |
| 弁天岸壁 | 43° 51.3' N 141° 31.7' E | 93 | 3 | — | |
| 中歌岸壁 | 43° 51.2' N 141° 31.9' E | 180 | 4.5~5.5 | — | |
| 北物揚場 | 43° 51.4' N 141° 32.0' E | 200 | 4~6 | — | |

台風・津波対策 台風・津波等による海難事故を防止するため、留萌管内船舶安全対策協議会 増毛地区船舶津波・台風等対策部会が設置されており、在港船舶などに対し、情報の伝達及び警戒体制・避難・入港制限の勧告・解除等の災害防止措置を指導している（問合わせ先：留萌海上保安部 TEL 0164-42-0414）。

10

雄冬岬～高島岬（海図W28）

概要 雄冬岬～愛冠岬の約 13M間の海岸は浅く湾入して出入りが少ない。雄冬岬付近と愛冠岬付近は高いがけ海岸であるが、その中間は礫浜又は砂浜である。雄冬岬の南南東方約 8Mに**浜益漁港**（43° 36' N 141° 23' E）がある。愛冠岬から高島岬の約 22M間の海岸は開湾で、高島岬の南側に小樽港がある。

15

愛冠岬から**厚田漁港**（43° 24' N 140° 26' E）付近の約 8M間の海岸は、がけ海岸が多く、それから**石狩川河口**（43° 16' N 141° 22' E）付近までは、概ね礫浜である。

石狩川河口から**銭函**の約 12M間の海岸は砂浜で、銭函以西は礫浜とがけ海岸とが断続している。石狩川河口に石狩港があるが、係船施設がなく、入港するのは、ほとんど地元漁船に限られている。石狩川河口の南西方約 4.5Mに石狩湾港がある。

20

石狩川は北海道一の河川で、比較的川幅が広く（河口で約 400m）、また水深も深く、河口から約 15M上流の江別市まで小型船が航行できる。

愛冠岬の北西方約 6M及び同岬の南西方約 6Mから南方約 2.5M間に、ホタテ貝の養殖施設がある。

海流 冬季以外は北流が多く、流速は 0.5~1kn 程度である。冬季は季節風の影響を受けるため、流向が不安定である。

25

目標

| 地物名 | 概位 | 備考 |
|----------------|--------------------------|---|
| 黄金山 | 43° 37.4' N 141° 28.4' E | 高さ 739m、すりばち形で顕著 |
| 愛冠 《アイカップ》岬 | 43° 31.1' N 141° 21.4' E | 高く険しいがけの岬で、南方又は北方から遠望すると岬の先端の小さい岬が離島のように見える。この岬はレーダの好目標 |
| 阿蘇岩山 | 43° 18.5' N 141° 31.2' E | 高さ 418m、頂上にドームがあり、顕著 |

目標

| 地物名 | 概位 | 備考 |
|-----|--------------------------|-------------|
| サイロ | 43° 11.4' N 141° 17.7' E | 高さ48m、灰色、顕著 |
| 煙突 | 43° 11.7' N 141° 16.4' E | 高さ87m、白色、顕著 |
| 無線塔 | 43° 11.6' N 141° 16.4' E | 高さ100m、顕著 |

通信 船舶と港長との間で、「ほっかいどうほあん」を介しVHF無線電話による港務通信（安全）ができる。

- 5 また、船舶と港湾管理者との間で、VHF無線電話による港務通信ができる。

| | 呼出名称 | 周波数(呼出・応答/通信) | 運用時間 | 連絡先 |
|-------|---|-----------------|-----------|--------------|
| 港長 | ほっかいどうほあん HOKKAIDO COAST GUARD RADIO | ch16/12 | 常時 | 小樽海上保安部 |
| 港湾管理者 | いしかりポートラジオ | ch16/11, 12, 14 | 0600～2000 | 0134-31-5635 |

水路 港内中央部から花畔ふ頭及び樽川ふ頭に至る水路（幅約300m、水深7.5～10m）があり、石狩湾港管理組合導灯（前灯）（後灯）（2灯一線167.7°）により導かれる。同水路は掘下げ水路のため水路を外れると浅い。

- 10 **航泊制限** 引火性危険物積載タンカーの引火による事故を防止するため、一般船舶は港内に停泊中の同タンカーから30m以内の海面に立ち入ってはならない。なお、同タンカーは、港内停泊中、夜間においても容易に視認しうる「引火性危険物積載中」の垂れ幕を掲げている。

錨地 底質は、主に砂で錨かきは悪く、北寄りの風波が大きいときには走錨の恐れがあり、錨泊には適さない。

- 15 **港湾施設**

| 名称 | 概位 | 長さ(m) | 水深(約m) | 係船能力(D/W×隻) | 備考 |
|---------|--------------------------|--------------------------|--------|-------------|----------|
| 東ふ頭 | 木材岸壁 | 43° 12.8' N 141° 18.0' E | 185 | 7～10 | 15,000×1 |
| | 2号岸壁 | 43° 12.9' N 141° 18.3' E | 130 | 7.5 | 5,000×1 |
| | 3号岸壁 | 43° 12.8' N 141° 18.3' E | 130 | 7.5 | 5,000×1 |
| 花畔ふ頭 | 1号岸壁 | 43° 11.5' N 141° 17.5' E | 185 | 8.5～11 | 15,000×1 |
| | 2号岸壁 | 43° 11.4' N 141° 17.6' E | 185 | 8～9.5 | 15,000×1 |
| | 3号岸壁 | 43° 11.3' N 141° 17.6' E | 130 | 9.5～10 | 5,000×1 |
| | 4号岸壁 | 43° 11.2' N 141° 17.6' E | 130 | 6.5～7 | 5,000×1 |
| | 5号岸壁 | 43° 11.2' N 141° 17.6' E | 130 | 6.5 | 5,000×1 |
| 樽川ふ頭 | 1号岸壁 | 43° 11.5' N 141° 17.3' E | 185 | 7.5～9 | 15,000×1 |
| | 2号岸壁 | 43° 11.4' N 141° 17.3' E | 185 | 6～8 | 15,000×1 |
| | 3号岸壁 | 43° 11.3' N 141° 17.3' E | 130 | 6～7.5 | 5,000×1 |
| | 4号岸壁 | 43° 11.2' N 141° 17.3' E | 130 | 3～6 | 5,000×1 |
| | 5号岸壁 | 43° 11.1' N 141° 17.4' E | 130 | 2.5～5 | 5,000×1 |
| 西ふ頭1号岸壁 | 43° 11.9' N 141° 16.9' E | 280 | 14 | 50,000×1 | |

台風・津波対策 台風・津波等による海難事故を防止するため、石狩・後志地域台風・津波等対策協議会が設置されており、在港船舶などに対し、情報の伝達及び警戒体制・避難・入港制限の勧告・解除等の災害防止措置を指導している（問い合わせ先：小樽海上保安部 TEL 0134-23-0481）。

海事関係官公署

| 官公署名 | 連絡先 | 官公署名 | 連絡先 |
|-------------------------|------------------------------|----------------------|--------------|
| 小樽海上保安部（港長） | 0134-23-0481 | 横浜植物防疫所札幌支所 小樽出張所 | 0134-23-4166 |
| 函館税関 小樽税関支署石狩出張所 | 0133-64-6797 | 札幌出入国在留管理局 小樽分室 | 0134-33-9238 |
| 小樽検疫所留萌・石狩出張所 | 小樽検疫所（本所）へ連絡 0134-23-4162 | 石狩湾新港管理組合 | 0133-64-6661 |
| 動物検疫所横浜本所 北海道出張所小樽分室 | 0134-33-2460 | | |

引船 引船がある。

補給 清水の補給ができる。

5 廃油処理施設

| 事業者名 | 申込先 | 利用時間 | 処理する廃油の種類 | |
|----------|--------------|-----------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| | | | 廃重質油 | 廃軽質油 |
| テクノ | 0133-64-5222 | 0830～1800 | ビルジ、水バラスト、タンク洗浄水、コレクトオイル、スロップオイル、スラッジ | ビルジ、水バラスト、タンク洗浄水、コレクトオイル、スロップオイル、スラッジ |
| 早来工営 | 0133-64-1311 | 0830～1730 | ビルジ、水バラスト、タンク洗浄水、コレクトオイル、スロップオイル、スラッジ | ビルジ、水バラスト、タンク洗浄水、コレクトオイル、スロップオイル、スラッジ |
| 道央油設処理公社 | 0126-65-2190 | 0800～1700 | ビルジ、水バラスト、タンク洗浄水、コレクトオイル、スロップオイル、スラッジ | ビルジ、水バラスト、タンク洗浄水、コレクトオイル、スロップオイル、スラッジ |

医療施設

| 名 称 | 電話番号 | 名 称 | 電話番号 |
|---------|--------------|---------------|--------------|
| 市立札幌病院 | 011-726-2211 | 小樽市立病院 | 0134-25-1211 |
| 済生会小樽病院 | 0134-25-4321 | 医療法人ひまわり会札幌病院 | 0134-62-5851 |
| 小樽協会病院 | 0134-23-6234 | | |

小樽港付近（海図W28）

銭函～高島岬の約 8.5M間の海岸について記載する。

- 10 霧 小樽港付近では、4月初旬～8月下旬に海霧が発生し、6、7月に最も多い。通常昼過ぎころに発生して、日没ごろに消散する。

海・潮流 小樽港付近の海流及び潮流の流速は弱い。

目標

| 地物名 | 概位 | 備考 |
|-----|--------------------------|---|
| 手稲山 | 43° 04.6' N 141° 11.6' E | 高さ 1,023m、山頂付近にテレビ中継所があって、その建物の灯火（水銀灯）及び付近にある 6 基のテレビ中継塔は顕著 |
| 丸山 | 43° 10.8' N 140° 55.4' E | 高さ 629m、鋭峰で、どの方向からみても山の形が同じに見える。 |
| 高島岬 | 43° 14.3' N 141° 01.0' E | 岬頂の日和《ヒヨリ》山（高さ 44m）上に日和山灯台があって顕著 |
| トド岩 | 43° 14.5' N 141° 00.6' E | 高さ 21mの黒色の小さな岩 |
| 赤岩山 | 43° 14.0' N 140° 58.9' E | 高さ 371m、海側に顕著ながけがあり、また、頂上付近に無線塔（赤白塗及び銀色、赤灯を点ずる）があって他の山と識別できる。 |

目標

| 地物名 | 概位 | 備考 |
|----------------|--------------------------|-------------------------------------|
| 茅柴岬 〔カヤシマ岬〕 | 43° 13.5′ N 141° 01.2′ E | 夜間、北方から接近する際には、背後の市街地が明るいため、黒く浮き出す。 |
| 著屋 | 43° 12.8′ N 141° 00.8′ E | 卸売市場、白色2階建 |
| 著屋 | 43° 12.0′ N 141° 00.2′ E | 地方合同庁舎、6階建、屋上に無線塔がある。 |
| 水天宮山 | 43° 11.6′ N 141° 00.3′ E | 高さ56m、山頂にある水天宮及び灯付鉄塔（銀色三角やぐら形）がある。 |
| 住吉山 | 43° 10.9′ N 141° 00.1′ E | 高さ87m |
| 平磯岬 | 43° 11.0′ N 141° 02.2′ E | 狭視界時でも岬端の茶色のがけは認めやすく、岬頂の著屋は昼夜ともに好目標 |

通信 船舶と港長との間で、「ほっかいどうほあん」を介し VHF 無線電話による港務通信（安全）ができる。

5 また、船舶と港湾管理者との間で、VHF 無線電話による港務通信ができる。

| | 呼出名称 | 周波数(呼出・応答/通信) | 運用時間 | 連絡先 |
|-------|---|-----------------|-----------|--------------|
| 港長 | ほっかいどうほあん HOKKAIDO COAST GUARD RADIO | ch16/12 | 常時 | 小樽海上保安部 |
| 港湾管理者 | おたるポートラジオ | ch16/11, 12, 14 | 0600～2000 | 0134-31-5635 |

水先 小樽水先区水先人会に要請する。(第1編 総記 第6章 水先、14ページ参照)

出入港上の注意 小樽港への出入港の際、高島岬沖を通過する場合は、ホタテ養殖施設があるため岬から2.5M以上離して航過する必要がある。(石狩湾 石狩湾協定航法について(参考)、163ページ参照)

10 港口通過の際は、地方合同庁舎などが目標になり、小樽港島堤灯台及び小樽港北副防波堤灯台は背後の市街地の灯火のため、見えにくいことがある。

航泊制限 煙突に火粉防止網を装備していない船舶、裸火を使用している船舶及び火気管理不十分な船舶は、港域内沿岸の石油類取扱所（油槽所、荷役岸壁等）並びに港域内に停泊中の石油類積載船舶（ガスを排除したものを除く）及び液化石油ガス積載船舶から30m以内の海面に立ち入ることが禁止されている。

障害物 第1区北方にある厩町岸壁の西側海底に多数のくい（旧高架栈橋の下部構造が残存したもの）がある。また、同岸壁南西角の西南西方約80m及び240mに沈鍾がある。

錨地 検疫錨地は、小樽港北防波堤灯台の北東方にあり、危険物積載船は第3区に錨泊しなければならない。

の災害防止措置を指導している（問合わせ先：小樽海上保安部 TEL 0134-23-0481）。

海事関係官公署

| 官公署名 | 連絡先 | 官公署名 | 連絡先 |
|-------------------------|--------------------|-------------------------|--------------|
| 第一管区海上保安本部 | 0134-27-0118 | 動物検疫所横浜本所 北海道出張所小樽分室 | 0134-33-2460 |
| 小樽海上保安部 (小樽港長、石狩湾港長) | 0134-23-0481 | 横浜植物防疫所札幌支所 小樽出張所 | 0134-23-4166 |
| 北海道運輸局 小樽海事連絡事務所 | 0134-27-7172 | 札幌出入国在留管理局 小樽分室 | 0134-33-9238 |
| 函館税関小樽税関支署 | 0134-23-4163 | 小樽市産業港湾部港湾室 | 0134-23-1107 |
| 小樽検疫所（本所） | 検疫衛生課 0134-23-4162 | | |

引船 引船がある。

5 通船 通船があり、第3ふ頭18号岸壁西側の船員船客乗降栈橋から発着する。

補給 清水、燃料油及び氷の補給ができる。高島地区岸壁では氷の補給ができる。小型給油船がある。

廃油処理施設

| 事業者名 | 申込先 | 利用時間 | 処理する廃油の種類 | |
|----------|--------------|-----------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| | | | 廃重質油 | 廃軽質油 |
| テクノ | 0133-64-5222 | 0830～1800 | ビルジ、水バラスト、タンク洗淨水、コレクトオイル、スロップオイル、スラッジ | ビルジ、水バラスト、タンク洗淨水、コレクトオイル、スロップオイル、スラッジ |
| 早来工営 | 0133-64-1311 | 0830～1730 | ビルジ、水バラスト、タンク洗淨水、コレクトオイル、スロップオイル、スラッジ | ビルジ、水バラスト、タンク洗淨水、コレクトオイル、スロップオイル、スラッジ |
| 道央油設処理公社 | 0126-65-2190 | 0800～1700 | ビルジ、水バラスト、タンク洗淨水、コレクトオイル、スロップオイル、スラッジ | ビルジ、水バラスト、タンク洗淨水、コレクトオイル、スロップオイル、スラッジ |

医療施設

| 名 称 | 電話番号 | 名 称 | 電話番号 |
|---------|--------------|---------------|--------------|
| 市立札幌病院 | 011-726-2211 | 小樽市立病院 | 0134-25-1211 |
| 済生会小樽病院 | 0134-25-4321 | 医療法人ひまわり会札幌病院 | 0134-62-5851 |
| 小樽協会病院 | 0134-23-6234 | | |

10 海上交通 新潟港、舞鶴港との間にそれぞれカーフェリー便がある。

高島岬～積丹岬（海図W28）

概要 高島岬から積丹岬の約26M間は浸食海岸で、その間に塩谷湾、余市湾及び古平湾などの小湾がある。湾入部の前面はやや遠浅であるが、全般的に岸近くまで深水で、距岸約0.5M以遠には水深10m未満の險礁はない。

15

目標

| 地物名 | 概位 | 備考 |
|-----------|--------------------------|--|
| 窓岩鼻 | 43° 13.7' N 140° 55.6' E | 鼻上に突起する峰は海側が絶壁で、その下部に窓のような横穴がある。 |
| 竜ヶ岬 | 43° 13.1' N 140° 51.8' E | 半島の東端を竜ヶ岬、北西端を兜岬といい、半島東側にある頂は高さ88m。両岬ともレーダの好目標 |
| 兜岬 | 43° 12.9' N 140° 51.2' E | |
| シリパ岬 | 43° 13.7' N 140° 46.3' E | 岬頂は、高さ296m、鋭頂で海側は高い絶壁であるが、陸側は次第に低くなっている。尻場山は遠方からもよく見え、余市湾を知る好目標。また、レーダの好目標 |
| 中ノ沢山 | 43° 06.5' N 140° 47.2' E | 2峰で、東の平頂を中ノ沢山、西の鋭峰を大黒山（高さ725m）という。 |
| 大黒山 | 43° 06.3' N 140° 46.6' E | |
| 蠟燭《ロウソク》岩 | 43° 15.2' N 140° 43.4' E | 高さ46m、海面から直立する岩で、沿岸航行時の好目標。南東方からは和船の帆柱のようにも見える。 |
| 大森山 | 43° 17.1' N 140° 37.1' E | 高さ426m |
| 泥ノ木山 | 43° 13.8' N 140° 32.1' E | 2頂の山で、西頂は高さ904mの鋭峰で、北東方から望めば顕著 |
| 宝島 | 43° 18.4' N 140° 36.1' E | 高さ96m |
| マッカ岬 | 43° 21.6' N 140° 31.6' E | 岬端は険しいがけで、そのすぐ前面に2突岩があり、南東方又は北西方から見ると顕著。レーダの好目標 |
| 出岬 | 43° 22.5' N 140° 28.9' E | 積丹半島の北端で、岬上に灯台がある。 |
| 積丹岬 | 43° 22.3' N 140° 27.7' E | がけの岬で、岬頂の高さ120m、岬上に無線塔（パラボラアンテナ）がある。レーダの好目標 |

塩谷湾 (43° 13' N 140° 53' E) (海図W28)

- 5 概要 高島岬の西方約4.3Mの立岩 (43° 13.5' N 140° 55.1' E) とその西方約2.5Mの竜ヶ岬との間にある開湾である。東部の塩谷漁港 (43° 13.6' N 140° 55.1' E) の前面で水深7~16mは、東寄りの風の避泊に良い。立岩の西方約0.5Mにクリ礁 (43° 13.3' N 140° 54.4' E、水深3.6mの孤立礁) がある。その周囲は急深である。クリ礁の南方付近は岩盤質で、錨泊に適しない。

余市《ヨイチ》湾 (43° 12' N 140° 49' E) (海図W28)

- 10 概要 兜岬とシリパ岬との間にある開湾で、北方へ開き、海岸は概ね砂浜である。湾口の幅は約3.4Mで約1.5M湾入し、水深は湾口中央の29mから湾奥へ向かって次第に浅くなっている。底質砂で障害物もないが、北東寄りの風のときには、うねりが侵入して錨泊に適しない。湾の西側に余市港がある。

- 15 兜岬の南東側にある忍路《オショロ》漁港 (43° 12.7' N 140° 51.5' E) は、南東方へ約0.5M湾入する幅約200mの小湾で、水深は湾口の14.6mから湾奥へ向かって次第に浅くなり、中央部でも水深5m以上、底質砂泥で風波の影響をほとんど受けず、小型船が利用している。

港湾施設

| 名 称 | 概 位 | 長 さ (m) | 水 深 (約m) | 係船能力 (D/W×隻) | 備 考 |
|---------|--------------------------|------------|-------------|-----------------|---------|
| － 4m 岸壁 | 43° 16.7' N 140° 38.4' E | 210 | 2.5～3.5 | － | 給水所がある。 |
| 漁業ふ頭岸壁 | 43° 16.6' N 140° 38.4' E | 延長 122 | 3～3.5 | － | |
| － 4m 岸壁 | 43° 16.6' N 140° 38.3' E | 142 | 3～3.5 | － | |
| 中央ふ頭岸壁 | 43° 16.5' N 140° 38.2' E | 延長 270 | 3～4.5 | － | |
| － 4m 岸壁 | 43° 16.4' N 140° 38.2' E | 200 | 3～3.5 | － | |

上表のほか、西防波堤及び同基部船揚場の一部施設は、漁船以外のプレジャーボート等の受入れが周年可能である。また、東防波堤の一部施設についても、期間を定めて受入れが行われている。

5

補給 清水、燃料油及び氷の補給ができる。

積丹岬～川白岬 {積丹半島北西岸} (海図W28)

概要 積丹岬～神威岬の約 5.5M間の海岸はやや弓形に湾入し、余別岳及び積丹岬に続く台地性の山地が海岸まで迫って、海食のがけとなり礫浜が多い。

神威岬から川白岬 (43° 13.2' N 140° 19.5' E) の約 7M間の海岸は山地が海に迫って、高いがけが続く、概ね砂浜である。海岸近くには岩石が多いが、距岸 0.5M以遠は水深 10m以上である。

神威岬から北西方へ約 0.6M延びる浅水の礁脈があり、暗岩 (43° 20.4' N 140° 20.4' E) がメノコ岩 (高さ 10m) の北西方約 400mにある。

15 神威岬の東方 2M付近に余別漁港 (43° 19.9' N 140° 22.8' E; 東を来岸地区、西を余別地区という) がある。

霧 5 月は霧の来襲することがあっても、間もなく消散する。6 月の霧は、概ね西方の海上から来襲して海面一帯を覆い、時として十数時間も継続することがあるが、2～3 時間で消散することが多い。7 月に入れば概ね濃霧となるが、数時間で消散する。

20 目標

| 地物名 | 概 位 | 備 考 | |
|-------------------|--------------------------|--|------|
| 積丹岳 | 43° 16.2' N 140° 28.8' E | 高さ 1,255m | 遠望顕著 |
| 余別岳 | 43° 15.6' N 140° 27.5' E | 高さ 1,298m、積丹半島の最高峰 | |
| 神威岬 | 43° 20.1' N 140° 20.8' E | 細長く突出した高いがけの岬で、灯台がある。岬の北西方約 300mにある神威岩 (高さ 40m) は最も高く鋭くとがっていて認めやすい。最外方のメノコ岩 (高さ 10m) は低くて平らな岩である。レーダの好目標 | |
| 西ノ河原 《サイノカワラ》岬 | 43° 15.6' N 140° 19.6' E | 高さ約 70mの岩の岬 | |
| 窓岩 | 43° 14.5' N 140° 19.6' E | 高さ 45mの岩 | |

航行上の注意 神威岬から白神岬 (41° 23.8' N 140° 11.8' E) の海域は、冬季の北西風により航海を困難にする。また、奥尻島東岸を除いては、西寄りの風を避けるのに適当な避泊地が少ないため、荒天中に無理な航海を行って、転覆したり乗揚げたりする事故が発生している。

25 この海域で低気圧や台風の通過に伴って風向が変化する場合には、南西～北西風に変わってから、更に風力が強まり、海上は荒天になることが多いので、航海中はもちろん、避泊する場合でも、西寄りの強風

港湾施設

| 名称 | 概位 | 長さ (m) | 水深 (約m) | 係船能力 (D/W×隻) | 備考 |
|------------|-----------------------------|-----------|------------|-----------------|--------|
| 東ふ頭-8m岸壁 | 新港 42° 59.8' N 140° 31.2' E | 230 | 8 | 13,500×1 | |
| 東ふ頭-7.5m岸壁 | 新港 42° 59.7' N 140° 31.3' E | 260 | 7.5 | 5,000×2 | |
| 中央ふ頭第1岸壁 | 外港 42° 59.2' N 140° 30.9' E | 111 | 4.5 | 3,000×1 | |
| 中央ふ頭第2岸壁 | 外港 42° 59.3' N 140° 30.9' E | 130 | 6.5~7.5 | 5,000×1 | |
| 大浜ふ頭物揚場 | 外港 42° 59.3' N 140° 31.0' E | 延長 210 | 3 | — | |
| 漁業ふ頭岸壁 | 外港 42° 59.2' N 140° 30.8' E | 225 | 5 | 1,000×3 | |
| 漁業ふ頭物揚場 | 内港 42° 59.1' N 140° 30.8' E | 延長 450 | 2~4.5 | — | |
| 大和物揚場 | 内港 42° 59.1' N 140° 30.4' E | 延長 260 | 4 | — | 西側船だまり |
| ふ頭物揚場 | 内港 42° 59.1' N 140° 30.5' E | 延長 237 | 3~4 | — | 第1ふ頭 |
| 万代物揚場 | 内港 42° 59.0' N 140° 30.7' E | 延長 750 | 4以下 | — | 南岸 |

5 台風・津波対策 台風・津波等による海難事故を防止するため、石狩・後志地域台風・津波等対策協議会が設置されており、在港船舶などに対し、情報の伝達及び警戒体制・避難・入港制限の勧告・解除等の災害防止措置を指導している（問い合わせ先：小樽海上保安部 TEL 0134-23-0481）。

補給 清水、氷及び燃料油の補給ができる。

修理施設 50 t 以下の小型船艇を修理できる船架がある。

医療施設

| 名称 | 電話番号 | 名称 | 電話番号 |
|------------------|--------------|--------|--------------|
| J A北海道厚生連俱知安厚生病院 | 0136-22-1141 | 岩内協会病院 | 0135-62-1021 |

10 寿都《スツツ》湾 (42° 48' N 140° 16' E) (海図W22)

概要 美谷ノ埼と弁慶岬との間にある開湾で、湾口の幅約 5M、南方へ約 3.5M湾入し、西方に寿都港がある。

水深は、湾口から湾奥の砂浜へ向かって浅くなり、距岸 1Mで 20m前後、距岸 0.5Mで約 10mとなる。東、西の岸近くには多数の岩礁が散在している。

15 大丸埼の周辺約 500m以内には浅礁が広がっており、大丸磯 (42° 48.3' N 140° 13.5' E) の礁上に灯台がある。

湾内は広範囲にホタテ貝、養殖施設等が多数設置されているので、湾内航行には注意を要する。

20 気象 北海道南岸にある内浦湾に吹き込んだ南寄りの風が朱太川の低地を通り、この湾に吹き抜ける際に寿都町にかけての低地が狭くなっていることによって強まる。この南寄りの風は、だし風と呼ばれ、春～夏にかけて特に 5～7 月の間は強吹き、時に 1 週間以上も吹き続くことがあり、平均最大風速は 14～18m/s に達して、北方沖合約 5M付近まで影響を及ぼすが、弁慶岬以西では影響がない。

霧 朱太川の下流流域に発生する放射霧は、天気の良い朝に多く、海上に低くたなびき、晴れるのも早い。内浦湾方面から南寄りの風に送られて来襲する霧は、付近の山岳では濃い、海上では薄い。

議会が設置されており、在港船舶などに対し、情報の伝達及び警戒体制・避難・入港制限の勧告・解除等の災害防止措置を指導している（問合わせ先：小樽海上保安部 TEL 0134-23-0481）。

補給 清水及び燃料の補給ができる。

医療施設

| 名 称 | 電 話 番 号 |
|-----------|--------------|
| 寿都町立寿都診療所 | 0136-62-2411 |

5

弁慶岬～帆越岬（海図W11）

概要 弁慶岬から白糸岬（42° 39.9′ N 139° 52.2′ E）の約17M間の海岸は、ほぼ弓形に浅く湾入し、概ね砂浜であり、背後の山地は南西方にしたがって海岸に迫っている。沖合では水深の変化が急で、本目岬の北西方では、200m等深線が極端に陸岸に接近している。

10 白糸岬から帆越岬（42° 15.6′ N 139° 46.3′ E）の間は、瀬棚港（3,000D/W級の船舶が入港可能）から南方に約4M続く砂浜を除き、がけ海岸が続く。

この沿岸は比較的岸近くまで深く、瀬棚港南方の人喰ゾリのほか、距岸0.5M以遠に水深10m以下の陰礁はない。

15 **人喰ゾリ**〔伊勢鉢ソリ〕（42° 26.3′ N 139° 50.0′ E）は瀬棚港の南南西方約1M、距岸約0.5Mにあり、この付近では最外方の暗礁で、その周囲は水深16～18mである。この暗礁と瀬棚港との間には水上岩や暗岩が散在している。

目標

| 地物名 | 概 位 | 備 考 |
|---------------|--------------------------|---|
| 本目岬 | 42° 44.6′ N 140° 06.8′ E | 小さな低い岬で、岬上に灯台がある。 |
| 木巻岬 | 42° 41.3′ N 139° 55.5′ E | 岬上に灯台がある。 |
| 白糸岬 | 42° 39.9′ N 139° 52.2′ E | |
| 茂津多 《モッタ》岬 | 42° 36.6′ N 139° 49.3′ E | 険しいがけ（赤色）の岬、岬上は高さ200～300mの台地で、その北部に灯台があり、遠望顕著 |
| 狩場山 | 42° 36.8′ N 139° 56.5′ E | 高さ1,520m |
| カスベ岳 | 42° 32.7′ N 139° 59.0′ E | 高さ1,049m、正三角形の山で、南西方から遠望顕著 |
| 水垂《ミタレ》岬 | 42° 21.2′ N 139° 46.6′ E | 岬上に灯台がある。 |
| 尾花岬 | 42° 18.2′ N 139° 46.0′ E | 赤色の険しいがけの岬で、南西方から遠望顕著 |
| 毛無山 | 42° 17.7′ N 139° 48.7′ E | 高さ816m、円頂 |
| 帆越岬 | 42° 15.6′ N 139° 46.3′ E | 岬端は低い、岬上至近の帆越山（高さ322m）は円すい形の山で、南・北方向からは良く見える。 |

弁慶岬付近対景図

北方から弁慶岬～茂津多岬を望む

20



目標

| 地物名 | 概位 | 備考 |
|--------------|--------------------------|-----------------------|
| 立象山《リッショウサン》 | 42° 27.4' N 139° 51.1' E | 高さ95m、頂部に展望台がある。 |
| 蠟燭《ロウソク》岩 | 42° 27.3' N 139° 50.6' E | 高さ24m |
| 風力タービン | 42° 26.7' N 139° 50.4' E | 高さ70m、港内に2基、陸上に6基がある。 |

出入港上の注意 南西寄りの強風時には、出入に注意する必要がある。

港域内の沿岸は、多数の水上岩、暗礁が散在している。

- 5 蠟燭岩は干出礁に囲まれて、その西北西方約280mに蠟燭岩高ソリ(42° 27.4' N 139° 50.4' E、最小水深1.7mの暗礁)がある。南外防波堤灯台の南南西方約350mにクジラ岩(42° 26.9' N 139° 50.4' E、高さ1.4m)があり、また、東外防波堤の中ほどから北方約140mの間は、水深5m以下の暗礁脈がある。

港湾施設

| 名称 | 概位 | 長さ(m) | 水深(約m) | 係船能力(D/W×隻) | 備考 |
|-----------|--------------------------|-------|---------|------------------|-----------|
| 西ふ頭岸壁 | 42° 27.3' N 139° 50.6' E | 145 | 1.5~3 | 700×2 | |
| 北ふ頭岸壁 | 42° 27.4' N 139° 50.7' E | 150 | 1.5~3.5 | 700×1 2,000×1 | |
| 中央ふ頭物揚場 | 42° 27.3' N 139° 50.7' E | 100 | 3.5 | | |
| 外ふ頭岸壁 | 42° 27.2' N 139° 50.8' E | 115 | 5~5.5 | 2,000×1 | カーフェリーが発着 |
| 東側-5.5m岸壁 | 42° 27.1' N 139° 50.8' E | 200 | 3~4.5 | 2,000×2 | |
| 南側-5.5m岸壁 | 42° 26.9' N 139° 50.8' E | 130 | 7 | 3,000×1 | |

10

台風・津波対策 台風・津波等による海難事故を防止するため、渡島及び檜山地区台風・津波等対策協議会が設置されており、在港船舶などに対し、情報の伝達及び警戒体制・避難・入港制限の勧告・解除等の災害防止措置を指導している(問い合わせ先: 函館海上保安部 TEL 0138-42-5658)。

海事関係官公署

| 官公署名 | 連絡先 |
|---------|--------------|
| 瀬棚海上保安署 | 0137-87-2634 |

15

補給 清水、氷及び燃料油の補給ができる。

廃油処理施設

| 事業者名 | 申込先 | 利用時間 | 処理する廃油の種類 | |
|------|--------------|-----------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| | | | 廃重質油 | 廃軽質油 |
| テクノ | 0133-64-5222 | 0830~1800 | ビルジ、水バラスト、タンク洗浄水、コレクトオイル、スロップオイル、スラッジ | ビルジ、水バラスト、タンク洗浄水、コレクトオイル、スロップオイル、スラッジ |

医療施設

| 名称 | 電話番号 |
|-----------|--------------|
| せたな町立国保病院 | 0137-84-5321 |

~~海上交通~~— 奥尻港との間にカーフェリー便(5月上旬~10月中旬)がある。(平成31年3月をもって

20

~~休止)~~

久遠《クドウ》湾 (42° 12' N 139° 51' E) (海図W11)

概要 小歌岬とその南東方約 3.6Mのヨリキ岬 (42° 11.5' N 139° 52.9' E) との間に、約 1M湾入する開湾である。奥尻海峡を通航する船舶で、強い北風に遭ったときに、この湾内に避泊する船舶があるが風向が西寄りに変わると、避泊に適さなくなる。

- 5 湾内は稲穂岬 (42° 13.2' N 139° 50.1' E) 及び横澗岬 (42° 13.1' N 139° 51.0' E) などによって小さく区分されている。横澗岬からヨリキ岬間の海岸は、少し北東へ湾入する砂浜で、その前面の水深 13~18m、底質砂の所は、大型船の錨泊にも適する。

稲穂岬の西側に久遠漁港 (42° 13.3' N 139° 49.9' E) がある。

10 ポンモシリ岬～大埼 (海図W11)

概要 ポンモシリ岬～大埼の約 21M間の海岸は、浅く湾入した開湾で、南端部の上ノ国町地先に湾入部がある。両岬の間は概ね砂浜又は礫浜で、所々に岩海岸がある。

10m等深線は、距岸 0.8M前後にある。

- 15 江差港に 2,000D/W 級の船舶が入港でき、江差港外及び上ノ国地先の湾入部付近には、風向によって大型船が避泊できる。ポンモシリ岬の東方約 2.8Mに熊石漁港 (42° 08' N 139° 59' E) がある。

海霧 江差港付近では、4~6 月の間は少ないが、7 月が最も多い。概ね昼間に多く発生し、時には海面からわくように発生し、風が吹いて消散することもあるという。霧域は広くて相当高い。

目標

| 地物名 | 概位 | 備考 |
|----------|--------------------------|--|
| 毛無山 | 42° 07.8' N 140° 03.7' E | 高さ 720m |
| エガミ山 | 42° 04.1' N 140° 07.6' E | 高さ 646m、鋭頂 |
| 6 無線塔 | 41° 57.4' N 140° 08.8' E | 最高のものは高さ約 175m、各塔頂に 2 赤灯。6 無線塔のうち海図には、1 塔のみ記載してある。 |
| 鷗《カモメ》島 | 41° 52.2' N 140° 06.8' E | 高さ 27m、全周岩海岸で、ほぼ中央が低く、西方沖合からは 2 島のように見える。その北部の高所に灯台がある。レーダの好目標 |
| 元山 | 41° 52.1' N 140° 11.9' E | 高さ 522m、頂上に樹木がなく淡緑色に見えて顕著 |
| 八幡岳 | 41° 51.0' N 140° 13.8' E | 高さ 664m |
| 大埼 | 41° 48.2' N 140° 04.2' E | 岬の先端は岩礁地帯となっている。 |
| 夷王《イオウ》山 | 41° 48.1' N 140° 05.8' E | 高さ 159m |

よい。しかし、錨泊する際には、付近の定置網等に注意を要する。

大埼～白神岬 (海図W11)

5 **概要** 大埼から弁天島の約24M間の海岸は、西方へ少し張り出し、弁天島と白神岬との間に松前湾がある。

弁天島の西南西方約13Mに**小島** (41° 21.7' N 139° 48.3' E) があり、さらにその西北西方約21Mに**大島** (41° 30.7' N 139° 21.5' E) がある。

大埼から**石崎川河口** (41° 42.4' N 140° 01.4' E) の約6Mは概ね砂浜で、それから**江良漁港** (41° 32.8' N 139° 59.3' E) までの約10M間はがけ、江良漁港から白神岬の約14M間は礫浜である。

10 この沿岸の距岸0.5M以内には岩礁が多く、その外側は概ね急深である。沿岸を航行する船舶は、松前灯台北西方のヨシ島及び**三ツ石** (40° 25.9' N 140° 03.3' E) に注意しなければならない。

この沿岸には良い港湾が少なく、小型船の利用できる港が数港あるだけである。松前港外には、風向によって大型船も仮泊することができる。

15 **霧** 松前港付近では、霧の発生するのは5月中旬～8月初旬の間で、梅雨期とその前後の6、7月ころに最も多く、8月にはほとんど発生しない。その頻度は少ないが、濃密な海霧が多い。

霧期には降雨後概ね霧が発生するが、風の強いときには薄い霧である。また、北西又は北の弱い風で好天気が続くときには、未明に濃霧が発生して数時間で消散する。濃霧の継続時間は比較的短く、霧域も狭い。

潮流 松前湾の潮流は上げ潮流は東方へ、下げ潮流は西方へ流れ、流速は微弱である。流れは海流が潮流を圧して、東流に1～2.5knで流れる。

20 **海流** 概ね北上する対馬暖流は江良漁港付近でしばしば反流を起こし、北海道本陸の近くを南流して、白神岬付近で津軽暖流に合流して東流する流れが存在する。

目標

| 地物名 | 概位 | 備考 |
|-----------------|--------------------------|--|
| 日方泊 《ヒカタマリ》岬 | 41° 39.0' N 139° 59.8' E | がけの岬で、岬上に灯台がある。岬端付近に2、3の孤立岩がある。 |
| 笹山 | 41° 31.8' N 140° 02.6' E | 高さ583m、円頂山で、孤立したように見える。 |
| ヨシ島 | 41° 26.6' N 140° 02.0' E | 館浜漁港の前面にある高さ6mの黒色岩で、島上に 灯台 があって良く見える。 |
| 折戸岬 | 41° 25.4' N 140° 04.6' E | 岬上は平らで、北北東約730mにNHKの無線塔(高さ約130m、頂部と中央部とに各2赤灯を点ずる)がある。 |
| 弁天島 | 41° 25.1' N 140° 05.4' E | 陸続きの小島で、島上に松前灯台がある。 |
| 白神岬 | 41° 23.8' N 140° 11.8' E | 高いがけの岬で、がけ上に無線塔(パラボラアンテナ)と数棟の建物があり、岬端に灯台がある。岬端の北方は高く約600mに高さ約180mの小丘がある。 |

25 **航行上の注意** 大埼～白神岬の距離岸0.8M以内にコンブの養殖施設がある。

松前湾 (41° 25' N 140° 08' E) (海図W11)

概要 弁天島とその東南東方約5Mの白神岬との間に約1.2M湾入する開湾である。この湾は南寄りの風にさらされ、うねりの侵入が甚だしい。湾内の距岸約0.3M以内には岩礁が散在している。また、弁天島の南

しかし、この錨地は岩盤質で、南東～南西風の強いときには注意を要する。
潮流の変化が激しく、同錨地付近では、強い南西流がみられる。

港湾施設

| 名 称 | 概 位 | 長 さ (m) | 水 深 (約m) | 係船能力 (D/W×隻) | 備 考 |
|---------|--------------------------|------------|-------------|-----------------|-----|
| 東 岸 壁 | 41° 25.3' N 140° 05.4' E | 145 | 3.5～5.5 | 2,000×2 | |
| -5.5m岸壁 | 41° 25.2' N 140° 05.5' E | 90 | 5.5 | - | |

上表のほか、北側及び西側の船だまり内に物揚場がある。

5

台風・津波対策 台風・津波等による海難事故を防止するため、渡島及び檜山地区台風・津波等対策協議会が設置されており、在港船舶などに対し、情報の伝達及び警戒体制・避難・入港制限の勧告・解除等の災害防止措置を指導している（問合わせ先：函館海上保安部 TEL 0138-42-5658）。

補給 少量の清水及び燃料油を補給できる。

10 医療施設

| 名 称 | 電 話 番 号 |
|----------|--------------|
| 松前町立松前病院 | 0139-42-2515 |

小 島 (41° 22' N 139° 48' E) (海図W10、W11)

概要 弁天島の西南西方約13Mにある小さな火山島で通称を**松前小島**という。島岸は絶壁で、わずかに島の北東端の**弁天ノ鼻**付近に礫浜がある。弁天ノ鼻の東側に**小島漁港（第4種漁港）**がある。島の周囲は概ね急深で、距岸0.5M以遠は水深20m以上である。

15

この島には人家が数戸あるが、夏季の漁期に使用するだけである。

霧 小島付近では、5～7月に来襲し、6月ごろが最も多い。4月上旬～5月上旬に南西の微風で発生するものは非常に濃く、高さは海上200m以下になるものがあり、局部的なものもあるが、概ね数日間で消散する。

20

目標

| 地 物 名 | 概 位 | 備 考 |
|-------|--------------------------|---|
| 3 峰 | 41° 21.4' N 139° 48.1' E | 島の中央部の火口原を囲んで、西、北、東の三方にほぼ同高の3峰があり、西方の峰がやや高く、高さ293mである。 |
| 灯 台 | 41° 21.8' N 139° 48.9' E | 灯台、島の南、西側からは見えない。 |
| 大ヒヤク | 41° 21.7' N 139° 47.1' E | 島の西端の西北西方約0.4Mにある高さ145mの円筒形の岩で、島との間に高さ約45m及び約35mの2岩がある。 |

大 島 (41° 31' N 139° 21' E) (海図W10、W11)

概要 小島の西北西方約21Mにあり、通称を**松前大島**という。ほとんど屈曲のない円形の火山島で、島の東岸に**大島漁港**がある。

25

島の周囲は極めて急深で、北岸は海岸線至近から水深200m以上となり、そのほかも距岸0.5～1Mで水深200m以上となる。

この島は無人島で、夏季の平穏なときに限り、漁民が東岸の**日方泊**、西岸の**ヤマセ泊**、南岸の**難波岬**など

| | | |
|-------|--------------------------|--|
| 帆掛岩 | 43° 34.3' N 146° 24.6' E | 高さ21m、奇形の突岩で、北西方又は南東方からは帆を張ったように見える。 |
| カブト島 | 43° 34.5' N 146° 25.8' E | 多楽島南島方にある4個の岩小島の総称で、その最北西の小島をローソク岩（高さ36m）といい、とがっていて遠望顕著。その南隣の島は高さ42m |
| カナクソ岩 | 43° 36.0' N 146° 25.9' E | 多楽島南島方にある互いに密接した3岩から成る。南岩は高さ26mで、東・西方向に抜ける大きな洞窟がある。 |

水晶島 (43° 26' N 145° 55' E) (海図W8)

概要 水晶島周辺には水上岩及び暗礁が多い。同島の北東端にあるトッカリ埼 (43° 27.3' N 145° 57.0' E) の北東～東方にかけての沖合には水深10m以下の暗礁が広がっており、この埼の北東方約1.2Mに水深4.5m、同じく東方約1.6Mには水深2.5mの暗礁がある。また、この埼と志発島の相泊埼とのほぼ中間にも水深2.8mの暗礁 (43° 30.0' N 146° 00.6' E) がある。

水晶島の南岸にある三角埼 (43° 25.5' N 145° 57.3' E) から大埼 (43° 25.0' N 145° 54.0' E) にかけての距岸約0.8M以内は岩礁が広がっており、三角埼の西南西方約1.5Mには飛礁 (43° 24.9' N 145° 55.4' E、洗岩の礁脈) がある。

水晶島の西岸には、弁才泊湾 (43° 26.3' N 145° 53.4' E) があり、西から南西にかけての開湾となっているが、湾奥のほぼ中央には距岸約0.5Mまで延びる礁脈があるので、湾内に進入するときは注意する必要がある。

弁才泊湾の南隣には、ボキセンベ湾 (43° 25.2' N 145° 54.0' E) がある。ボキセンベ湾は南西方へ開き、湾内の水深は8m以下、底質砂で錨かきが良い。北東寄りの風を避けることができるため、小型船の避泊に適している。同湾の湾奥中央部には険しいがけの小さな岬があり、その両側は礫浜だが湾奥北半分は砂浜になっている。湾口北西部側には、バラ島 (43° 25.3' N 145° 53.6' E、高さ4.9m) がある。

潮汐 水晶島付近における平均高高潮は1.3m、平均低低潮は0.3m、平均水面は0.90mである。

秋勇留島 (43° 22' N 146° 00' E) (海図W8)

概要 秋勇留島の北東端にある茂尻埼 (43° 22.7' N 146° 01.3' E) から北方へ約0.4M延びる礁脈があり、礁上には多くの水上岩がある。同島の西端にある穴間埼 (43° 22.0' N 145° 59.3' E) の西北西方約0.6Mに暗礁がある。また、穴間埼の南西方約0.3Mに水深3.2mの暗礁がある。

中ノ瀬 (43° 22' N 145° 57' E) は、穴間埼の西方約1.7Mにある険礁で、水深5m以下の浅所は東から西方向へ約0.8Mにかけて広がり、礁上に数個の干出岩がある。

ハナレ岩 (43° 20.4' N 146° 00.8' E、高さ1.2m) は、秋勇留島南端の南方約1.2Mにある水上岩で、同岩の北方約4Mに水深3.7mの暗礁がある。

水晶水道 (43° 25' N 145° 59' E) (海図W8)

概要 水晶島と勇留島との間の水道で、最狭部の幅は約3M、水晶島側に広い浅水地があり、また、所々に暗礁があるほか、水道内には、トッカリ埼の東方約1.6Mにある水深2.5mの暗礁及びその東方約3.1Mに水深4.8mの孤立礁などがあるので、小型船以外は通航を避けるほうがよい。

潮流 水晶水道内の潮流は、三角埼の南東方約2Mにおける観測結果によれば、低潮時の約3時間後から高潮時の約3時間後までは西方へ、高潮時の約3時間後から低潮時の約3時間後までは東方へ流れる。最

大流速は西流が 0.8kn、東流が 1.3kn であった。

勇留水道 (43° 23′ N 146° 02′ E) (海図W8)

5 **概要** 秋勇留島と勇留島との間の水道で、幅は 1.5Mあるが、両島側から水上岩及び礁脈が延びているので可航幅は 1M以内に狭められているものの、水道中央は深水で障害物はない。

勇留島 (43° 25′ N 146° 04′ E) (海図W8、W18)

概要 勇留島の周囲 0.5M以内は、険悪地になっているので、20m等深線内には入らないほうがよい。

10 トミトマリ埼(43° 25.9′ N 146° 02.6′ E)の東側にある小湾は、**トコマ港**(43° 25.4′ N 146° 03.5′ E)と呼ばれており、湾内は水深 5~12m、底質砂及び礫で、南寄りの風を防ぎ、小型船の避泊に適する。

トコマ港からさらにトコマ埼を隔てて東隣にある湾は、**トロモイ港**(43° 26′ N 146° 05′ E)と呼ばれており、錨泊区域はトコマ港よりも広い。湾口は幅約 900mであるが、東側は礁脈でふさがれているので、可航幅は狭められている。湾内の水深は 5~18mで、南寄りの風を防ぎ、小型船の避泊に適する。ただし、底質岩の所が多いので、湾内西部の底質砂の所を選んで錨泊するのがよい。

15

春刈島 (43° 25′ N 146° 10′ E) (海図W18)

概要 春刈島の北東方に 3 つの岩小島があり、そのうち最外端のものから北東方へ約 0.4Mにかけて延びる水深 1m未満の暗礁がある。また、春刈島の南西隣にある小島の南西端から西方へ約 0.4Mにかけて延びる礁脈があり、その外端に高さ 1.9mの孤立岩がある。

20

志発水道 (43° 25′ N 146° 07′ E) (海図W18)

概要 勇留島と志発島との間の水道で、可航幅はわずか 0.5Mであり、さらに潮流が不規則であるため、大型船の通航には適しない。また、この水道の北西方海域は、浅水地が広がっている。

25

志発島 (43° 30′ N 146° 08′ E) (海図W18、W38)

概要 志発島の北東端にある**三角埼**(43° 32.0′ N 146° 12.4′ E)から北東方へ約 1.5Mにかけて延びる礁脈がある。また、同島の南端にある**トマリ埼**(43° 27.5′ N 146° 07.0′ E)の東方約 1.2M、距岸約 0.6Mに最大直径約 600mの岩礁がある。さらに同島の西端にある相泊埼(43° 31.3′ N 146° 03.6′ E)の周辺にも岩礁が広がっており、南西方約 1Mに水深 0.9mの暗礁がある。

30

多楽水道 (43° 35′ N 146° 15′ E) (海図W38)

概要 志発島と多楽島との間にある水道で、幅は約 6Mと比較的広いが、志発島及び多楽島から延びる礁脈(水深 10m以浅)があり、可航域のほぼ中央には、水深 7.4mの所やその他水深 10mに達しない所が散在するだけでなく、海底は概ね岩礁で、そのうえ常にうねりが高く、両岸は低くて顕著な目標にも乏しいので、喫水の深い船舶は、夏季濃霧の起こりやすい時期には、この水道の通航を避けるほうがよい。

35

岸約0.3Mまで岩棚が延びている。

白糖湾のほぼ中央、距岸約1Mに一ノ字ノ瀬(44° 21.1' N 146° 25.0' E)がある。この瀬は東西の長さ約1,000mの岩脈で、いそ波が高いので識別しやすく、西端付近は干出する。

海水 流氷は南東～南風で来襲し、北東風及び南西風で流去する。

5 **錨地** 羅臼山とオカッポ岬(44° 16.6' N 146° 17.8' E)の一線(約054°)と、赤石鼻を089°に見る水深20m前後、底質砂の所は冬季の好錨地である。

西～北の風浪があるときには、渡海船泊(44° 19.6' N 146° 21.8' E)の前面(小型船の好泊地)でイカバノツ鼻の北東方約0.5M、水深12～20mの所が錨泊によい。

イカバノツ鼻の西側にある小湾は、底質細砂のため、小型船は好避泊地としてここを利用する。

10

国後水道(44° 27' N 146° 43' E) (海図W42、W45)

概要 国後水道は、国後島と択捉島を分離し、太平洋とオホーツク海とを結ぶ短い水道である。この水道は幅約12Mで水深が深く、水道中央部における200m等深線の幅は約5M、最大水深484mで、底質礫及び砂である。また、この水道は水道西側の安渡移矢岬付近の礁脈を除けば陰礁はない。

15 **潮流** 国後水道では、概ね上げ潮流は南方へ、下げ潮流は北方へ流れ、流速は他の水道に比べあまり強くない。

海流 夏季には強い海流が存在するため、沿岸付近を除く海域では、潮流を圧して終日南方へ流れている。

20 **海水** 国後水道における流氷は、概ね2月上旬に始まり4月末に終わるが、時には5月上旬まで残ることがある。通常、水道の東側は、氷が他の側に比べ少ない。

択捉島《エトロフトウ》(45° 04' N 147° 48' E) (海図W45、W1023)

25 **概要** 国後水道を隔てて国後島の北東方に並列する島(南西～北東方向の長さ約200km、幅約7～50km)で、島内各部にある高さ1,000m前後の山岳は絶好の航海目標になり、各岬とともに識別しやすい。また、島の周囲は概ね急深で、距岸1.5M以遠の沖合には陰礁がない。

この島の沿岸には、風向に応じて大型船舶が利用できる錨地がある。これらの錨地は、南東岸の単冠湾、東岸の茂世路湾、北西岸の薬取錨地、別飛錨地、紗万部錨地、紗那湾、留別湾、振別錨地、老門《オイト》湾、宇多須都《ウタスツ》湾、内保湾及び丹根萌《タンネモエ》湾であるが、いずれも湾口が大きく開いているため、沖合からのうねりを避けることはできない。

30 択捉島とその北東方のOstrov Urupとの間に択捉海峡がある。

気象 択捉島沿岸では、10月下旬から翌年4月下旬までは北西風が多く、夏季は概ね南東風が多く、9月になると、時々北西風が吹くようになり、10月上旬からは次第に北西風が多くなる。

旧紗那測候所の1904年～1940年までの統計によれば、この島で一年中暴風の吹かない時期はなく、その最多の月は12月で、1月がこれに次ぎ、最少は7月である。

35 択捉島の降雨は、年間を通じて非常に少ない。6月本州が梅雨のころでもこの島は晴天の穏やかな日が多く、10月に入って初めて気候不順となり、降雨が多くなる。

降雪 降雪は10月に始まり翌年5月に終わるが、強風のため、各地とも谷間やくぼ地を除くほか、積雪は少ない。そして4月下旬から解け始め、5月下旬にすべて解け終わるが、山頂や谷間付近は夏季でも残雪

| | | |
|------------------|--------------------------|---|
| 珊瑚埼 | 45° 07.1' N 147° 30.6' E | 埼端にウトロチップコシ（高さ5.6mの岩、東・西方向から顕著）がある。 |
| 野斗路岬 | 45° 06.6' N 147° 29.8' E | 黒い岩角の岬で標柱がある。岬端付近にある野斗路島（高さ25mの顕著な巨岩）との間は、岩棚で続いている。 |
| レイラ埼 | 45° 01.6' N 147° 30.8' E | 断がいの埼 |
| 恩根登 《オンネノボリ》山 | 44° 52.4' N 147° 27.4' E | 高さ1,426mの山で、頂は著しくとがっている。 |
| 西単冠山 | 44° 50.4' N 147° 20.7' E | 高さ1,566m、択捉島の最高峰。成層火山で、頂は丸い。 |
| 阿登佐 《アトサ》岳 | 44° 48.4' N 147° 07.9' E | 小半島の頂を成す高さ1,206mの孤立した成層火山で、遠望顕著 |
| 萌消島 | 44° 39.1' N 146° 58.6' E | 萌消湾湾口のほぼ中央にある高さ168mの島 |
| ベルタルベ山 | 44° 27.7' N 146° 55.9' E | 高さ1,221mで、三方は海から、北東側は地峡部からそびえ遠望顕著 |

錨地 この沿岸には大小多数の湾及び錨地があるが、内保湾が最も良い泊地である。しかし、北西風時の避泊地は全くない。

5 紗那《シャナ》湾 (45° 15' N 147° 50' E)

概要 散布半島西岸基部にある湾で、台場ノ鼻 (45° 14.2' N 147° 52.1' E) とその西南西方約2Mのピシモイ鼻 (45° 13.1' N 147° 49.5' E) との間に湾入し、北東～南風時には避泊できるが、冬季の北西風時には利用できず、散布半島東側の紗万部錨地に錨泊しなければならない。

10 紗那川河口 (45° 13.7' N 147° 52.3' E) から西方約0.5M間は、水深5.4m以下の暗礁が広がっている。同河口の西方約0.4Mに八丁瀬 (45° 13.8' N 147° 51.9' E) が、また、同河口の南南西方約1.6Mの岬から北方へ約0.6M伸びている岩礁があり、外端付近の水深は8.6mである。この岬は、常にいそ波が高いため視認しやすい。

潮汐 この錨地における平均高高潮は1.1m、平均低低潮は0.3m、平均水面は0.67mである。

15 **海水** 通常1月下旬から湾浜沿いで結氷が始まり、2月下旬から西～北西風で来襲する流氷とともに、次第にその区域を拡大して一面の氷原となることが多い。この流氷は東～南風で湾外に流去し、4月下旬になると全て融解する。

目標

| 地物名 | 概位 | 備考 |
|---------|--------------------------|-------------|
| 高さ31mの岬 | 45° 13.2' N 147° 51.7' E | 数基のパラボラアンテナ |

20 **錨地** イカバノツ埼 (45° 15.9' N 147° 52.0' E) とその南方約1.8Mの台場ノ鼻 (45° 14.2' N 147° 52.1' E) との間は、北東～南西風時には避泊できる。底質は岩で錨かきは良くない。東浜は、暗礁が海岸沿いにある。

台場ノ鼻を056° 0.6Mに見る水深12.8m、底質砂の所に得られる。

25 留別《ルベツ》湾 (45° 06' N 147° 39' E)

概要 紗那湾の南西方約12Mにある湾で、シレット岬 (45° 08.5' N 147° 41.6' E) とその西南西方約5.8Mの戸渡《トワタラ》埼 (45° 06.1' N 147° 34.4' E) との間に湾入し、東～南風時に避泊できる。しかし、底質は岩で、錨かきが悪いため注意を要する。

湾浜には岩礁があるが、10m等深線の外側には陰礁はない。

気象 冬季は北西風、春、夏季は東～南風が卓越し、夏季は通常南東風が強く吹いた後、吹き返しがある。また、南東風は、単冠湾から続く低地をとおって吹き込むため、強くなることもあり錨泊できないこともある。秋季は主に、東風が吹き荒天の多い季節である。

5 **霧** 海霧は3月下旬～9月にかけて発生し、6～8月がその最盛期であるが、単冠湾に比べると少ない。

海氷 1902、1903年の観測によれば、流氷は西～北西風で来襲し、東～南風で湾外へ流去した。最も早い初来日は1月12日、最も遅い終去日は5月30日である。流氷の水面上の高さは平均0.2～1.5mであるが、3mに達する大氷塊もある。

目標

| 地物名 | 概位 | 備考 |
|---------|--------------------------|---|
| イソパラウリ鼻 | 45° 11.6' N 147° 44.0' E | 鼻上至近に高さ23mの尖岩があり、北東・南西方向からは顕著 |
| 登山 | 45° 09.6' N 147° 46.0' E | 高さ566m |
| 珊瑚埼 | 45° 07.1' N 147° 30.6' E | 埼端にウトロチップコシ（高さ5.6mの岩、東・西方向から顕著）がある。 |
| 野斗路岬 | 45° 06.6' N 147° 29.8' E | 黒い岩角の岬で標柱がある。岬端付近にある野斗路島（高さ25mの顕著な巨岩）との間は、岩棚で続いている。 |
| 戸渡岩 | 45° 05.6' N 147° 34.5' E | 2岩から成り、戸渡埼の南方約0.4Mに位置している。 |

10

振別《フレベツ》錨地 (45° 05' N 147° 30' E)

概要 野斗路岬と南東方約2.8Mの岬との間にある湾で、北東～南東風時には小型船が避泊できる。湾内南部は、岩礁が西へ約0.2M広がっており、その北端に八丁島 (45° 04.5' N 147° 31.7' E、高さ7mの黒い岩島で顕著) とその北方約220mの干出岩 (干出0.3m) がある。

15

老門《オイト》湾 (45° 01' N 147° 30' E)

概要 ルイラ埼の南方約1Mにある小湾で、アンバシラレ鼻 (45° 00.5' N 147° 30.9' E) アルウトル埼 (44° 59.8' N 147° 30.4' E) との間に湾入し、北東～南風時には小型船が避泊できる。湾奥中央付近に、暗礁があるので注意を要する。

20

宇多須都《ウタスツ》湾 (44° 50' N 147° 13' E)

概要 阿登佐岳のある小半島の東側にある湾で、小半島北端のイトピリカオイ (44° 49.9' N 147° 08.0' E) とその東北東方約6.5Mのトッカリモイ (44° 52.5' N 147° 16.6' E) との間に湾入している。湾奥の前面に小型船が錨泊することがあるが、湾の内方は低地が南東岸まで続いているため、南東～南西風が強く吹き、また、南東岸から濃霧が来襲することが多いので注意を要する。

25

内保《ナイボ》湾 (44° 42' N 147° 07' E)

概要 阿登佐岳のある小半島の南西側にある湾で、この小半島西端のポロノツ鼻 (44° 48.8' N 147° 05.9' E) とその南南西方約10Mのカバラ岬 (44° 39.7' N 147° 00.7' E) との間に湾入している。湾内の底質は概ね細砂で、北～南風時には避泊できる。

30

ポロノツ鼻の南方約5Mに最小水深11.4mの孤立礁があり、穏やかなときには視認しにくい、西風の強吹時にはしばしばいそ波が高くなるので視認できる。

目標

| 地物名 | 概位 | 備考 |
|-------------------|--------------------------|--|
| ベルタルベ山 | 44° 27.7' N 146° 55.9' E | 高さ1,221m、遠望顕著 |
| シカラガラシ岬 | 44° 25.6' N 146° 56.9' E | ベルタルベ山の南側突出部に当たる薄赤色をした高いがけ |
| ブッソー岬 | 44° 34.2' N 147° 12.2' E | 岬に接して岩小島がある。岬の西方約2kmのがけ上にある滝は顕著 |
| ウルモンベツ岬 | 44° 36.0' N 147° 15.1' E | |
| 鳥島 | 44° 36.4' N 147° 16.0' E | 5個の群岩で、最高岩の高さは51m、遠望顕著 |
| 西単冠 《ニシヒトカップ》山 | 44° 50.4' N 147° 20.7' E | 高さ1,566m、択捉島の最高峰。成層火山で頂は丸い。 |
| 恩根登山 | 44° 52.4' N 147° 27.4' E | 高さ1,426mで、尾根はここから南東方へ向かって降下しており、頂の南東方約9.8kmグヤ岬付近の海岸で、険しいがけとなって海に面している。このがけの南・北両側の海岸は低い台地のため、このがけを単冠湾の湾口西角と誤認することがあるので注意を要する。 |
| ウエンシリ岬 | 44° 55.3' N 147° 39.2' E | 単冠湾の湾口西角を成す岬で灯台がある。 |
| 礼文尻岬 | 44° 56.8' N 147° 47.1' E | 単冠湾の湾口東角を成す高く険しいがけの岬で、岬端付近に水上岩がある。 |
| 焼山 | 45° 00.6' N 147° 52.3' E | 高さ1,158mで、時々白煙を噴出している。頂はのこぎりの歯の形をしており、東・南両側に赤いがけがある。遠望顕著 |
| 小田萌山 | 45° 01.6' N 147° 55.2' E | 高さ1,208mの成層火山で、遠望顕著 |
| 眼鏡岩 | 45° 07.3' N 148° 08.3' E | 距岸0.6M以内にある高さ47mの群岩で、頂部に穴の開いている岩がある。 |
| 磯谷岬 | 45° 08.3' N 148° 09.7' E | 岩の岬で、南方から望めば孤立した大きなビルディングのように見える。 |
| 乙知志《オッチシ》岬 | 45° 11.0' N 148° 15.7' E | 険しいがけで、沖合からは島のように見える。 |
| 留茶留山 | 45° 14.6' N 148° 20.4' E | 高さ437mの起伏のない円い山で、南方から望むと顕著 |
| 年瑠璃《トシルリ》岬 | 45° 15.4' N 148° 29.7' E | 低い平坦な岬で、岬端から南方へ約0.6M延びる礁脈があり、その上に小岩島が並ぶ。北東・南西方面からは顕著 |
| 潮波鼻 | 45° 20.1' N 148° 50.3' E | 択捉島東岸南端の険しいがけの鼻で、鼻端付近に水上岩がある。 |
| 硫黄岳 | 45° 23.2' N 148° 48.8' E | 高さ991m、常に白煙を噴出し、山肌は硫黄のため黄色くなっている。 |
| 茂世路岳 | 45° 23.3' N 148° 50.3' E | 高さ1,124mの鋭頂で、硫黄岳との間に中岳（高さ1,113m）がある。 |

避泊地 単冠湾で西～北～東風を避けられるほか、シカラガラシ岬の北東方約11Mの六甲山前面海域で北風時に避泊できる。しかし、南風時の避泊地はない。

5

単冠《ヒトカップ》湾 (44° 57' N 147° 41' E)

概要 択捉島南東岸の中央付近で、ウエンシリ岬と礼文尻岬との間にある湾で、東、西両側は高い山で囲まれ西又は東風時に錨泊できるが、南風の強いときには風浪が湾内に侵入する。湾内東側は、礼文尻岬から続くがけで、その他は砂浜又は礫浜である。

10 ウエンシリ岬の周囲は、距岸約0.3Mまで海草に覆われた岩礁が広く延びている。

気象 5～8月は南寄りの風が吹き、9月～翌年4月は北寄りの風が優勢になるが、2月上旬～3月中旬の間に時々南東風が吹き、湾内が大時化となることがある。湾内の波浪は南風では小さいが、東寄りになると大きくなる。4月は晴天が多く、5月は雨の日が多いが降水量は少ない。

降雪 12月中旬～翌年3月中旬は雪が多く、積雪は90cmに及ぶ。